



★別冊エースファイブコミックス★

あいさい  
きんせう  
めす  
ほうし

# 愛妻強制生奉仕

成年  
コミック

# 角雨和八

# 愛妻強制牝奉仕

## 目次

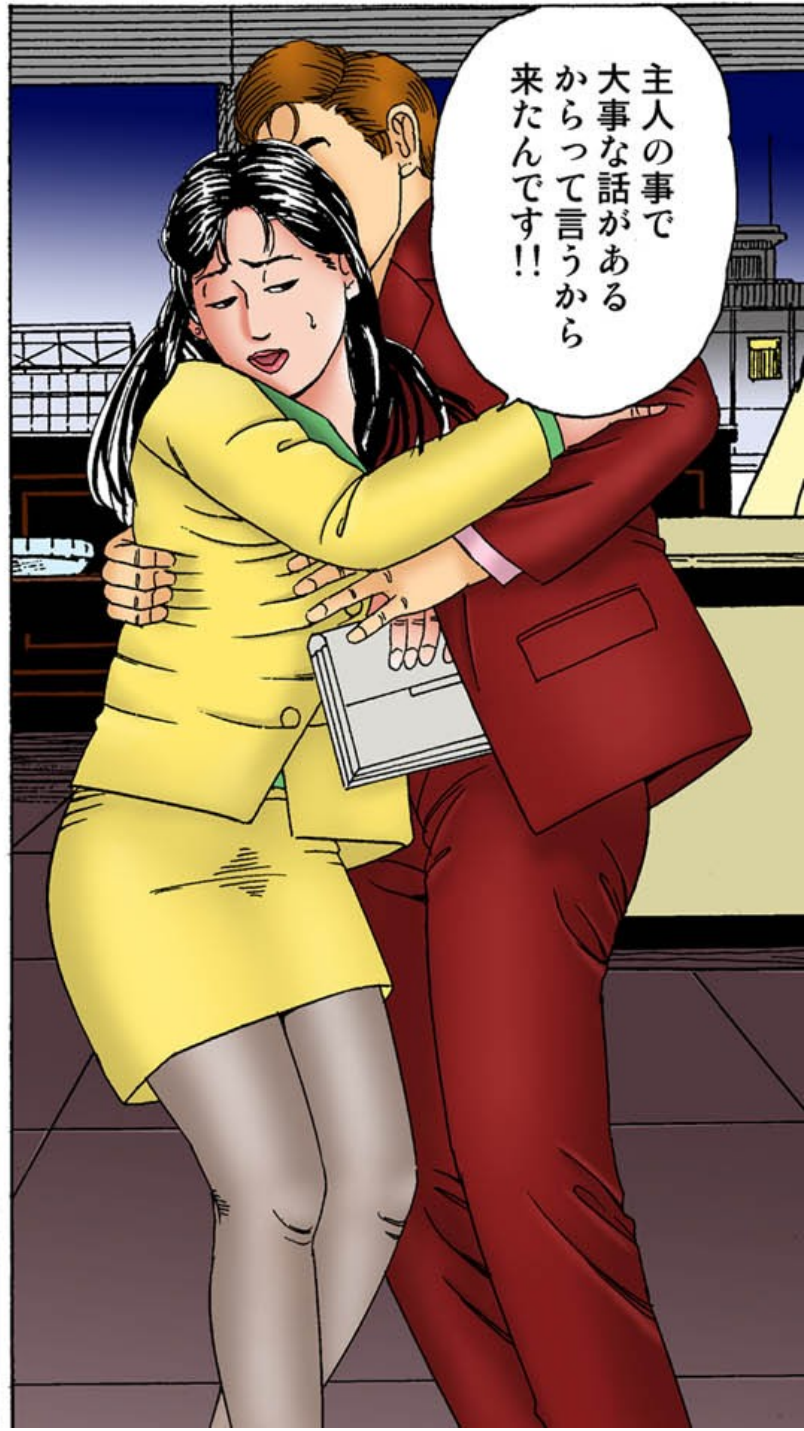


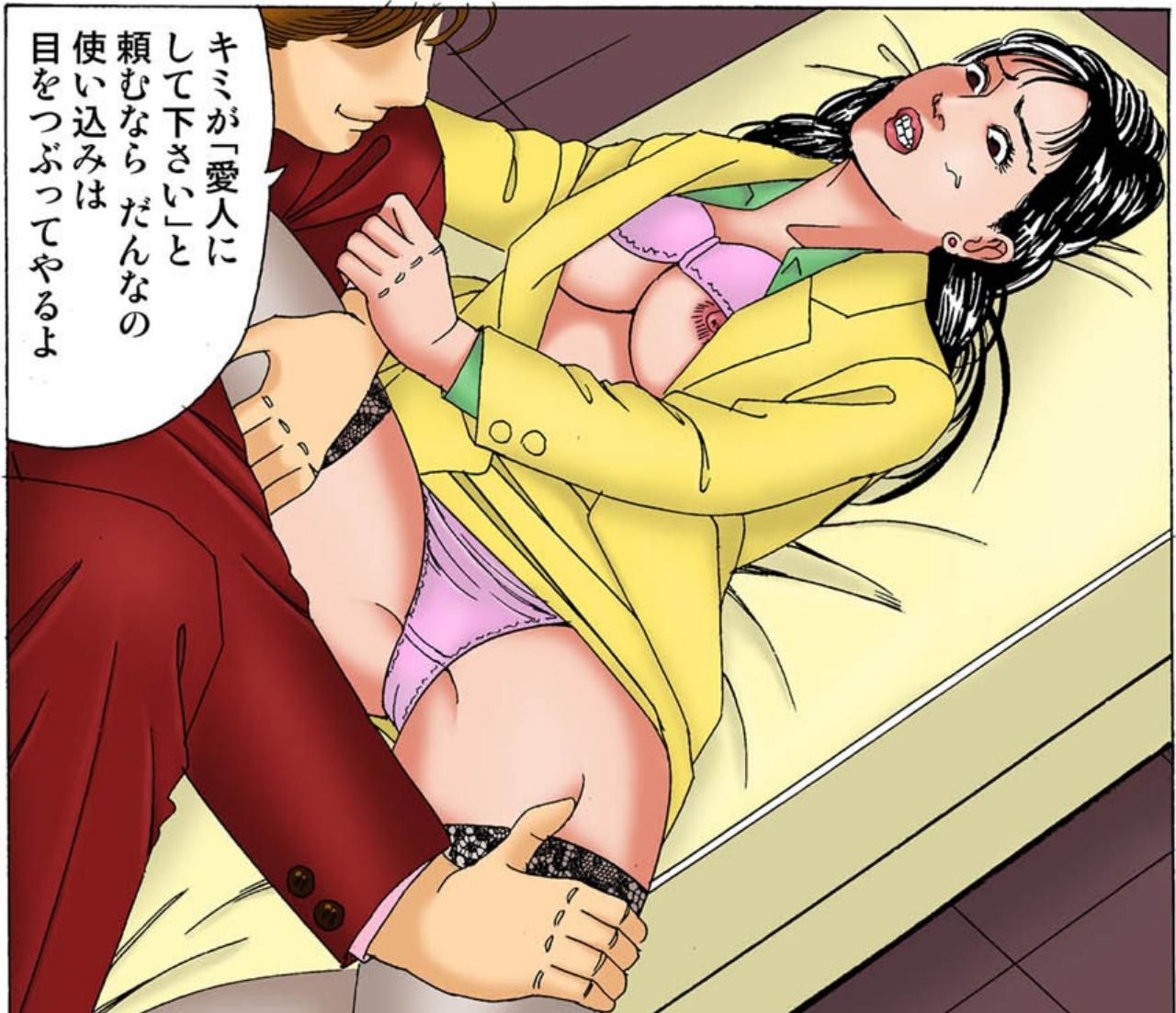
第1話	墮とされた淫獄	003
第2話	接待用特別秘書	027
第3話	肛虐秘書	051
第4話	中出し責め	075
第5話	恥辱の出張接待	099
第6話	最後の強制奉仕	123



第1話

墮とされた淫獄







そんな事  
お受け出来ません

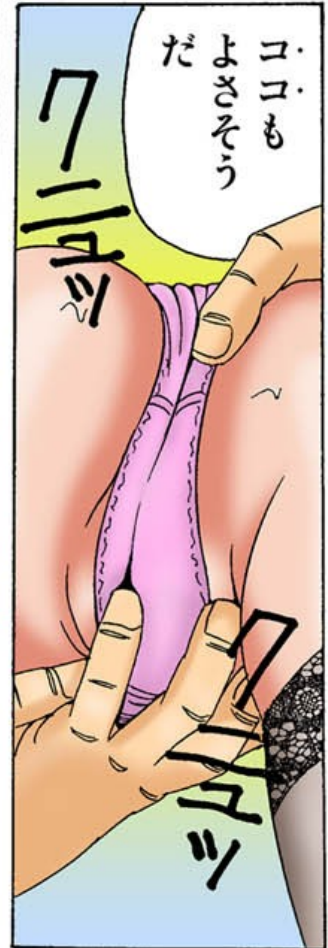
こんないい条件  
ないと  
思うけどなあ

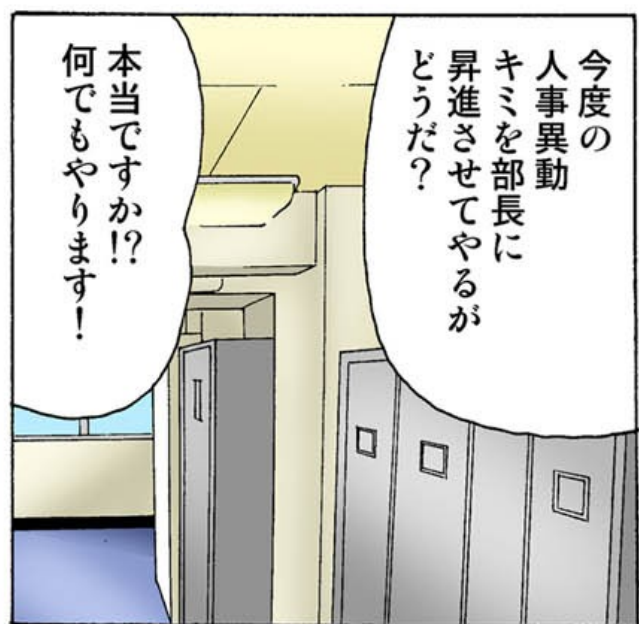
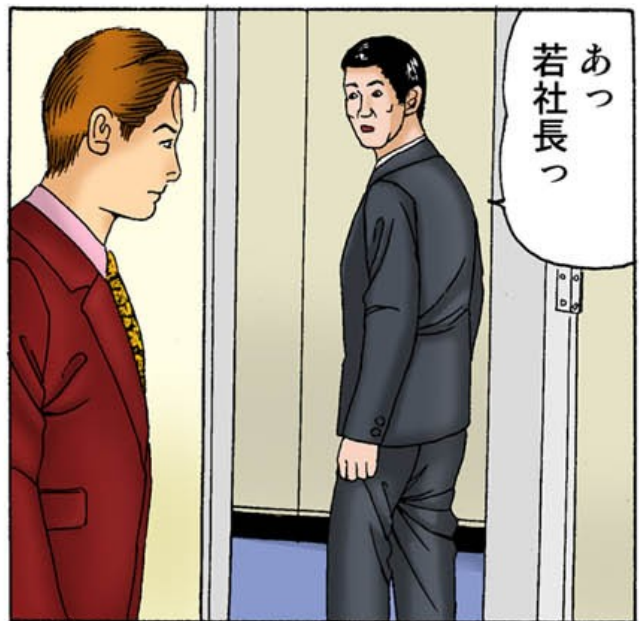


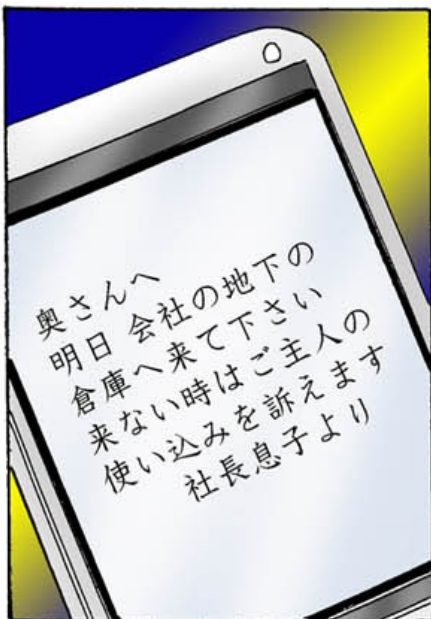
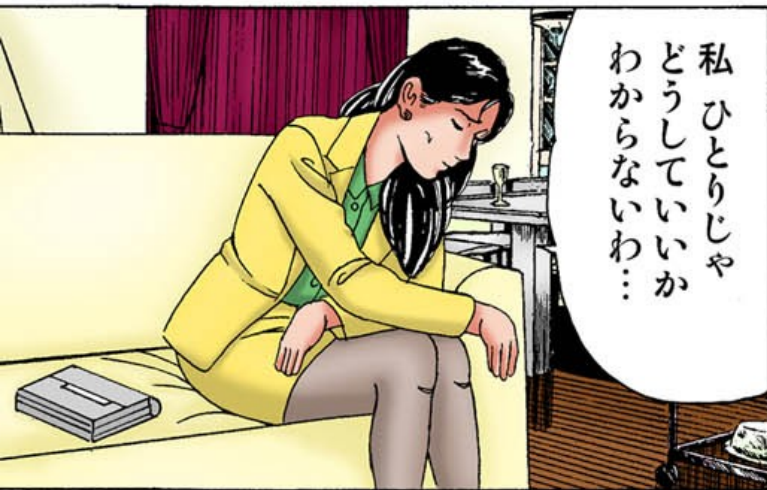
思った通り  
ボク好みの  
体をしているな



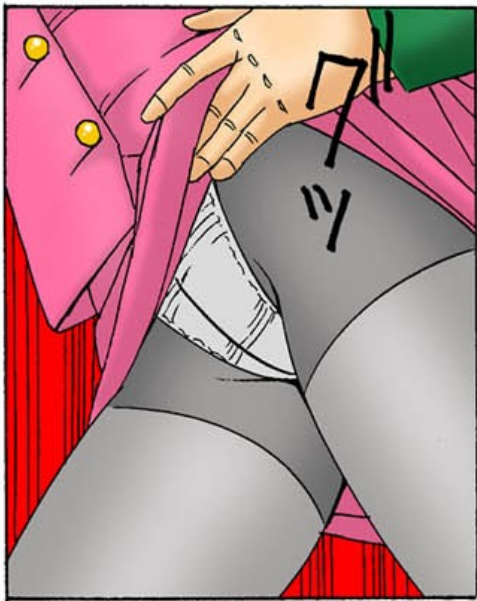
ボクの愛人に  
なればこうして  
毎日可愛がって  
もらえるんだよ









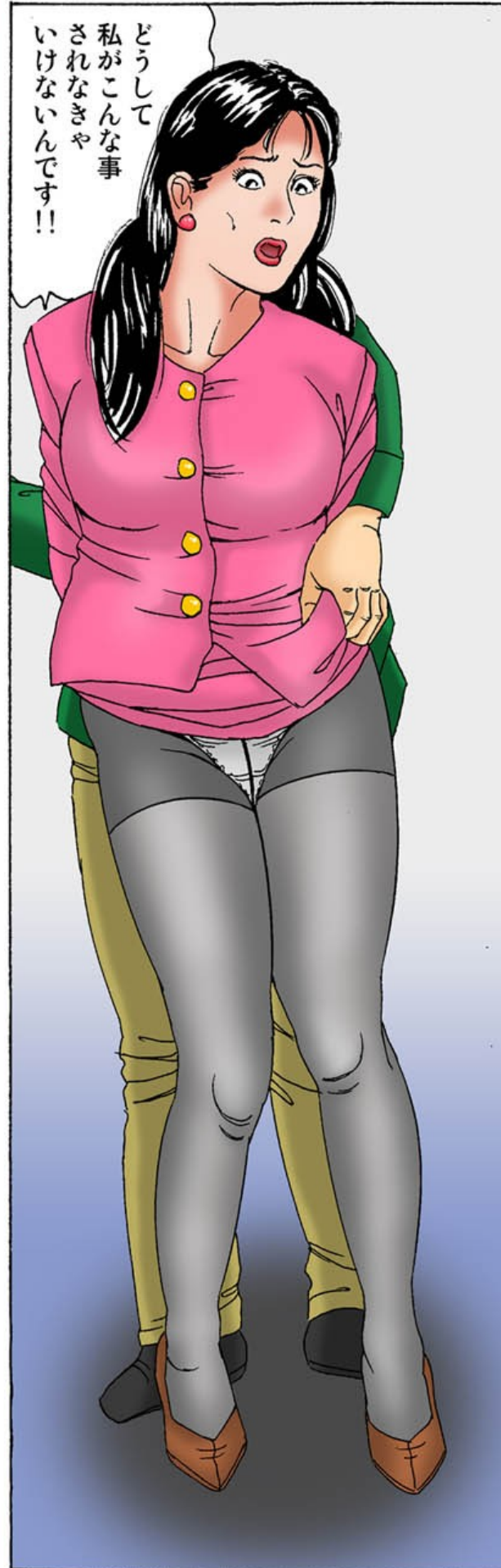


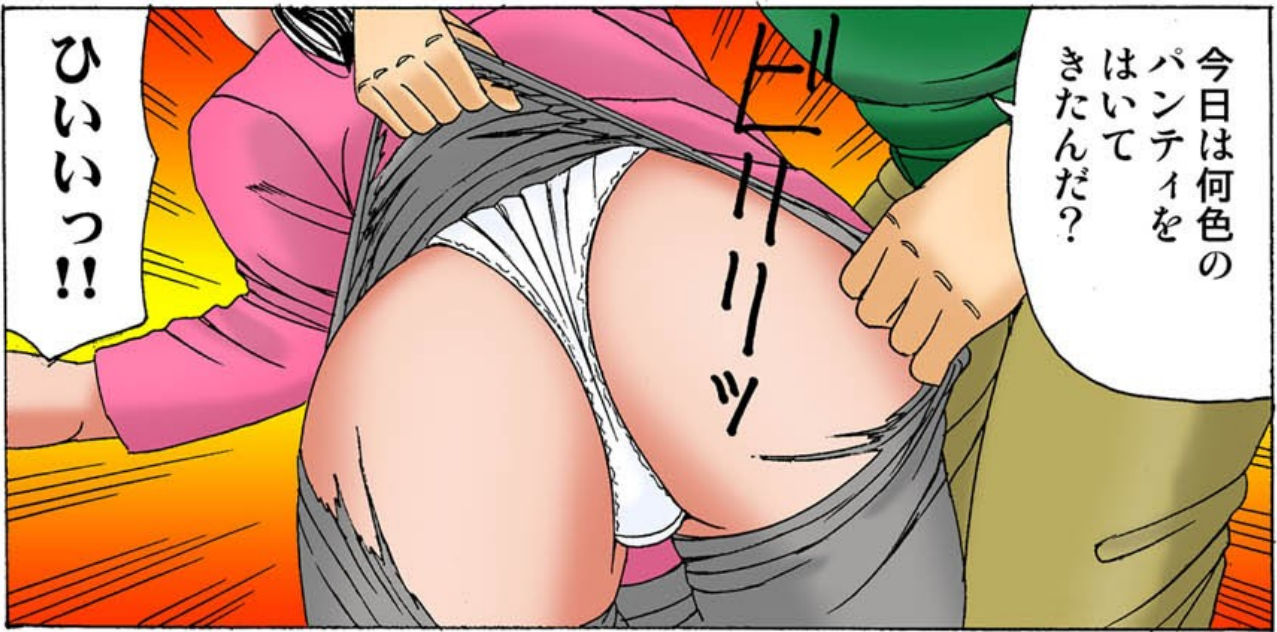
見すごす  
わけには  
いきませんよ

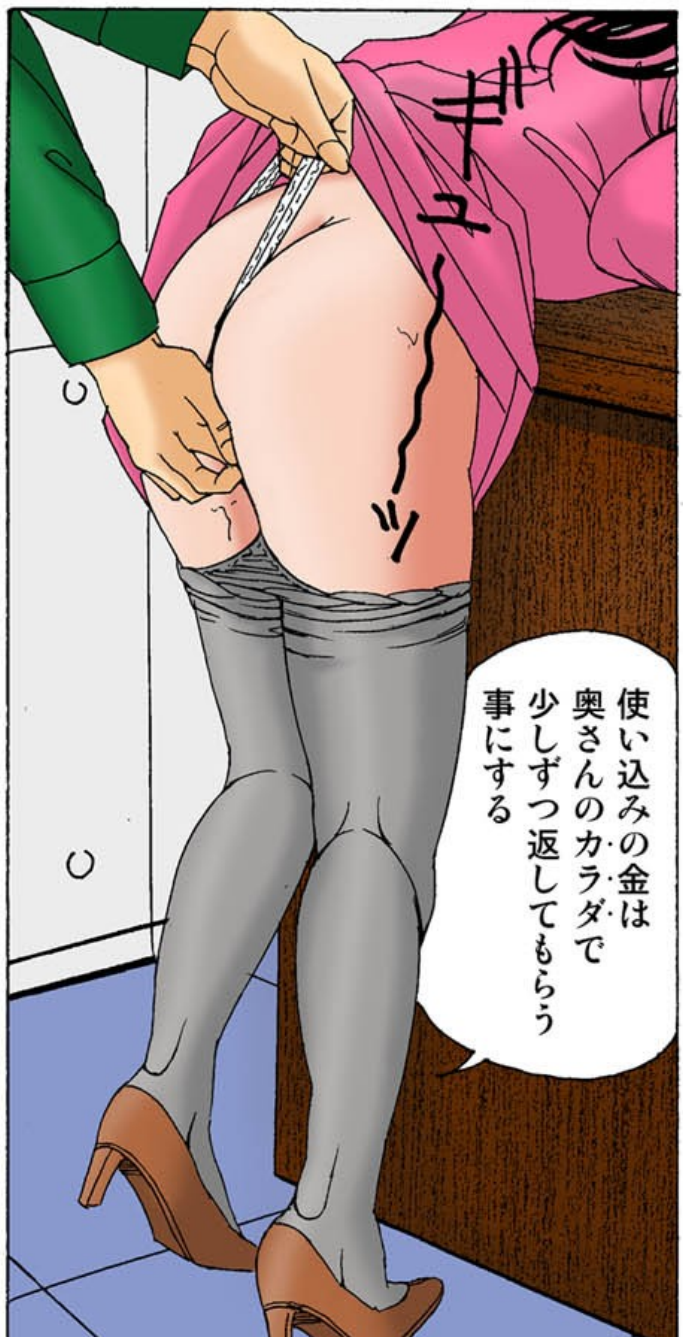
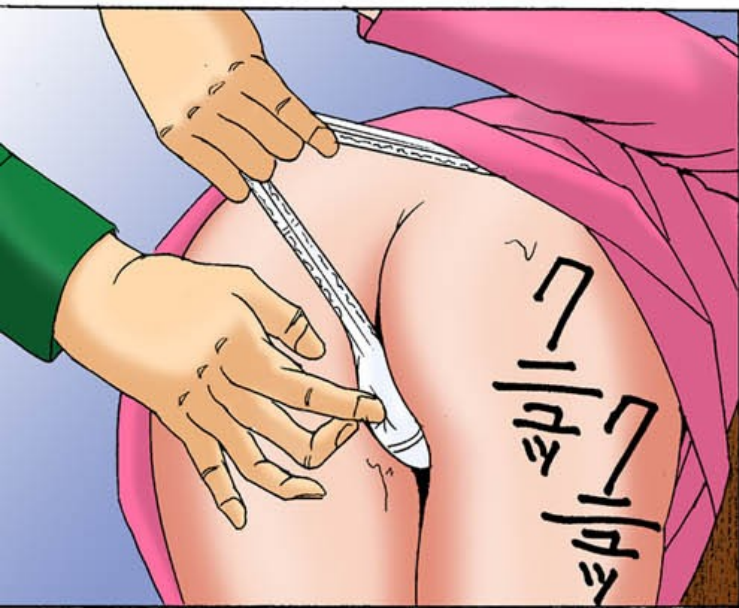
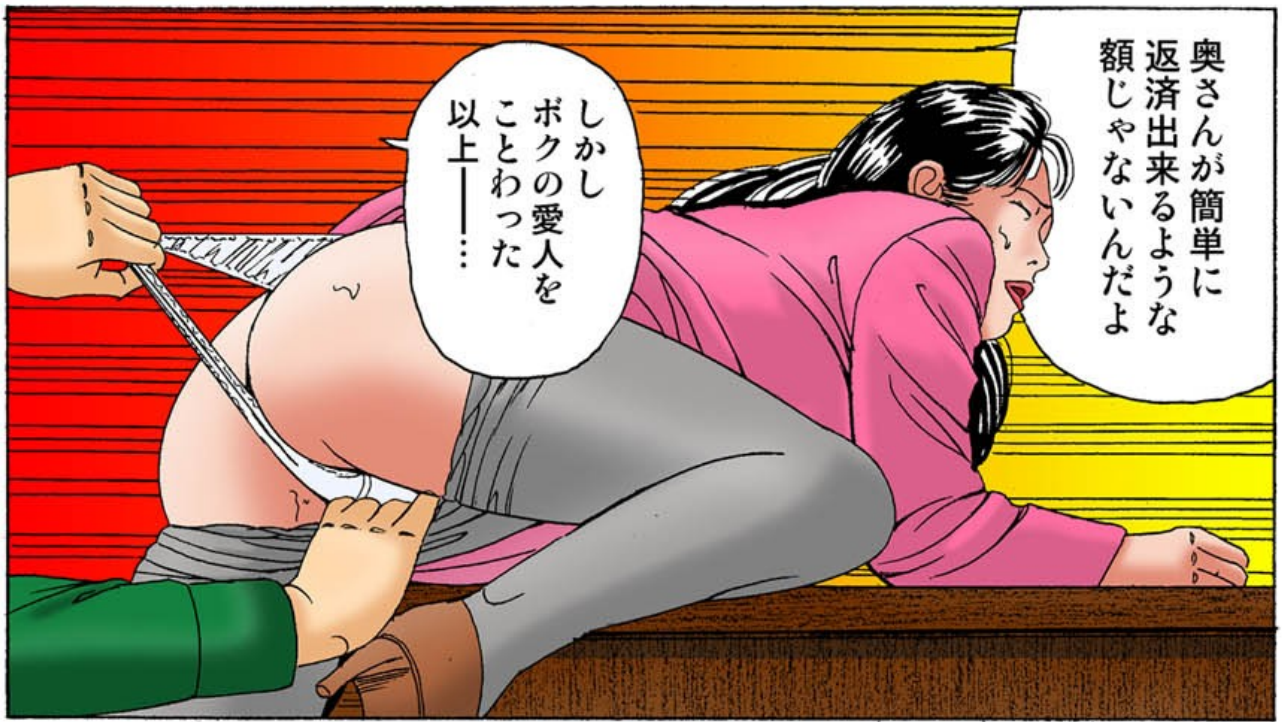


やめて下さい!!

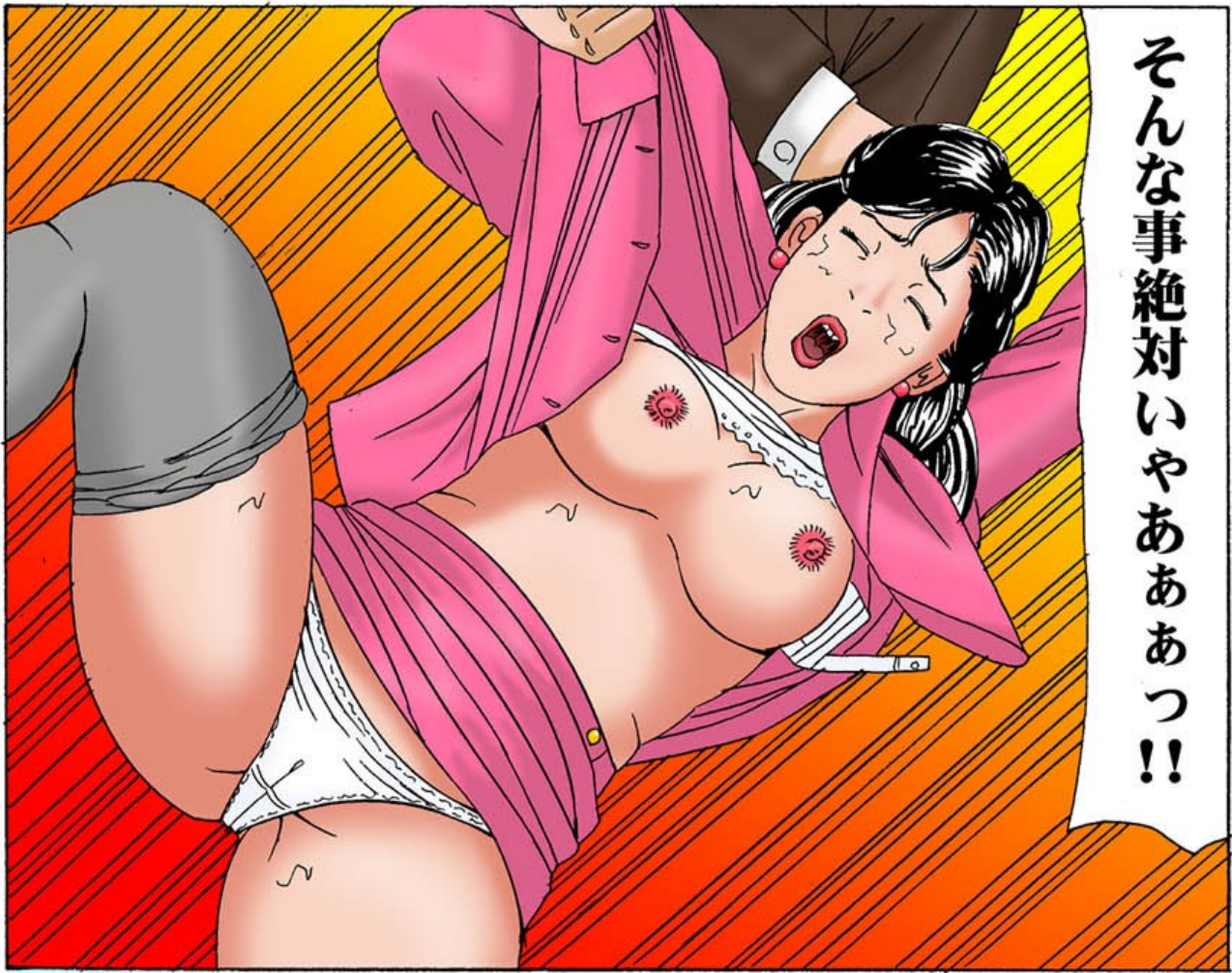
今度若社長の  
言いつけに逆らったら  
ご主人の使い込みを  
警察に届出ます  
からね



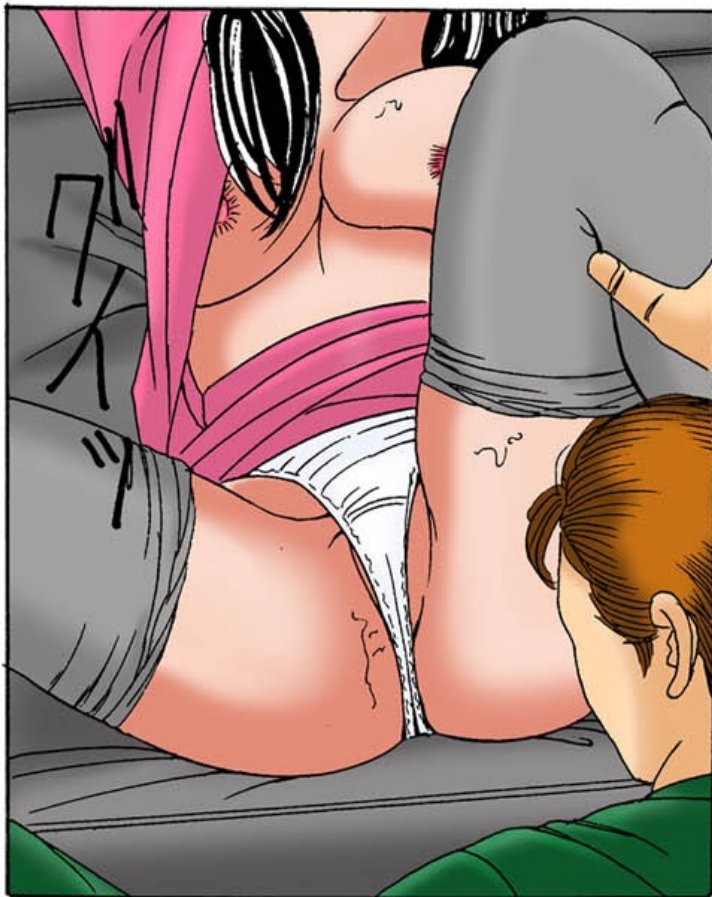








そんな事絶対いやあああつ!!



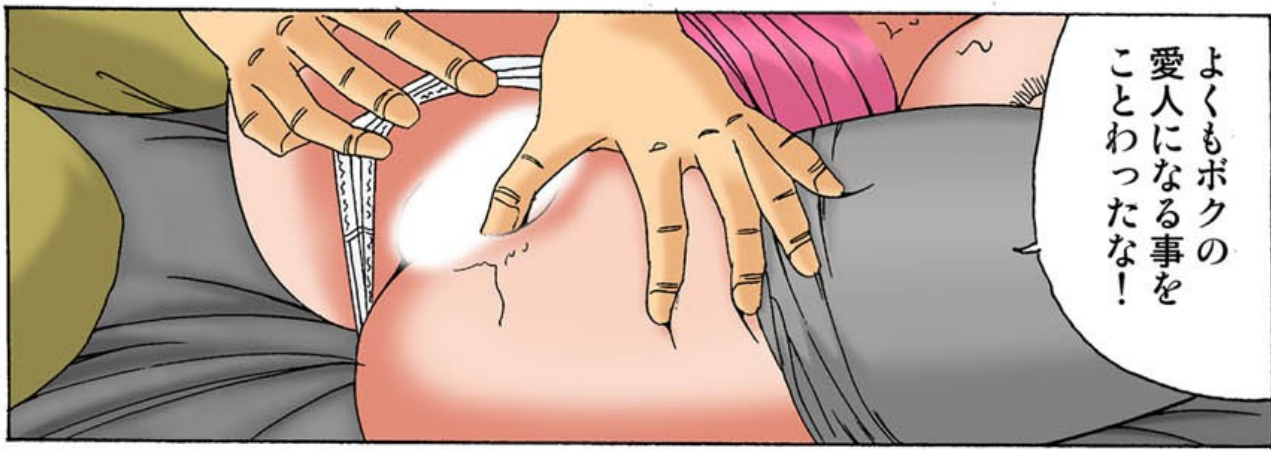
お願いっ…  
助けて下さい…!!

ソファの上  
のって  
若社長に  
奥さんのアソコを  
お見せするんだ

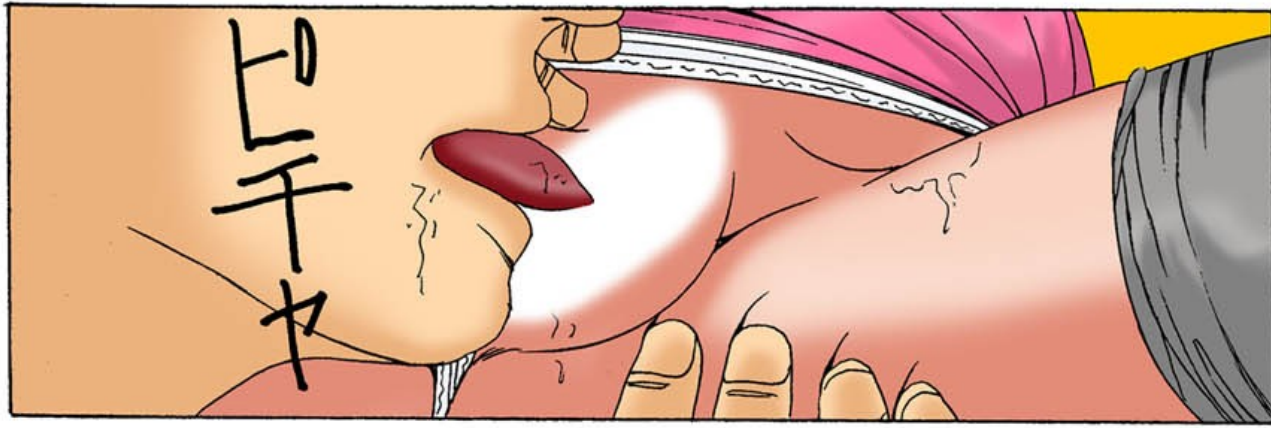


おとお：  
パンティから  
毛がはみ出てるのが  
たまらないなあ

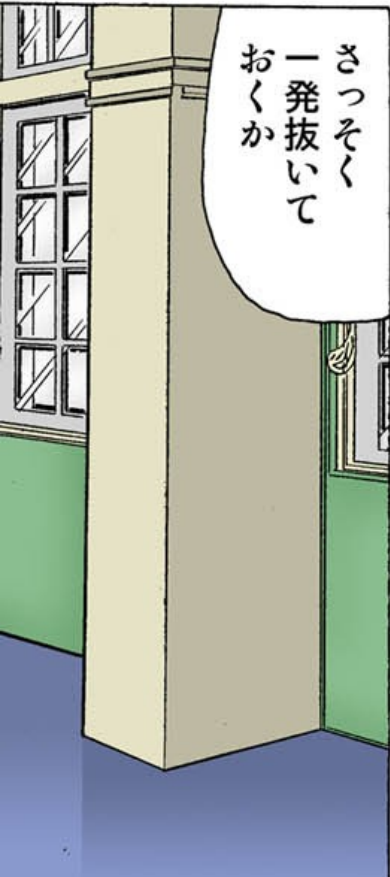
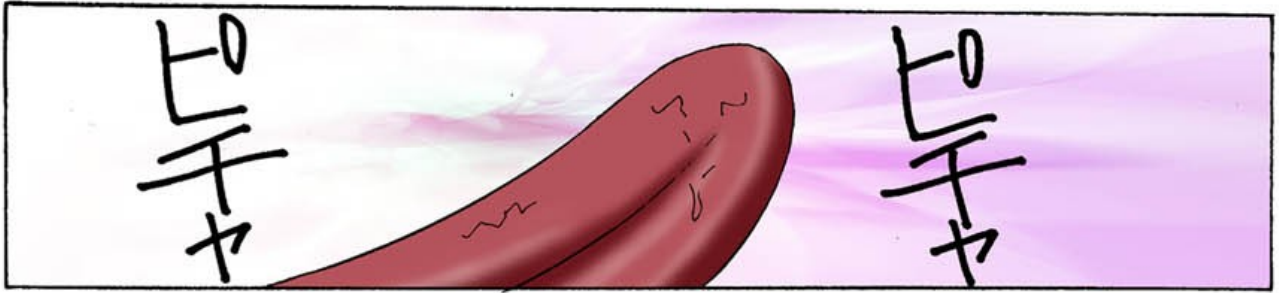
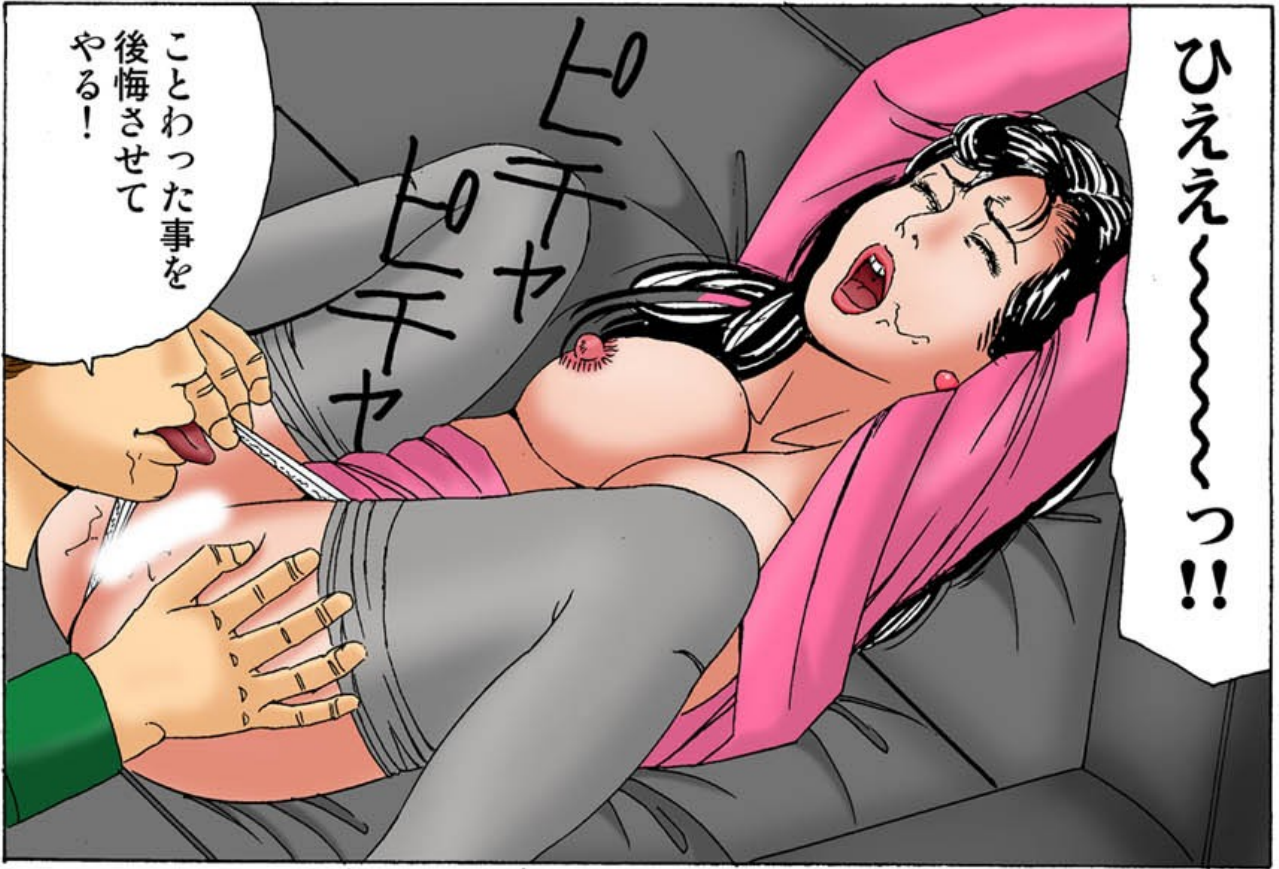
ひえええええ……  
見ないでええ!!



よくもボクの  
愛人になる事を  
ことわったな!



ヒキヤ







犯して下さい……

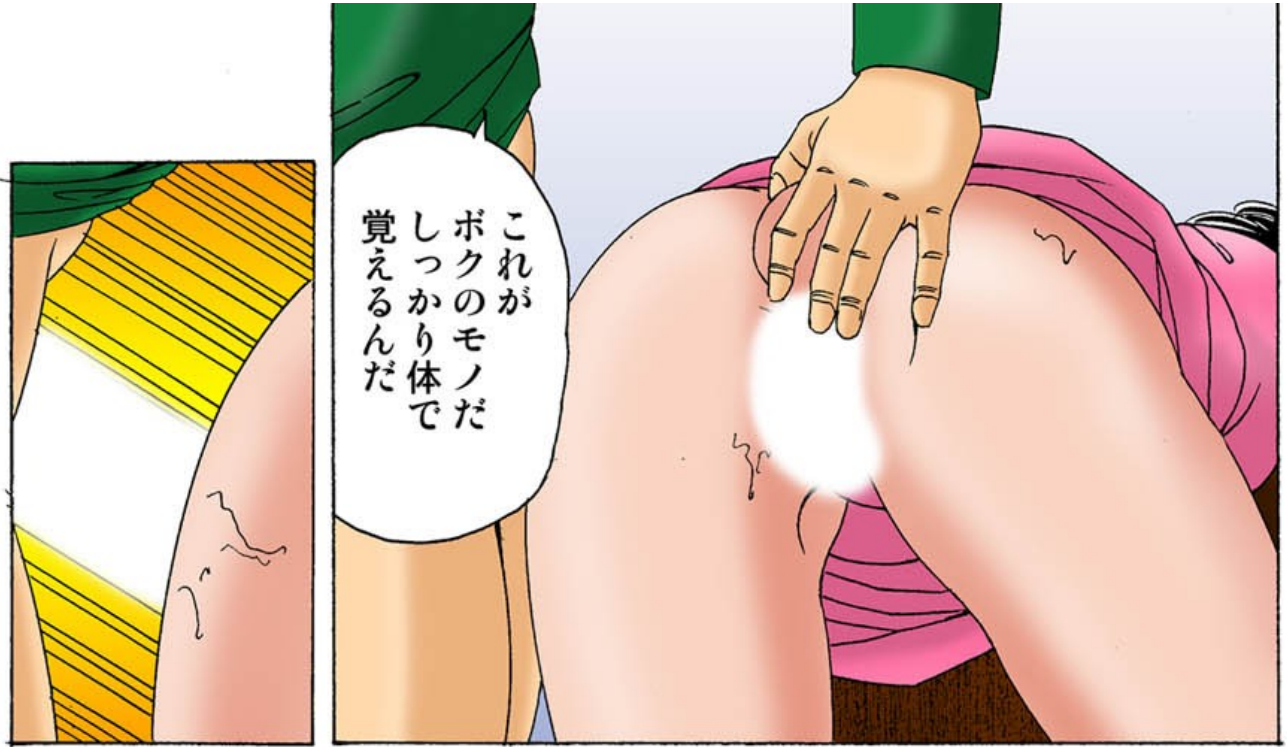
ううう……



調教は  
最初が  
肝心だからな



若社長  
性奴隷の  
頼みです  
思いつき  
犯してやっ  
て下さい

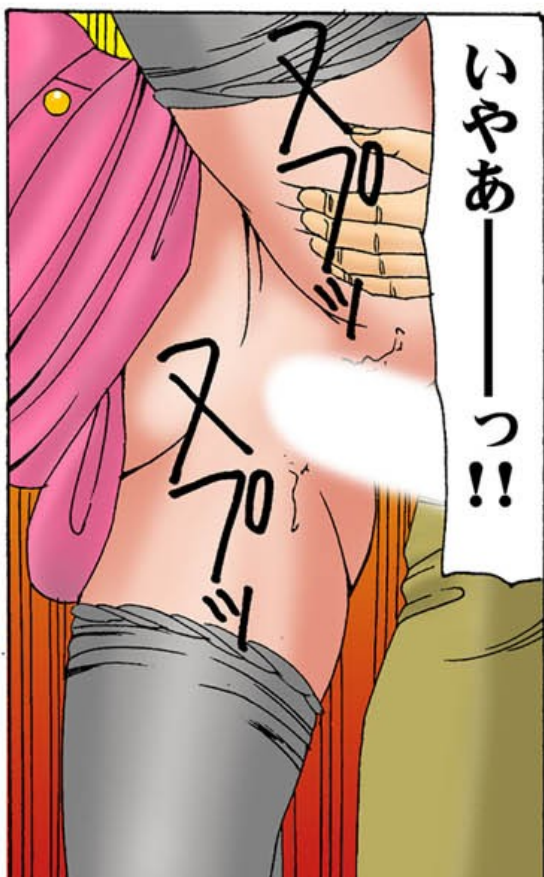


これが  
ボクのモノだ  
しっかり体で  
覚えるんだ

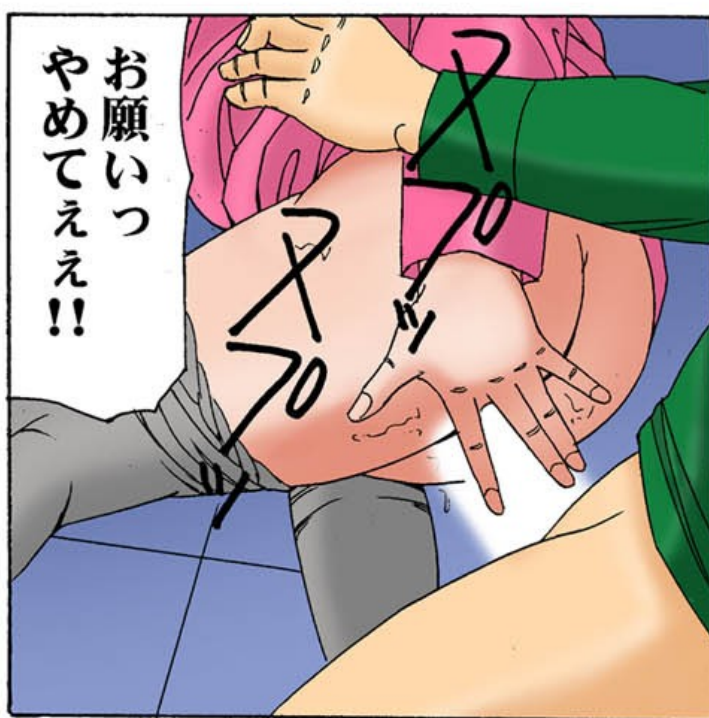
やめてええ  
——  
っ!!



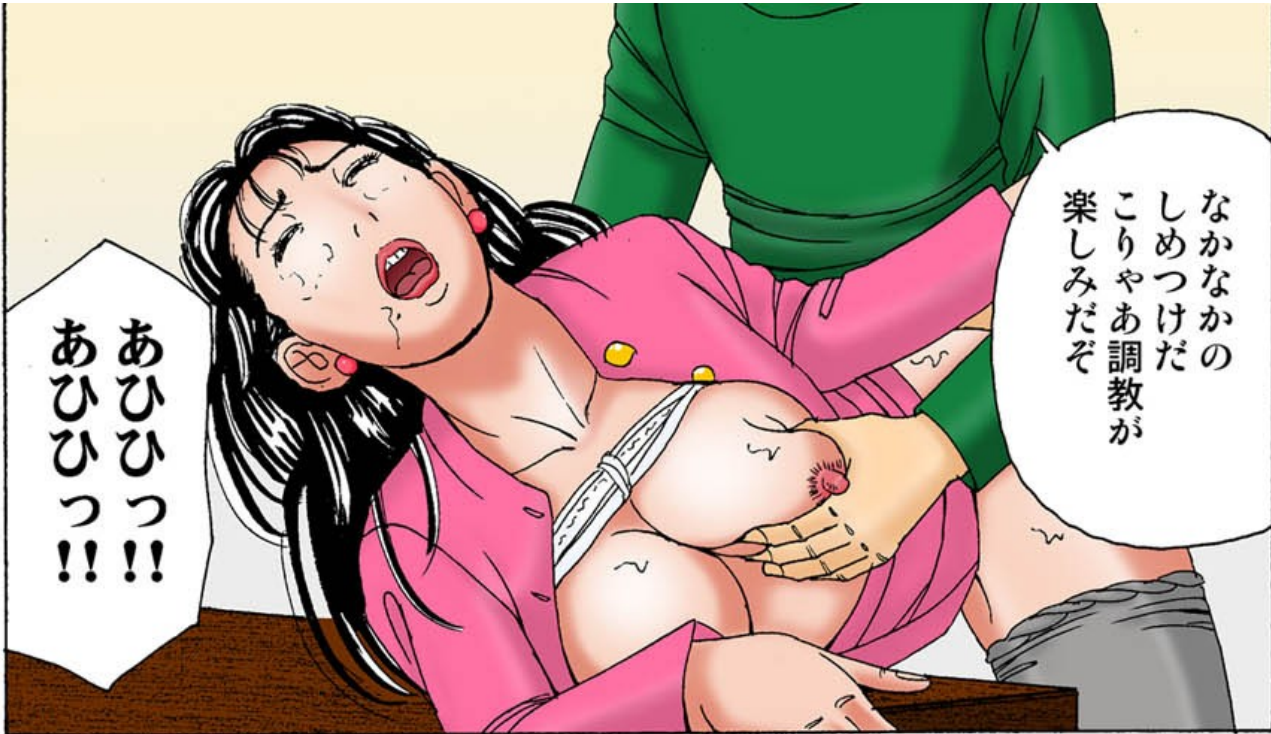
ああダメ〜！こんなイヤあ〜っ！！



いやあ——っ！！



お願いっ  
やめてええ！！





お願いっ!!  
もう許してエ~~~~ッ!!

うげげっ!!

うげげっ!!

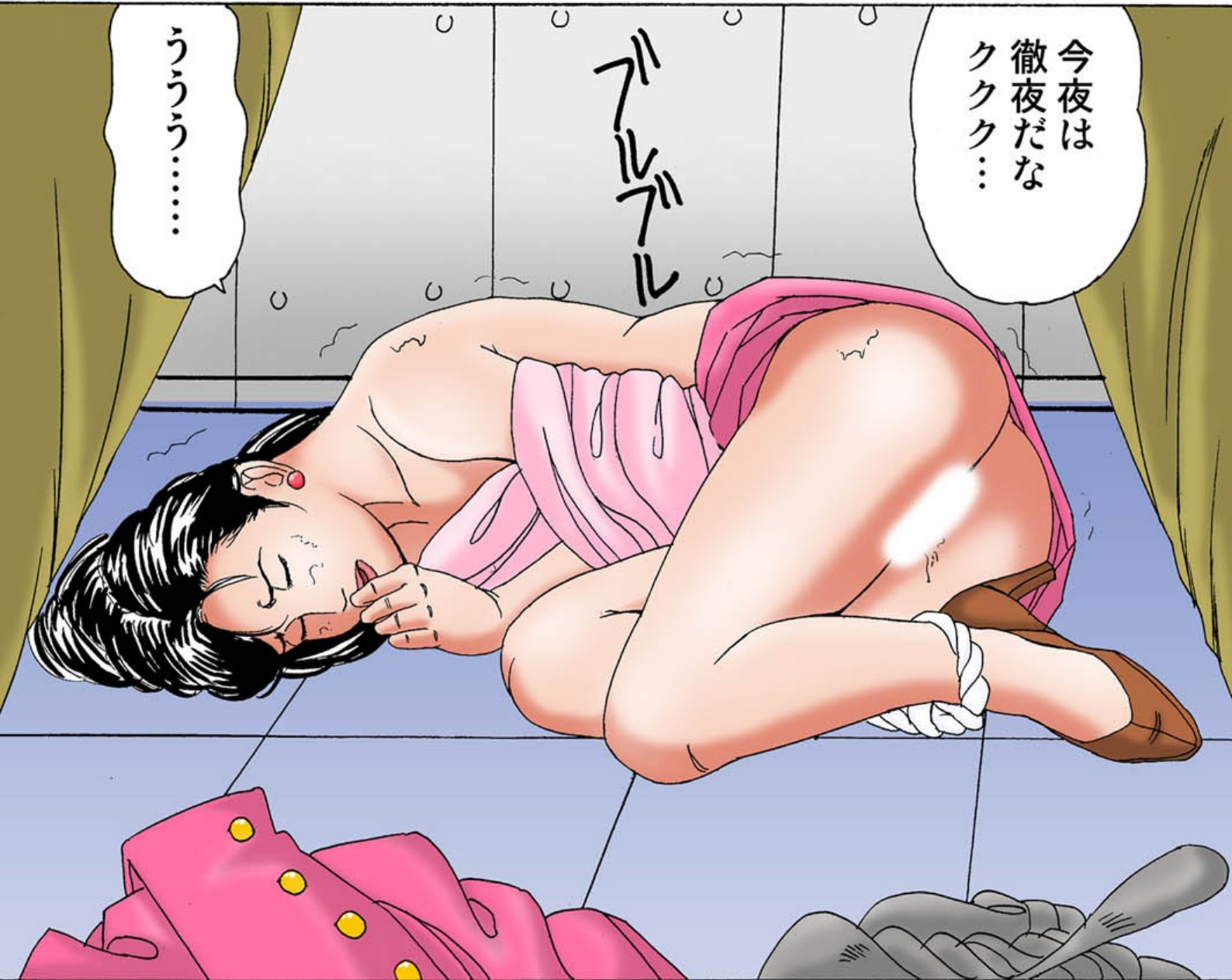


あひひっ!!  
あひひっ!!

おらおら  
もっとケツを振って  
ボクを  
喜ばせろよ!!



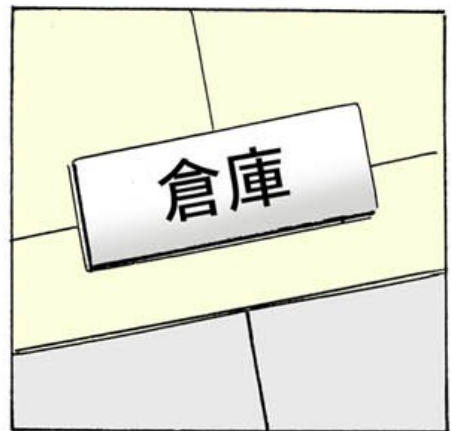
ひええく~~~~!!

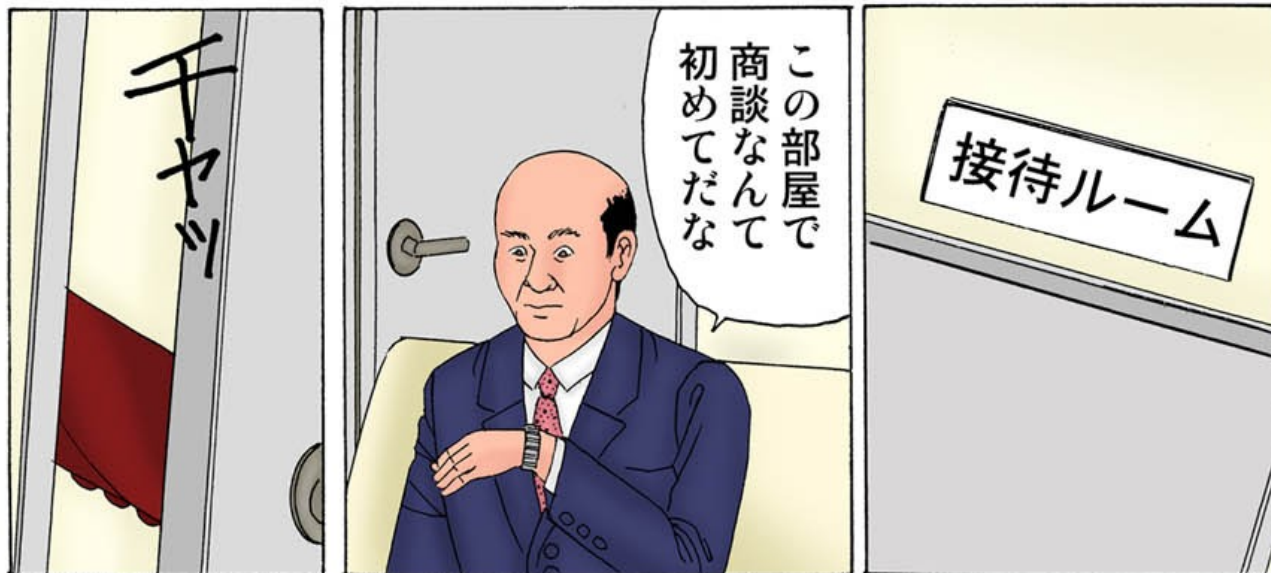
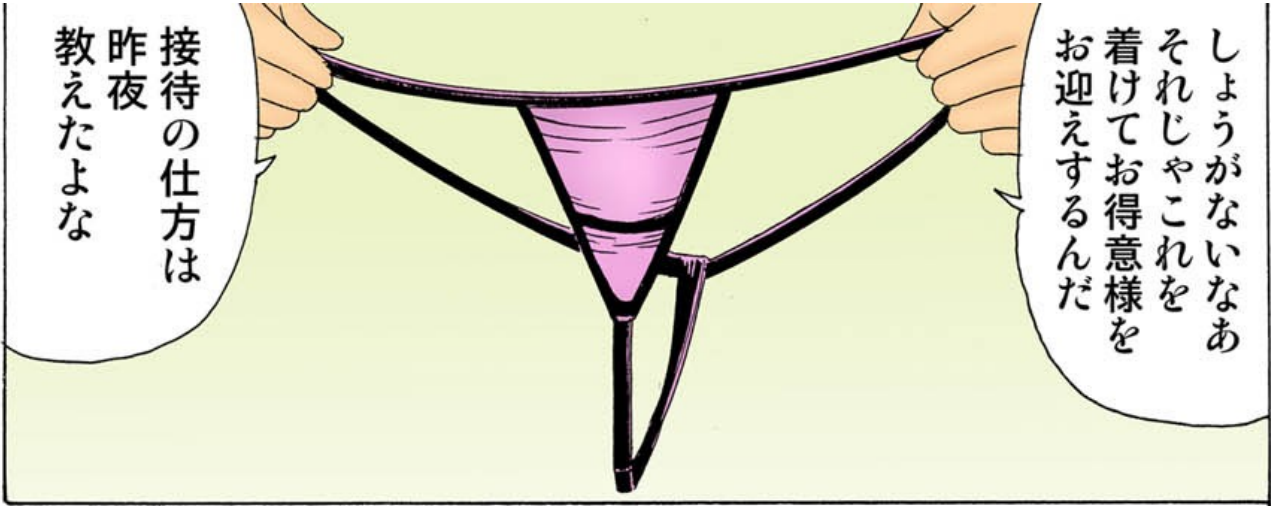


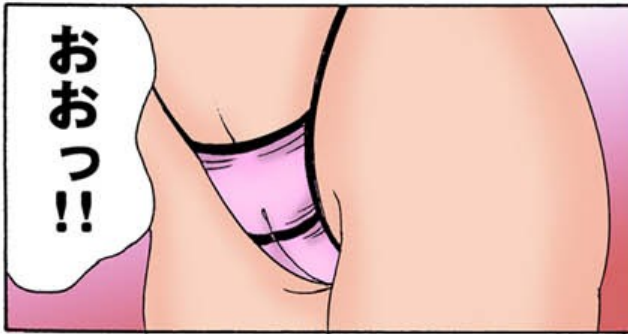


第2話

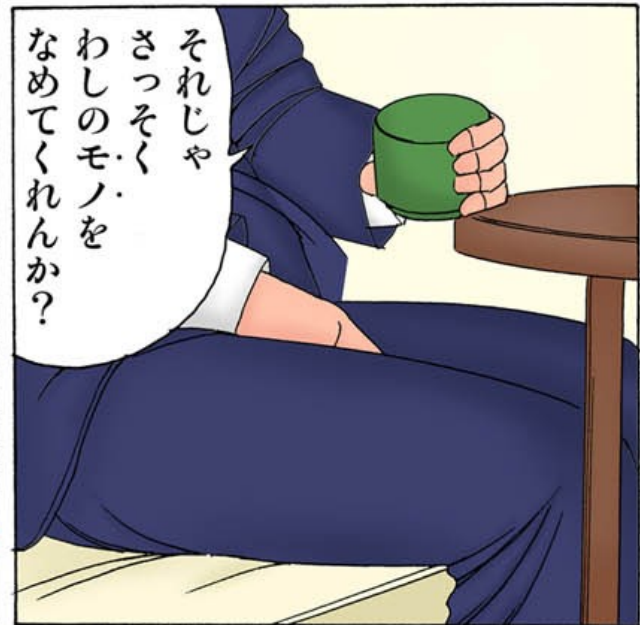
接待用特別秘書











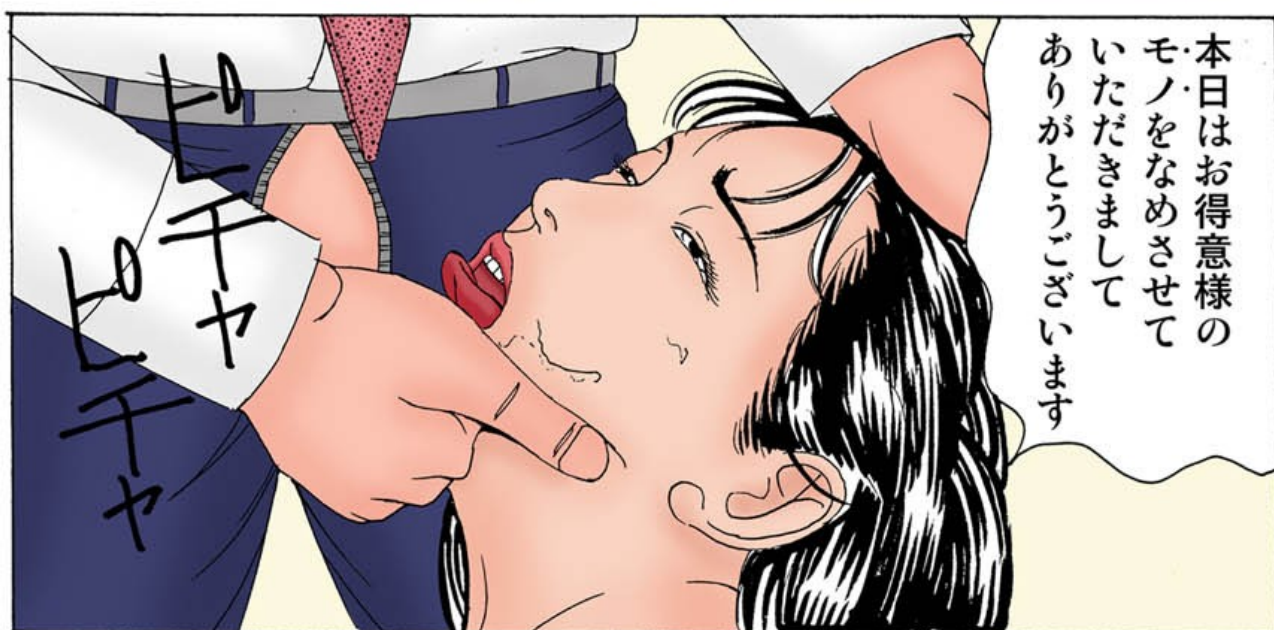


へへへ  
あんたを  
見たらガマン  
出来なくなつたよ



うぐぐぐ...

お礼の  
言葉は  
どうした?



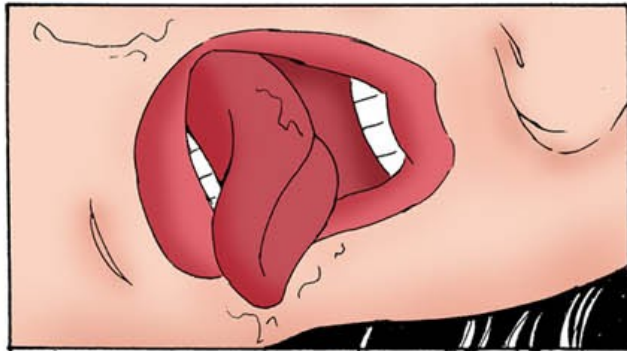
本日はお得意様の  
モノをなめさせて  
いただきまして  
ありがとうございます

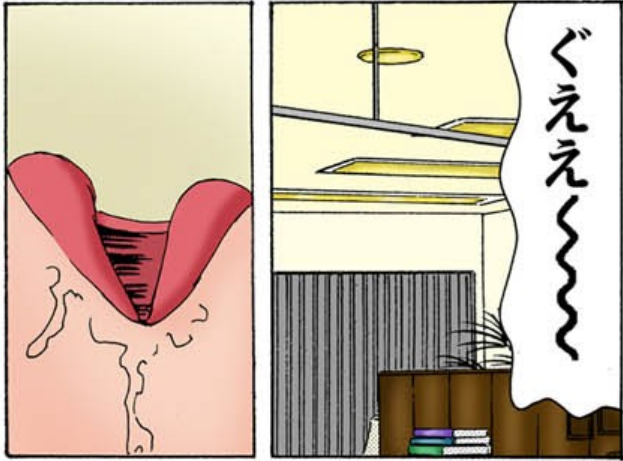
トキヤ  
トキヤ

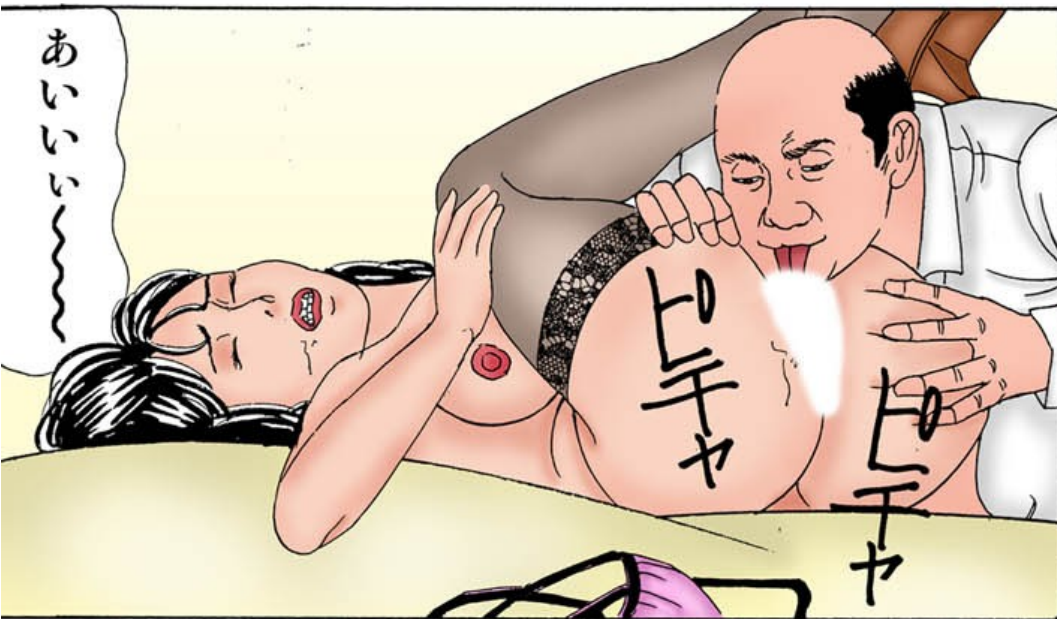
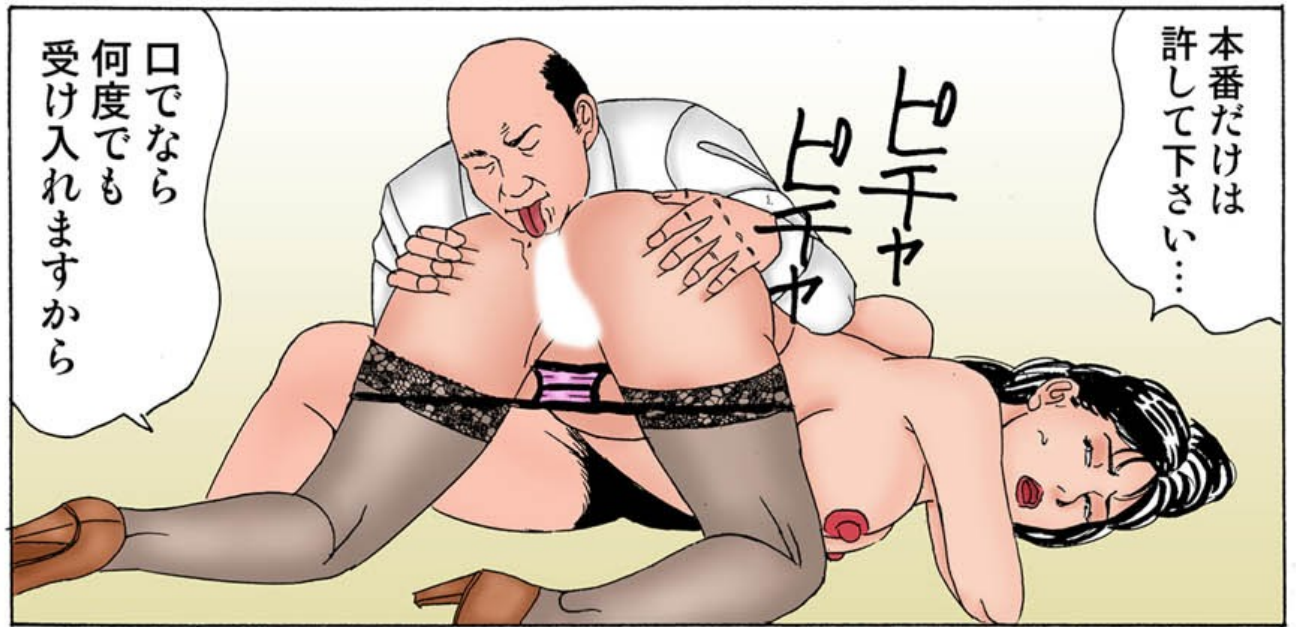
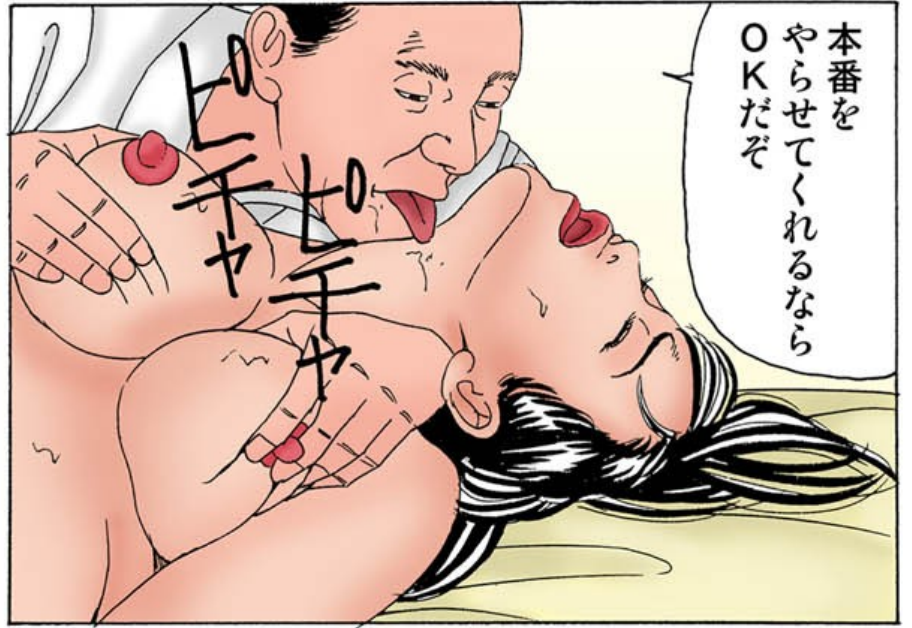


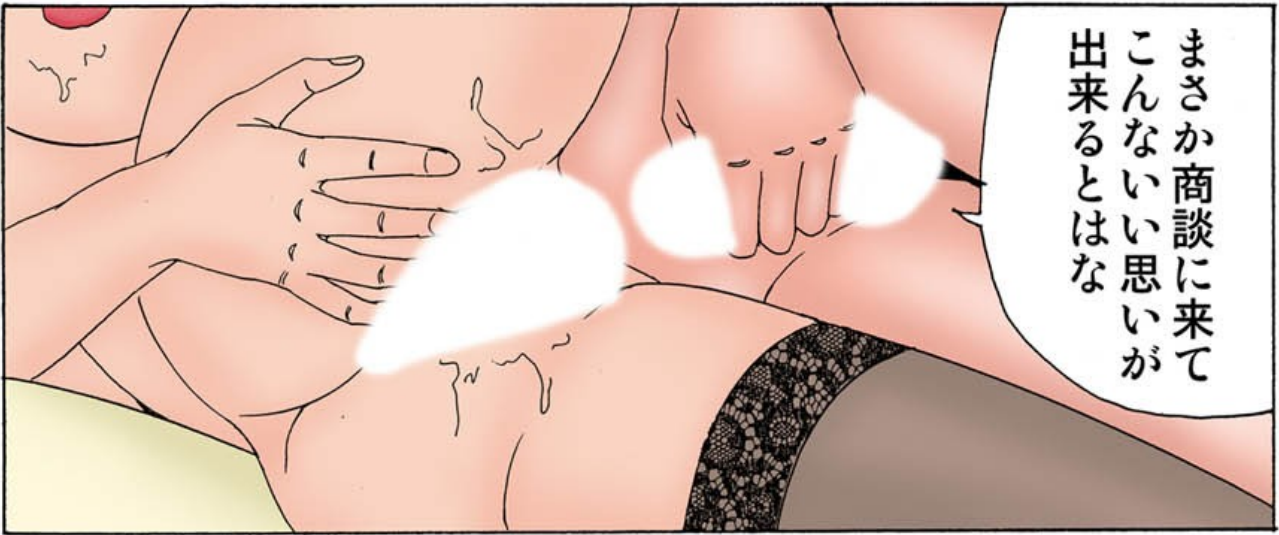




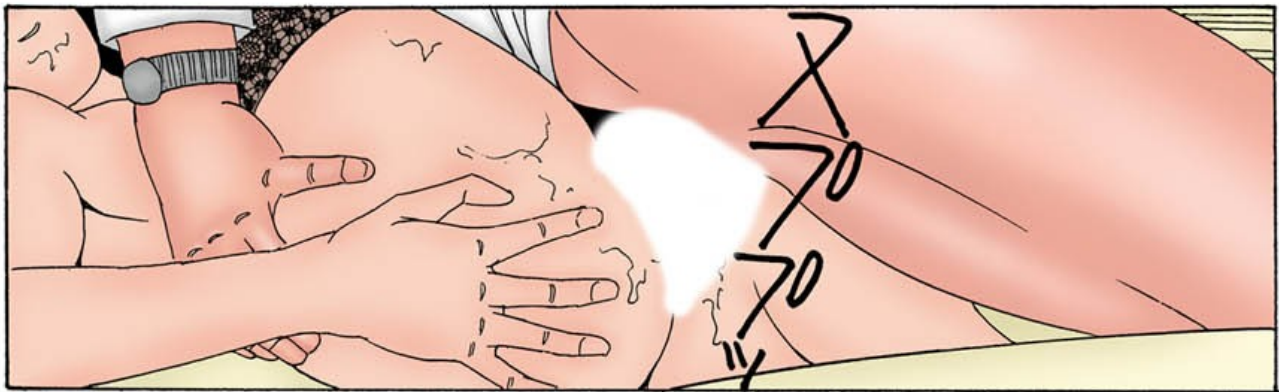




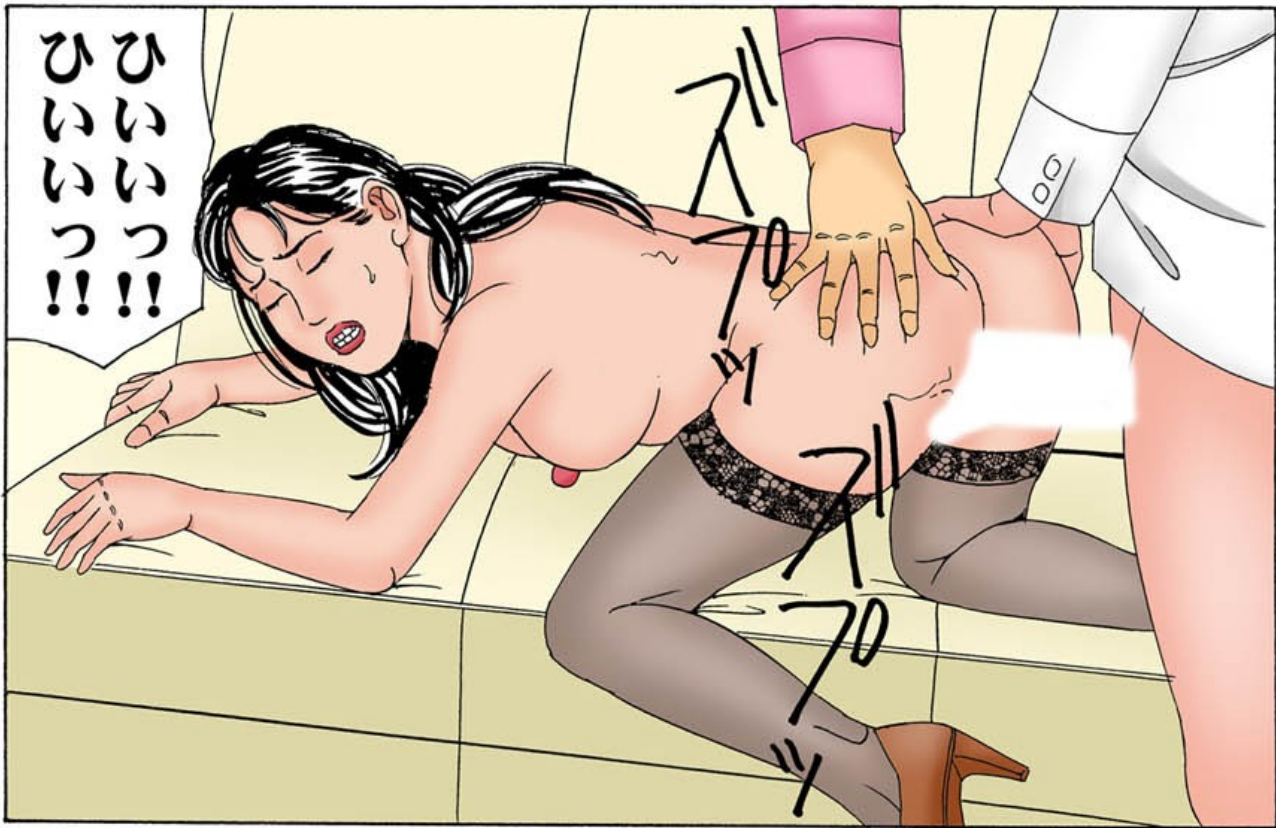




まさか商談に来て  
こないか思いが  
出来るとはな



いやあ——っ!!



ひひいっ!!

げろ  
げろ  
げろ



お願いですっ!!  
中には  
出さないでっ!!

危ない日なんですっ!!

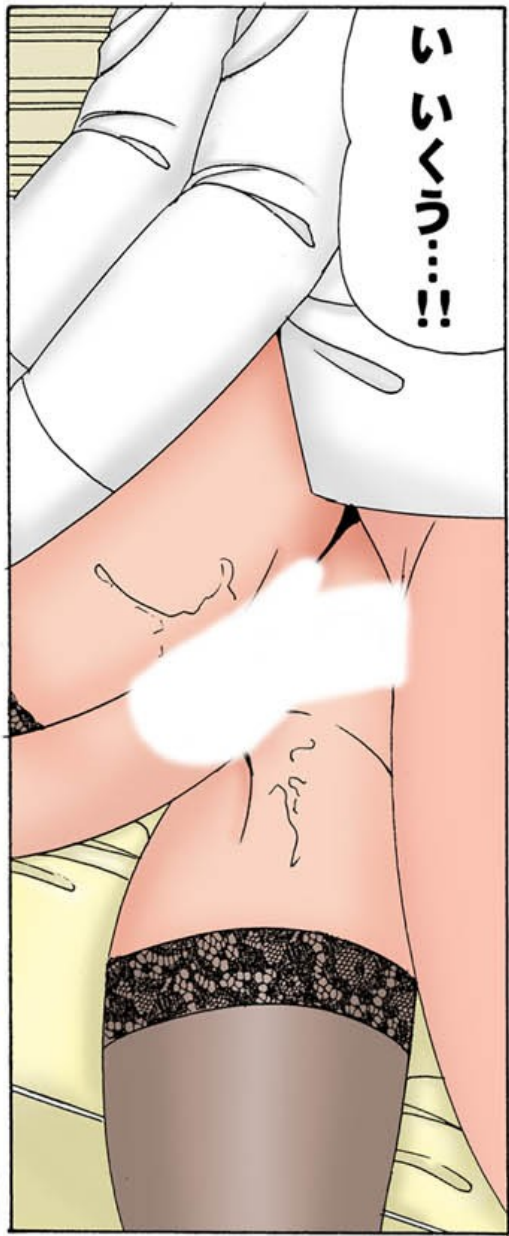


中に出してこそ  
気持ちいいんじゃないか

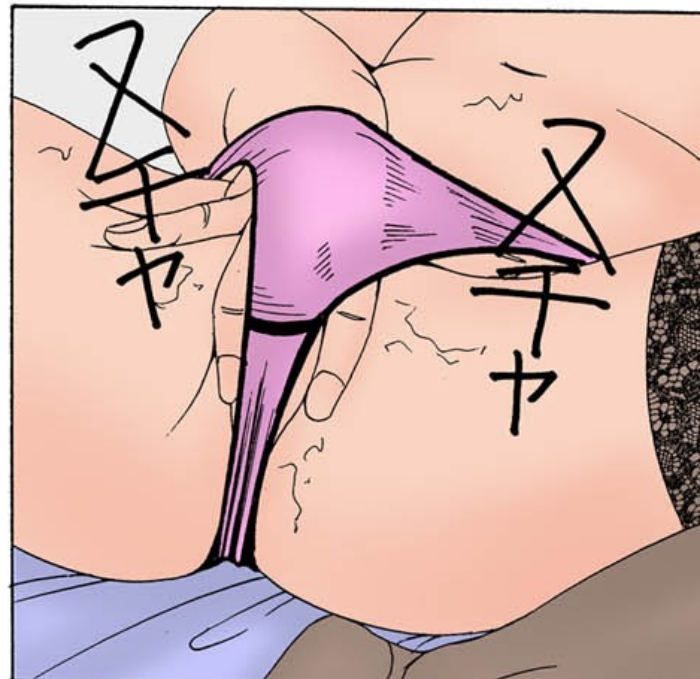
中に  
出さないでーっ!!



あひっあひっあひっ!!



いっくう...!!





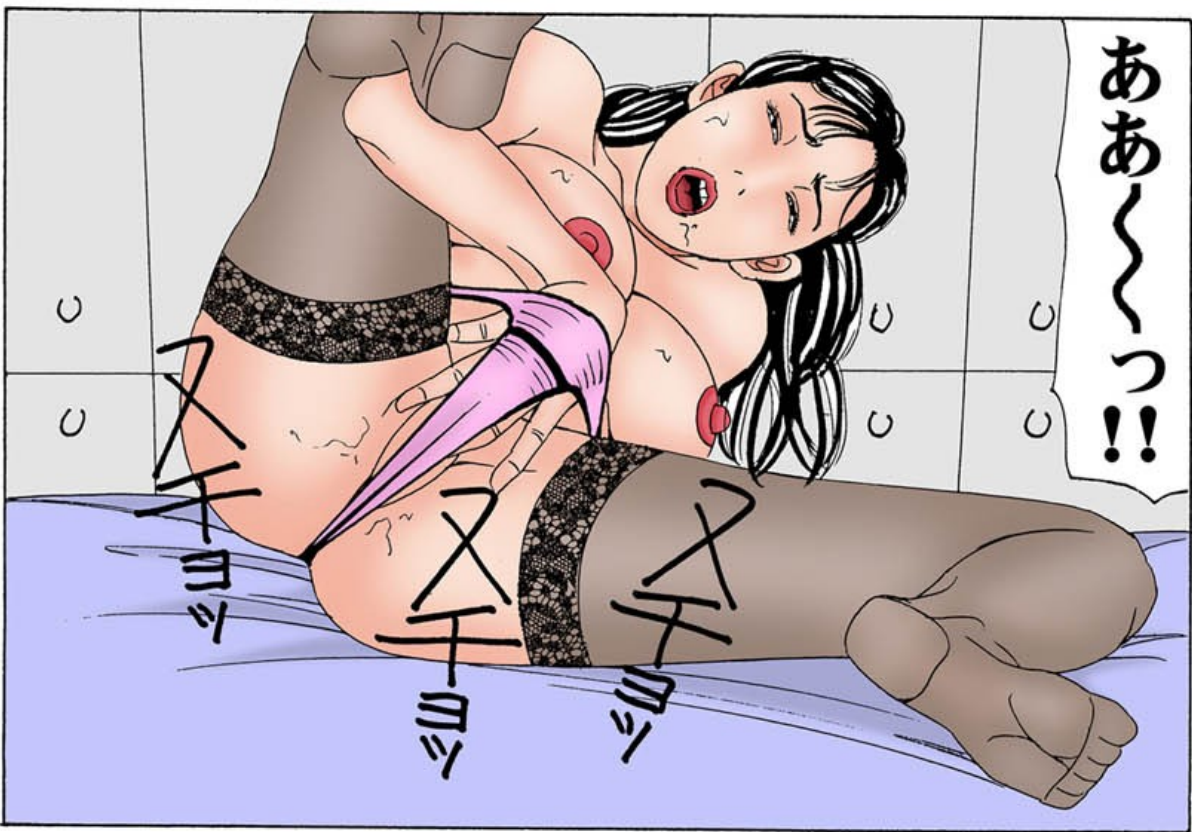


昼間の契約は  
お前のおかげで  
うまくいったな

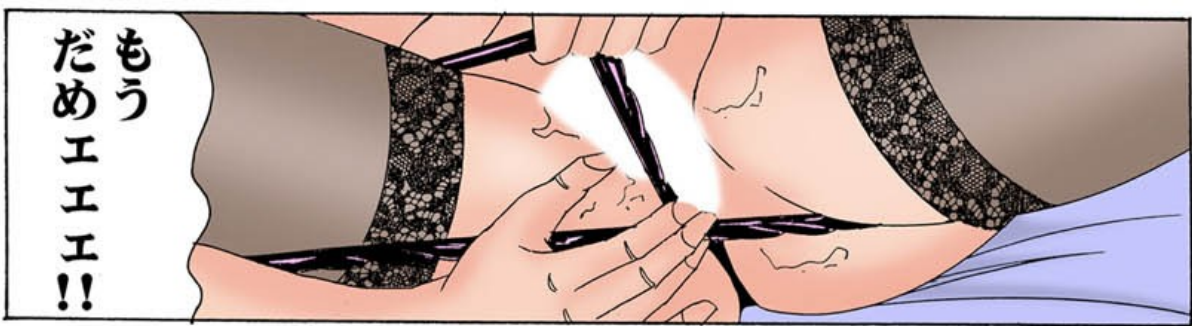
これから  
接待専用  
に使う事  
にするよ

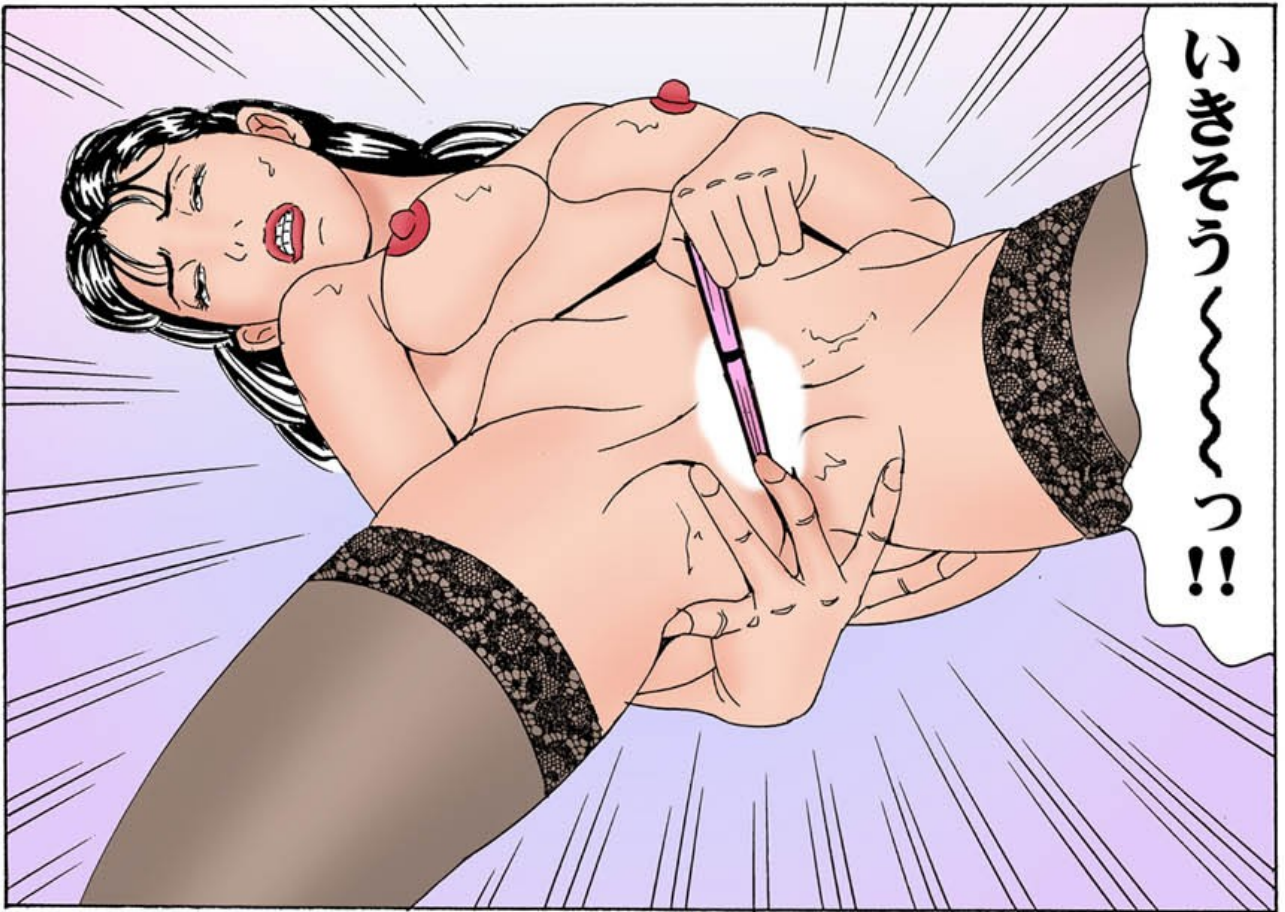


ああくくっ!!

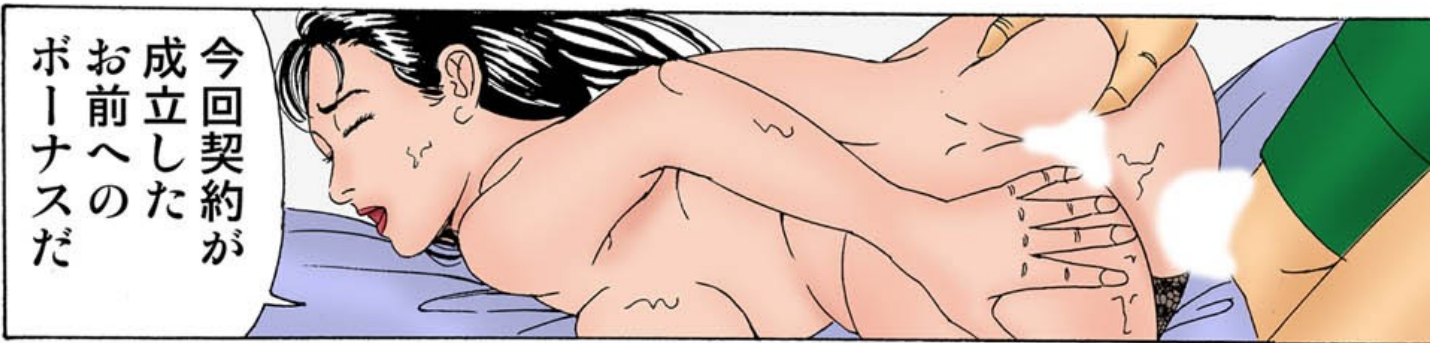


もう  
だめ  
エエエ!!

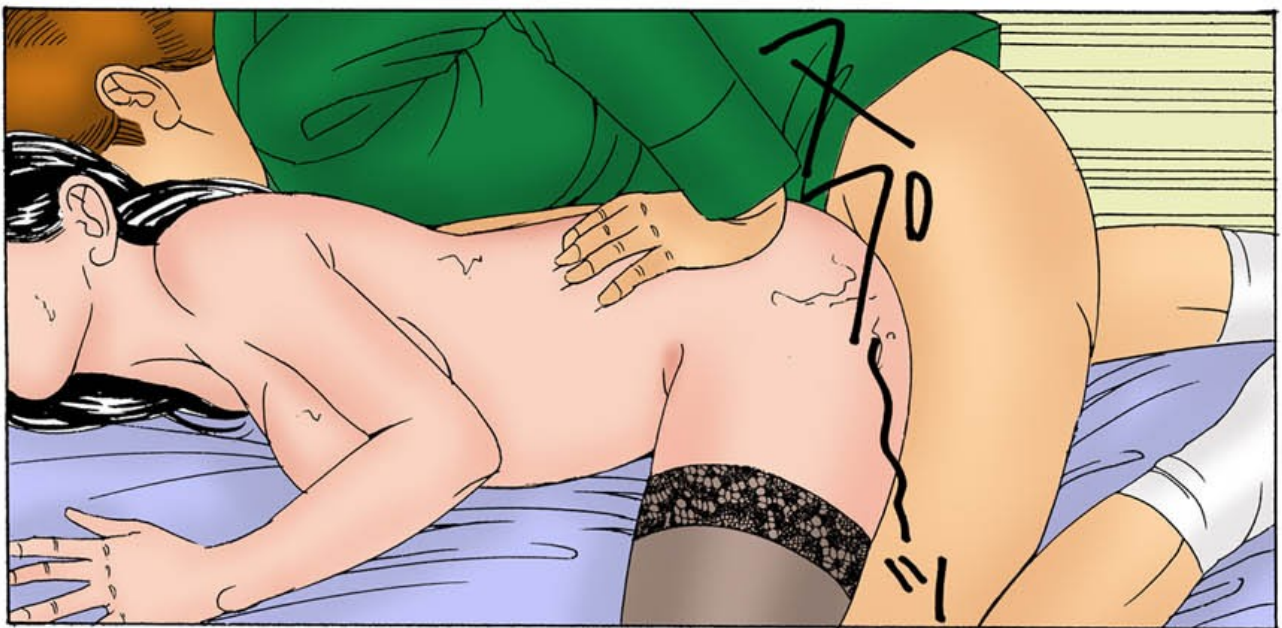




きゅんきゅん!!



今回契約が  
成立した  
お前への  
ボーナスだ





ああ——っ!!



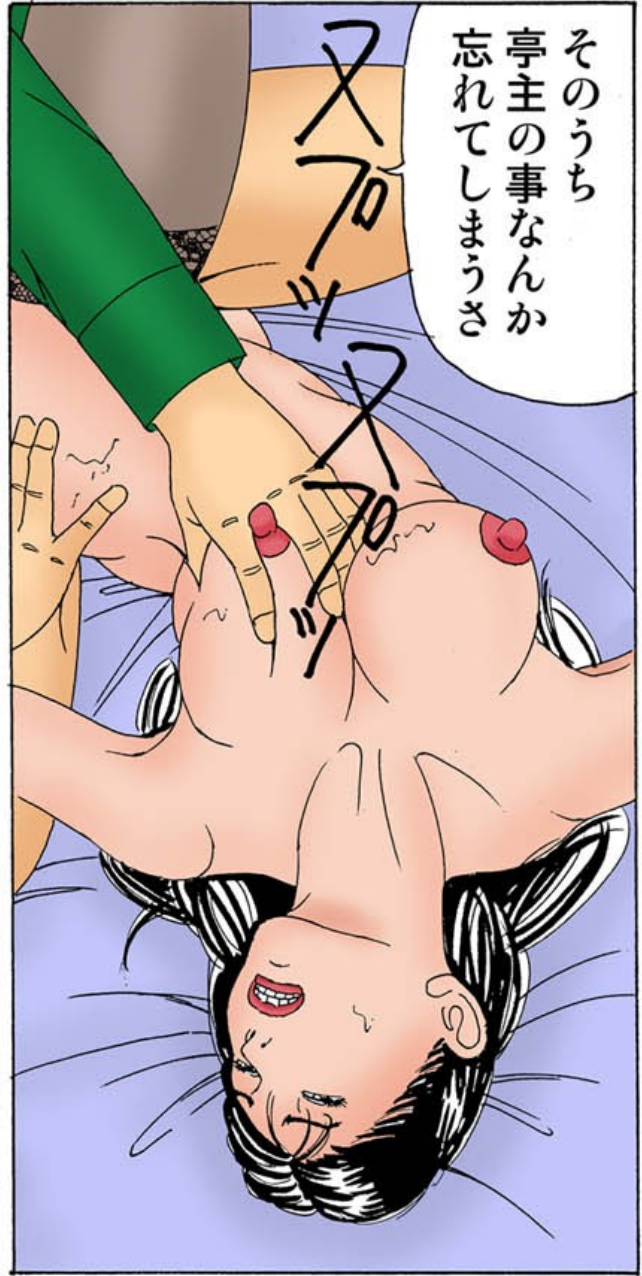
ああんっ!!  
ああんっ!!



おらっ!!  
おらっ!!



もっと完璧な  
性欲処理用の  
秘書に  
仕込んでやる



そのうち  
亭主の事なんか  
忘れてしまうさ

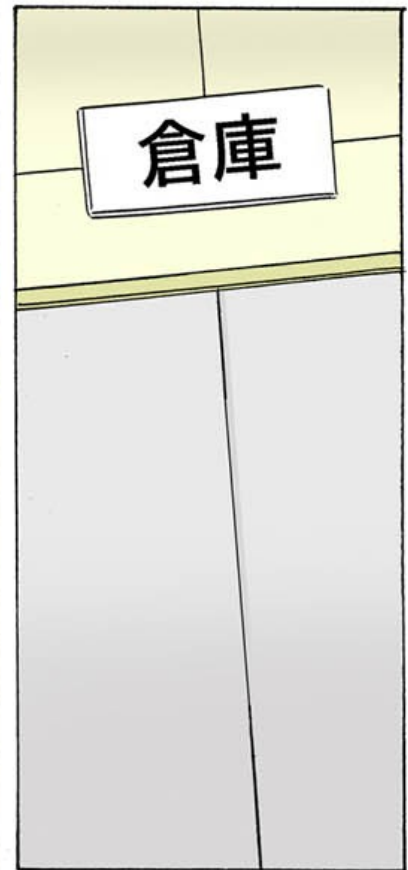
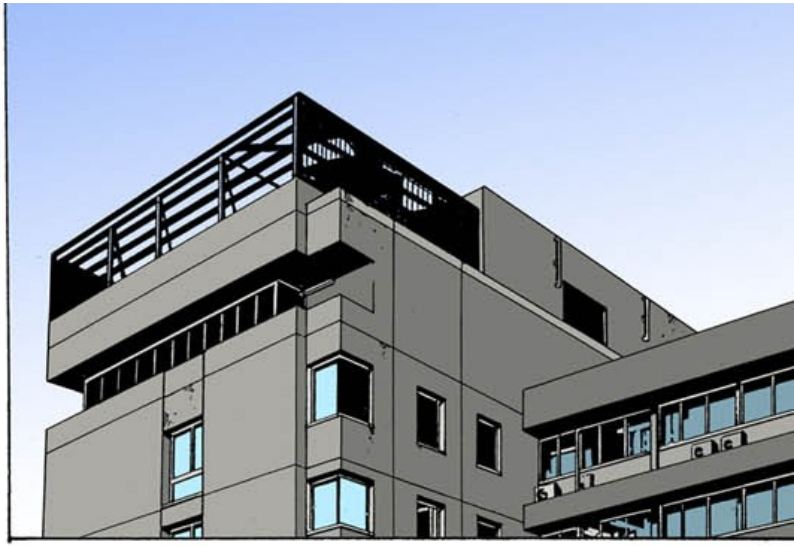


もうだめえ——っ!!

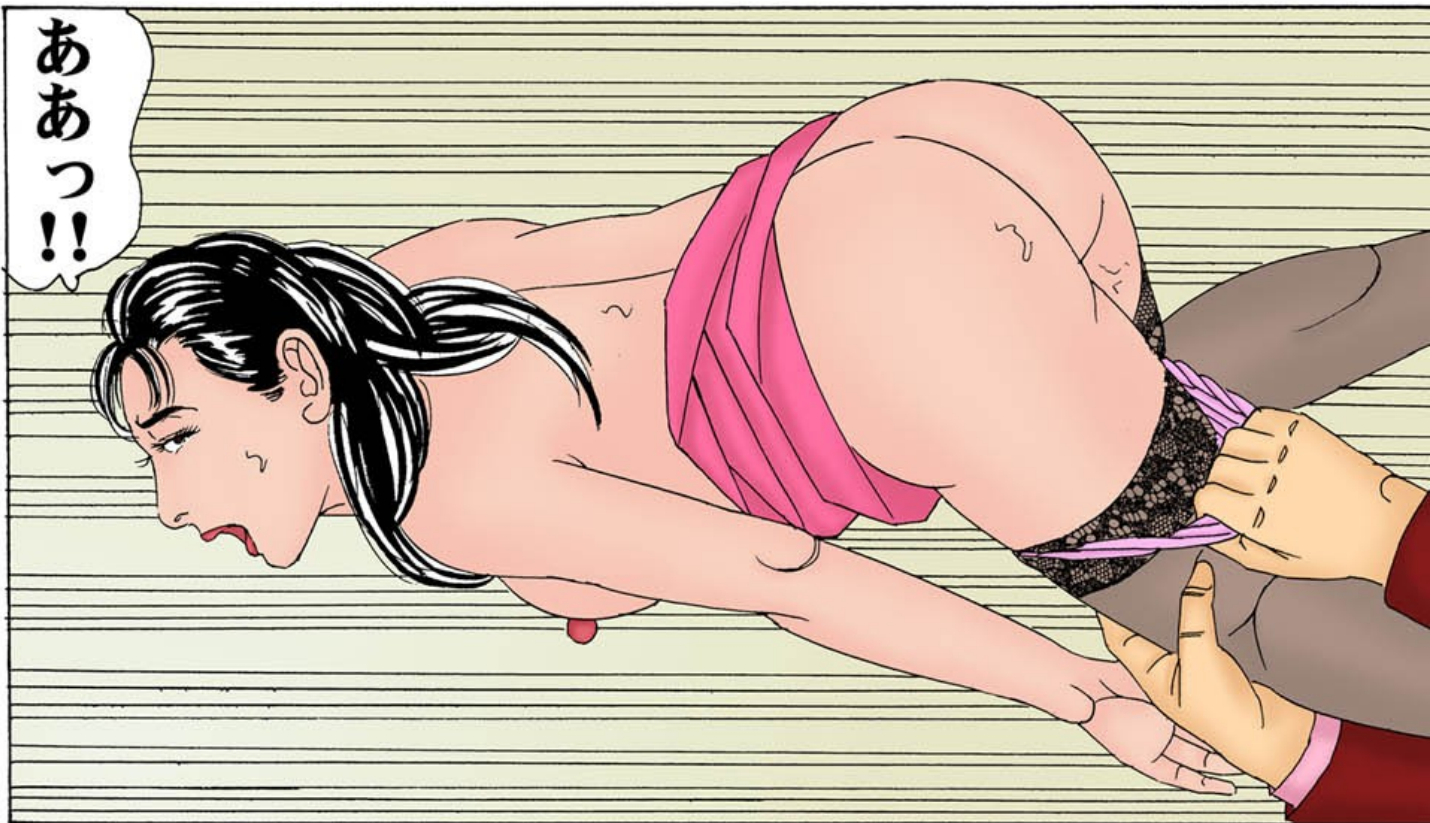
ひらひら!!ひらひら!!

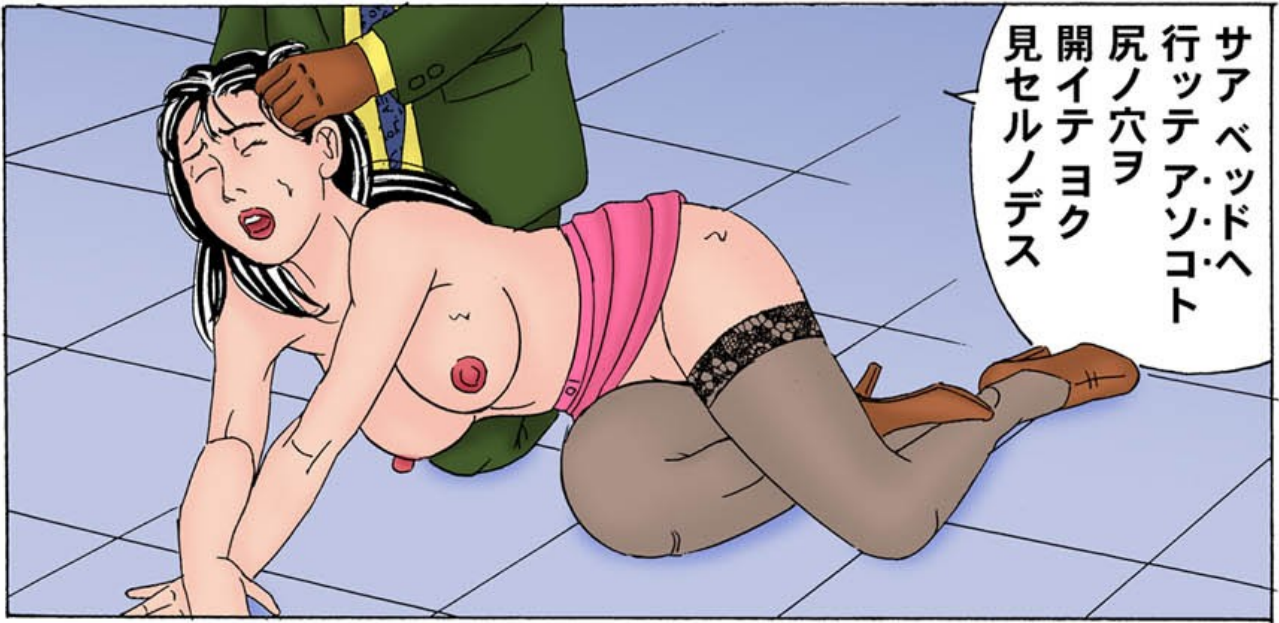








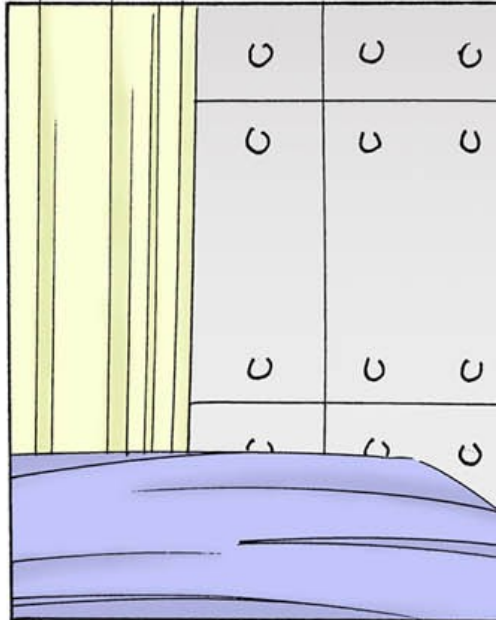




サアベッドへ  
行ッテアソコト  
尻ノ穴ヲ  
開イテヨク  
見セルノデス



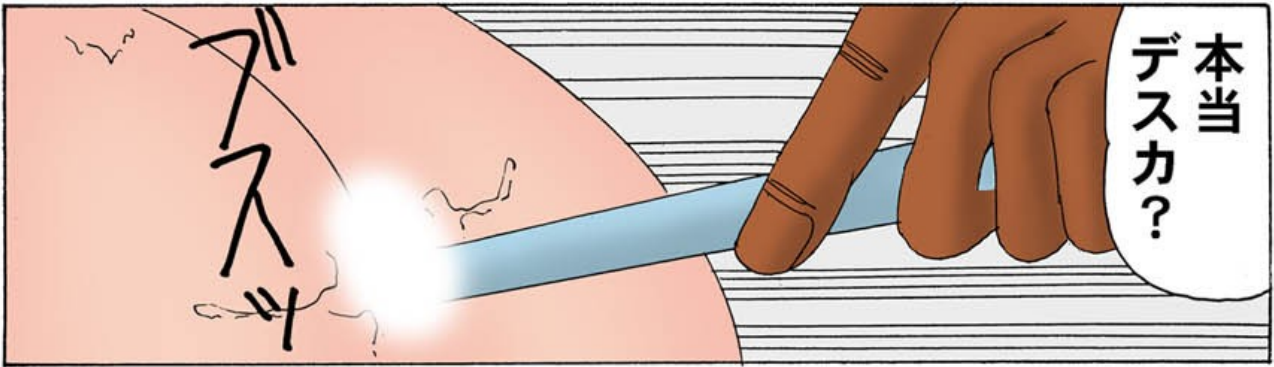
くっくっくっ...

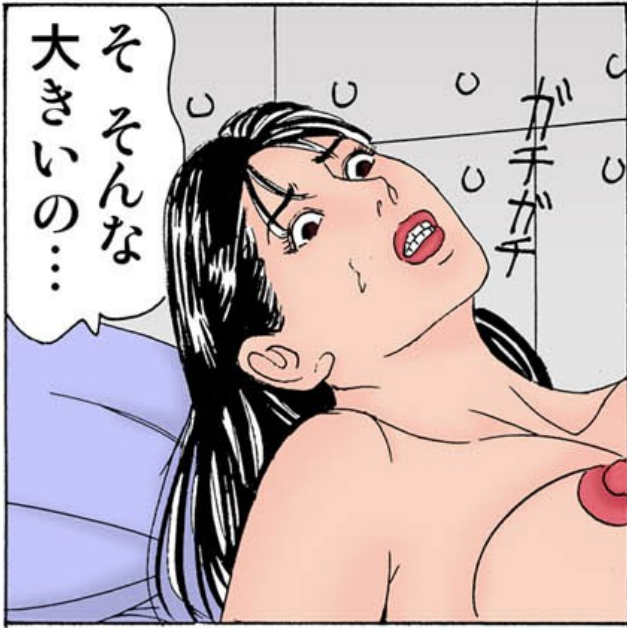


尻ノ穴  
開イテナイジャ  
アリマセンカ

これで  
精一杯です...

フルフル



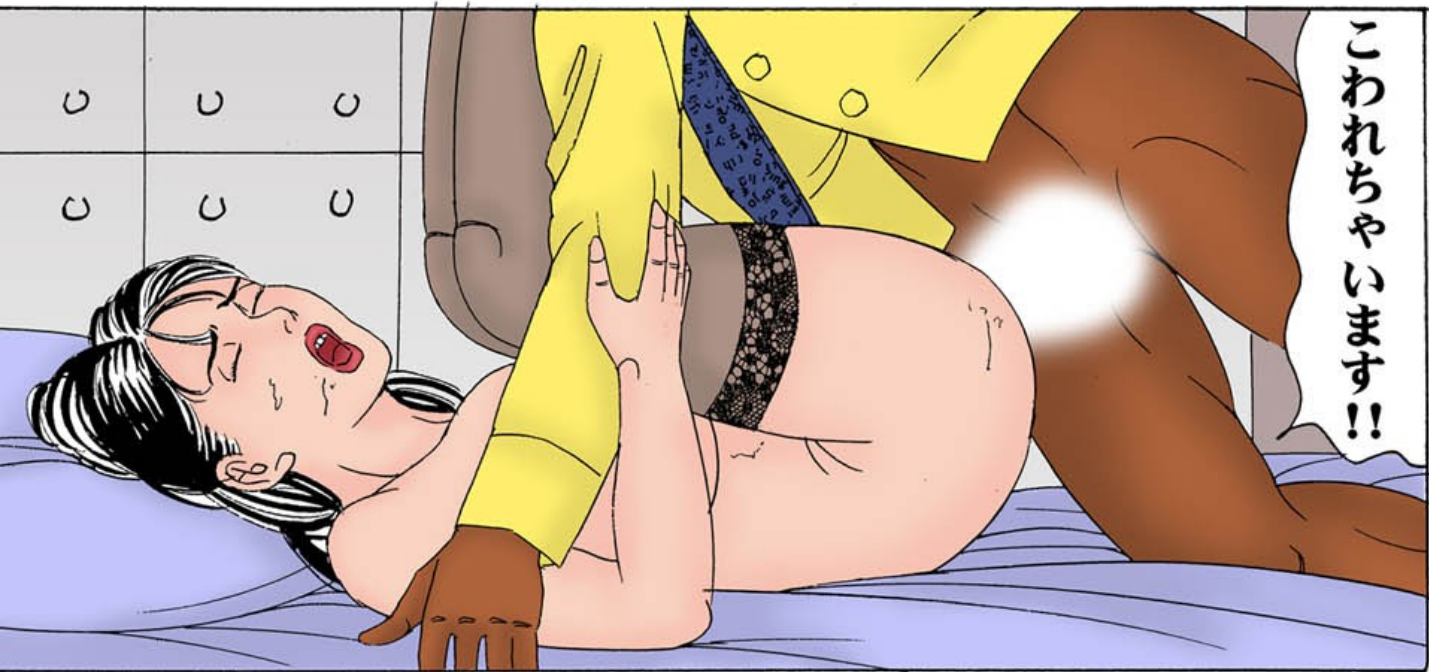


そそんな  
大きいの…

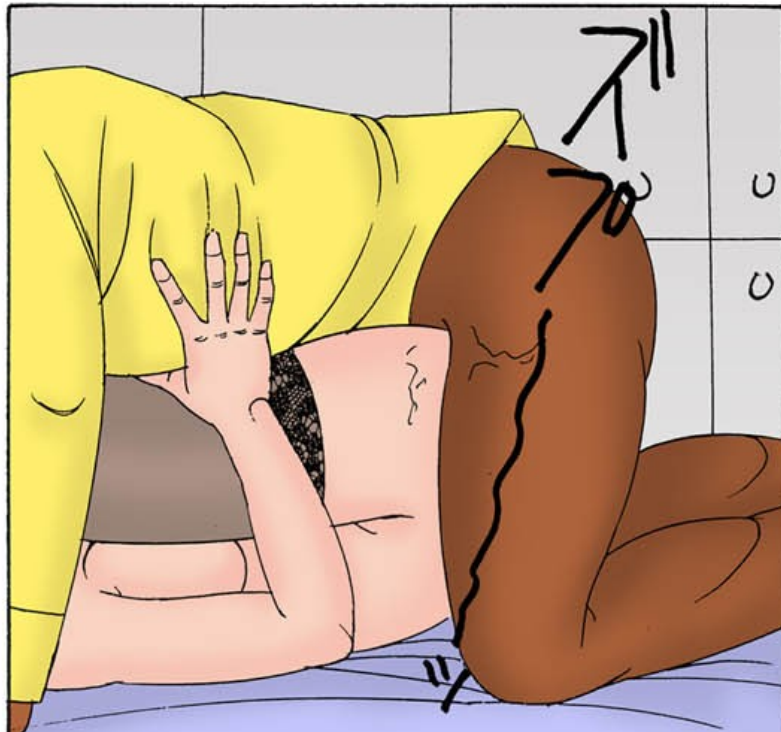
ガチガチ



今度ハ  
感じサセテ  
アゲマスヨ



こわれちゃいます!!

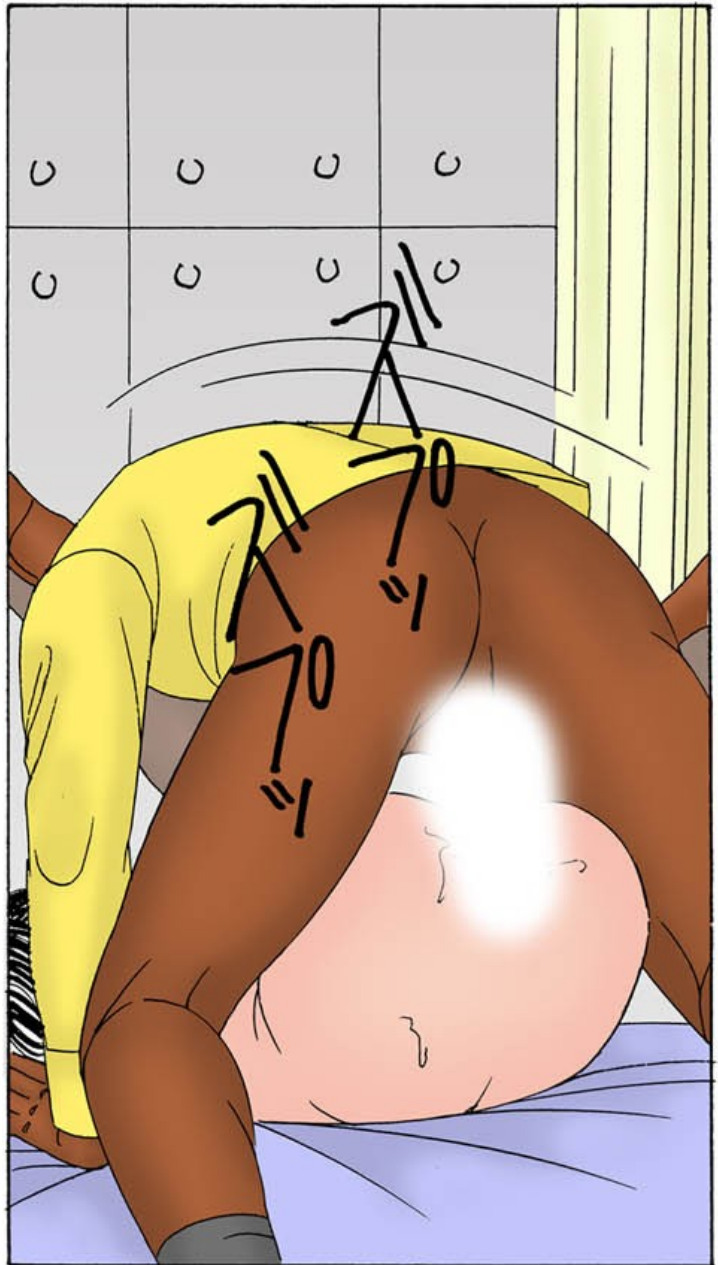




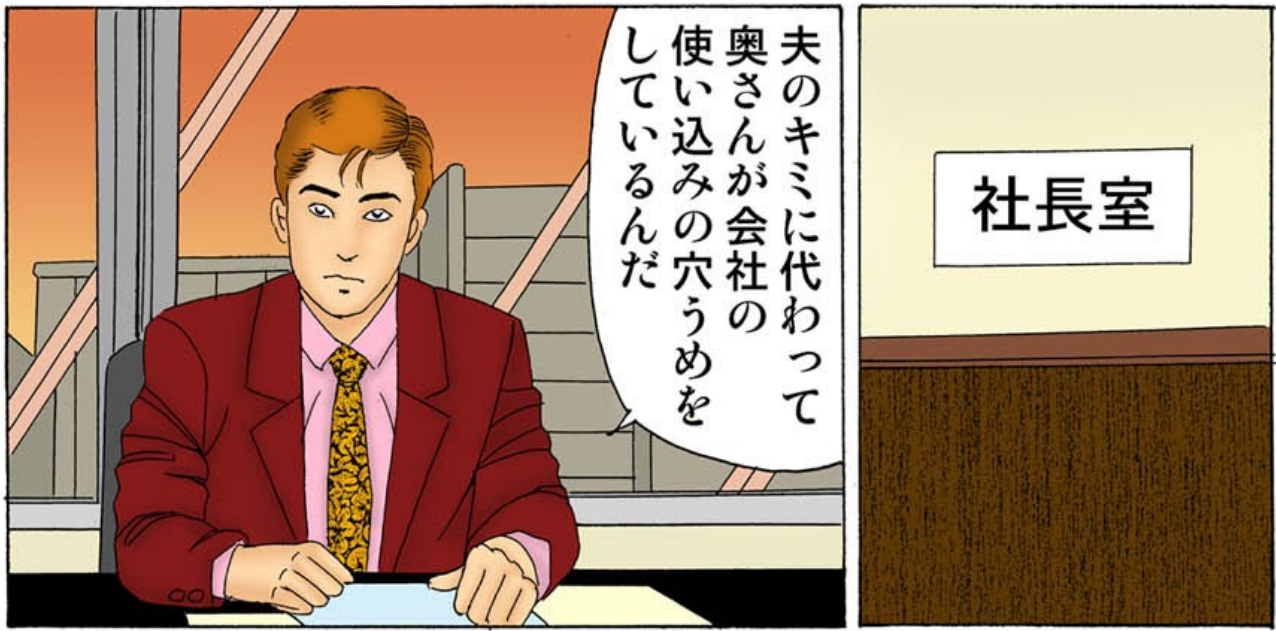
ひえええ——っ!!

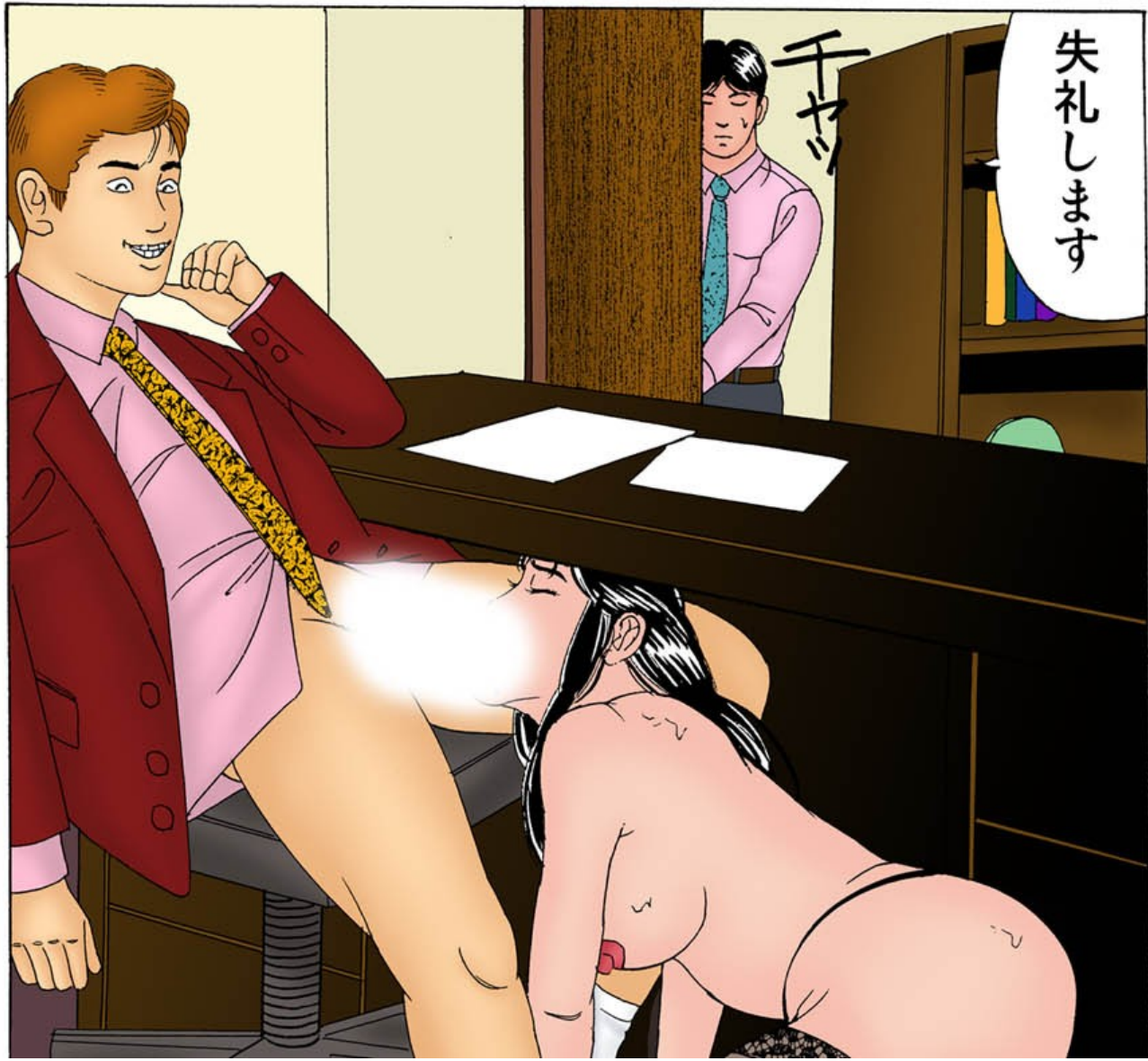
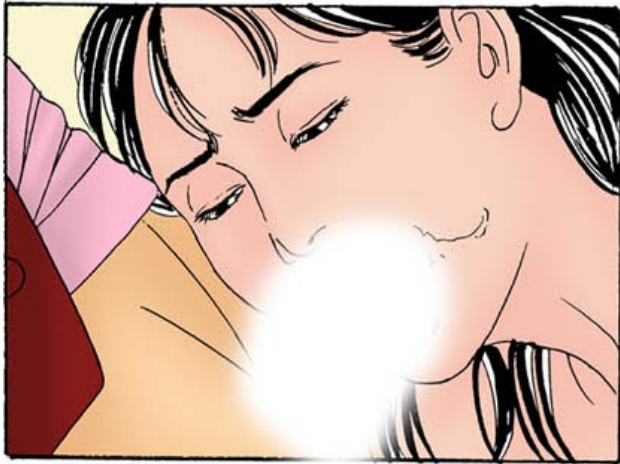


ひひ  
いひ  
いひ  
っっ  
!!!



動かさないでっ!!







心をこめてしゃぶれと言っただろ!!

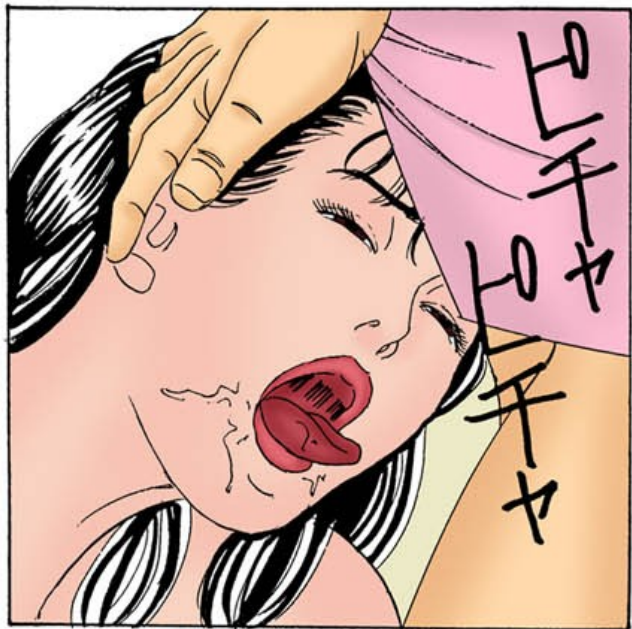


ふくろの方もまんべんなくな

ホキヤ  
ホキヤ  
ホキヤ



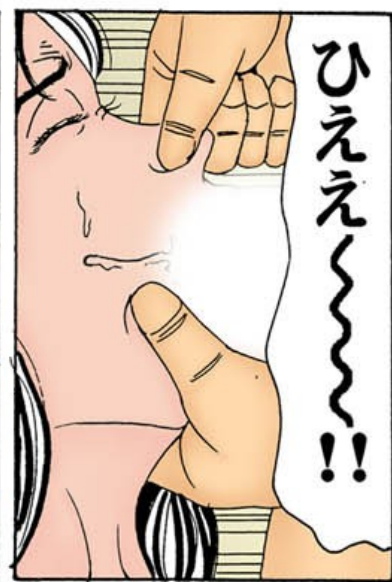
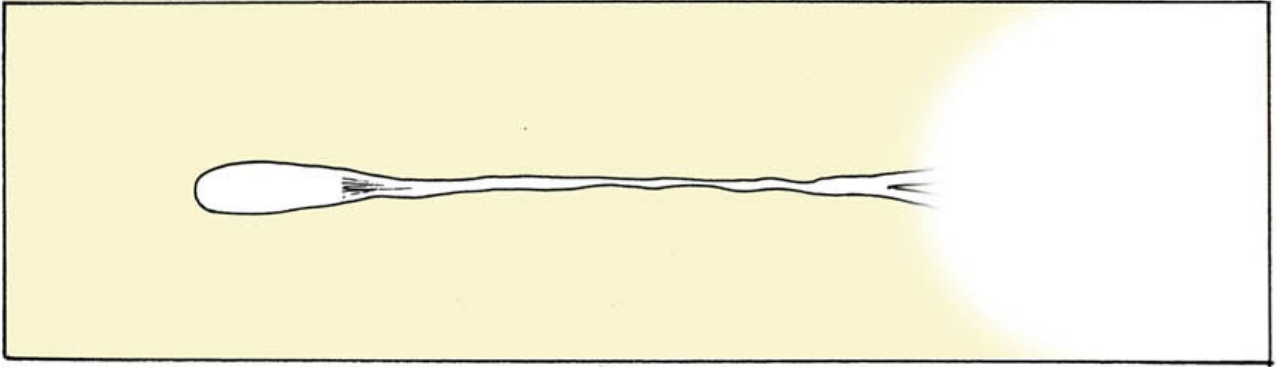
くろうっ...  
くろうっ...  
くろうっ...



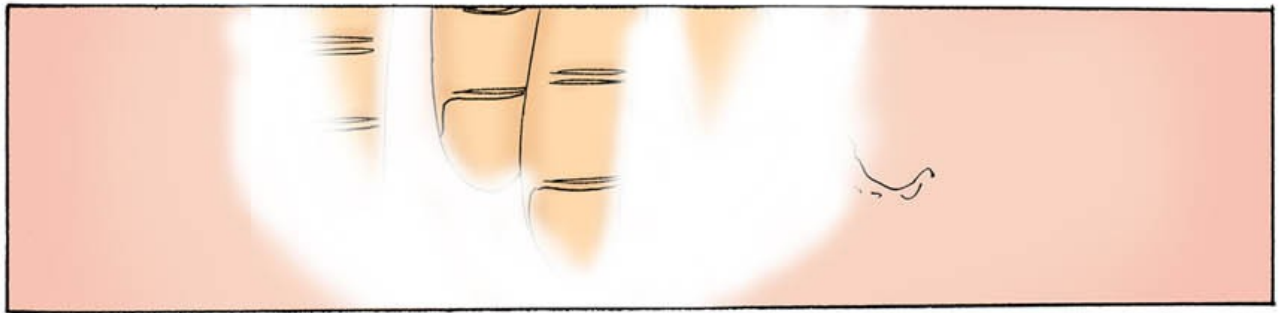
ホキヤ  
ホキヤ  
ホキヤ



ホキヤ  
ホキヤ  
ホキヤ





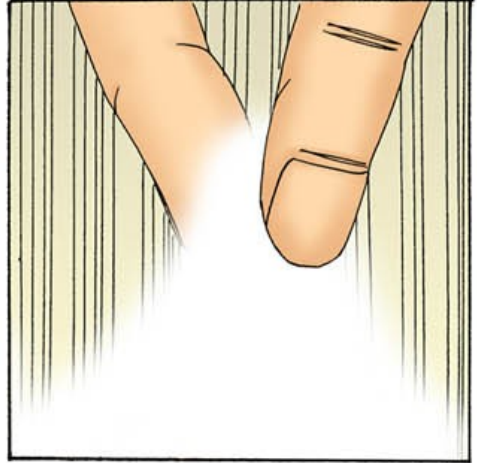
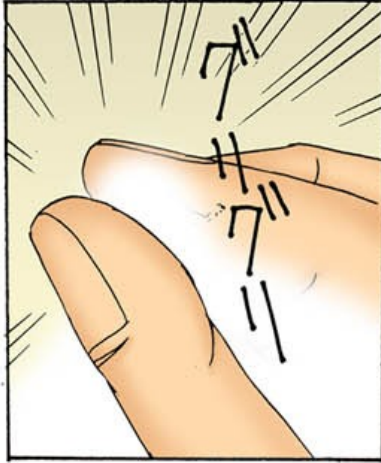
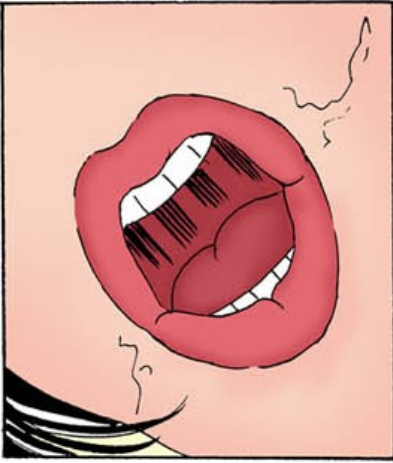




ああ〜っ!! ああ〜っ!!



そこはだめえーっ!!  
感じやすいのっ!!



第4話

中出し責め





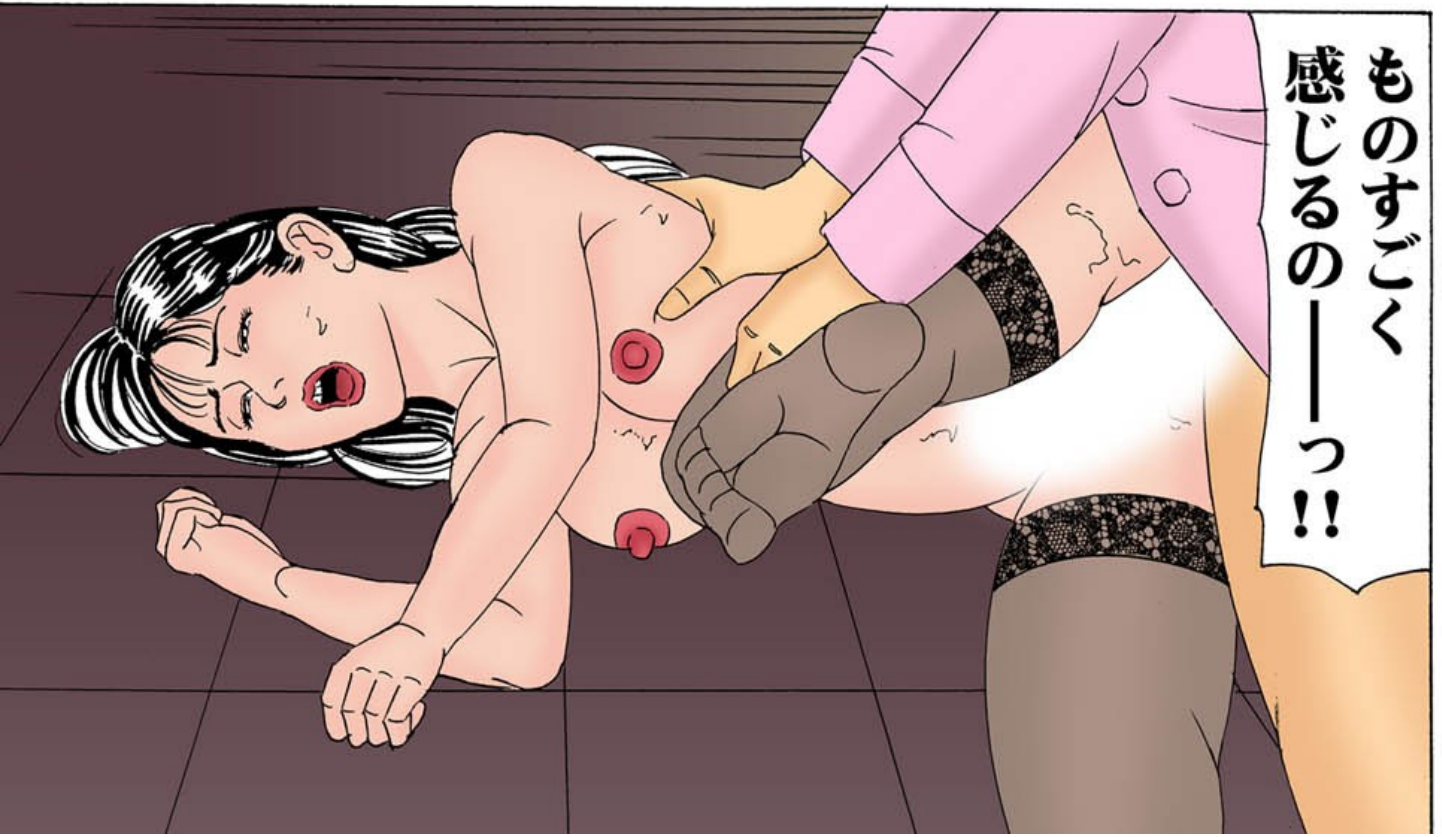
ああーんっ!!

ああーんっ!!

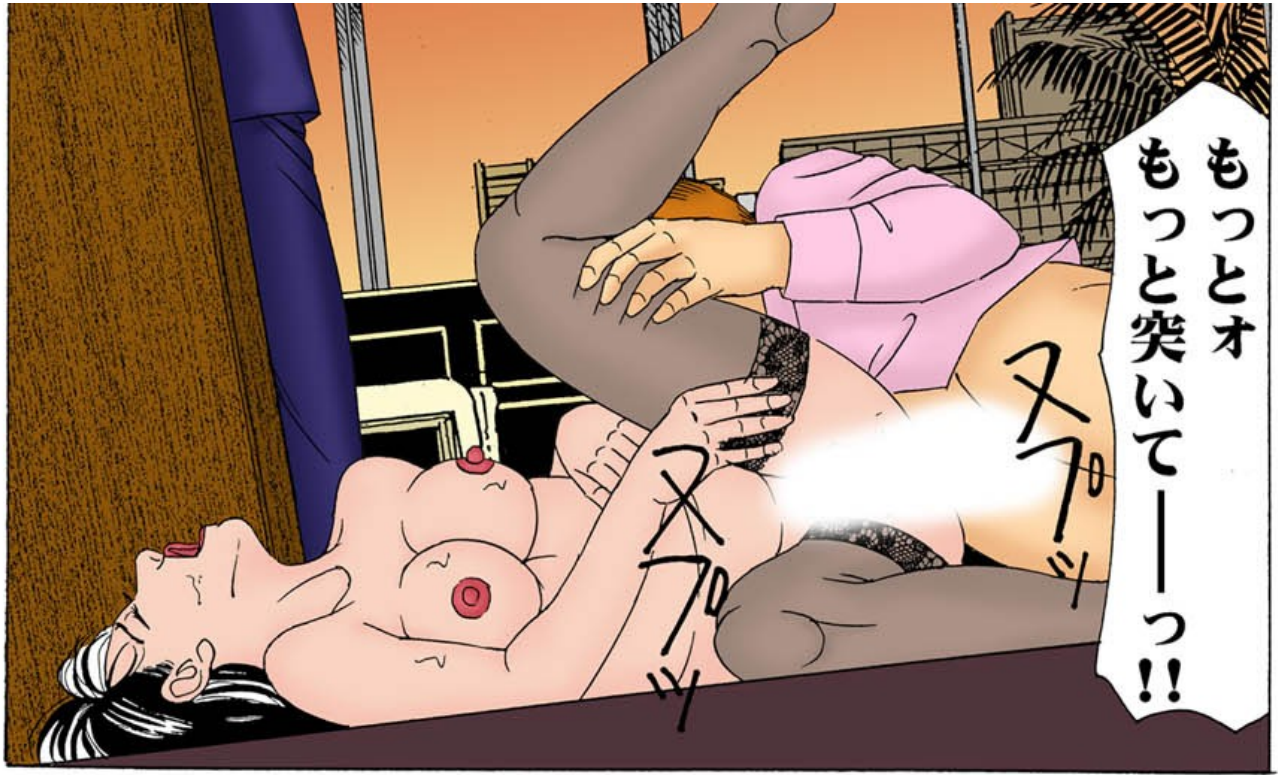
ヌグッ

ヌグッ

ヌグッ



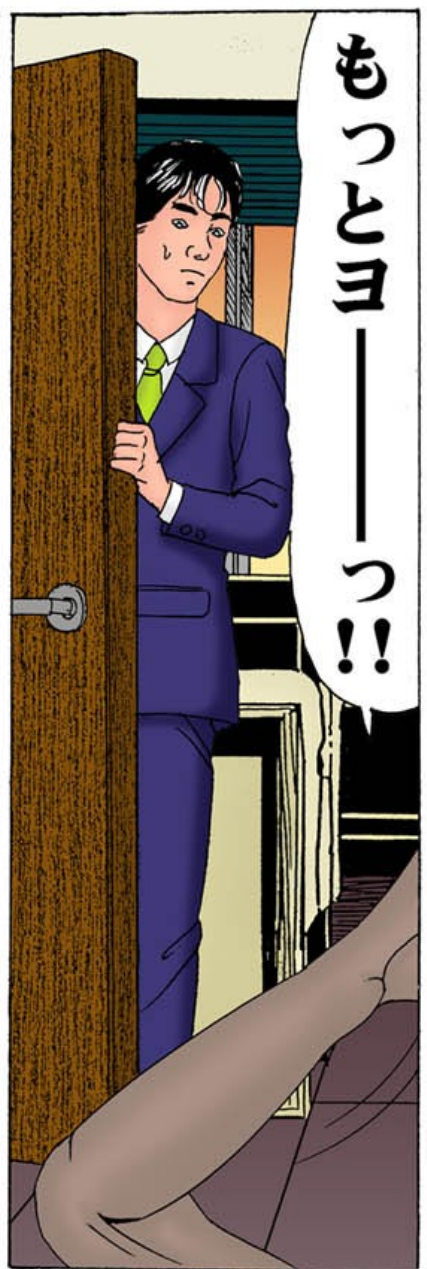
ものすごく  
感じるのーっ!!



もつとオ  
もつと突いてーっ!!



あいつつ!!  
あいつつ!!

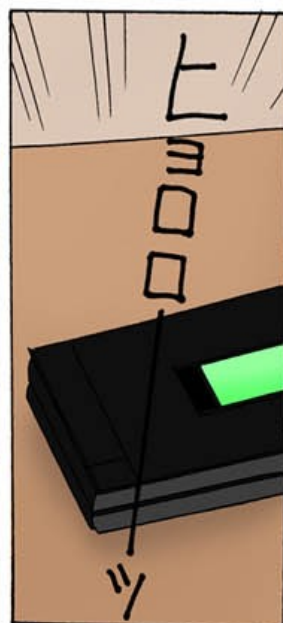


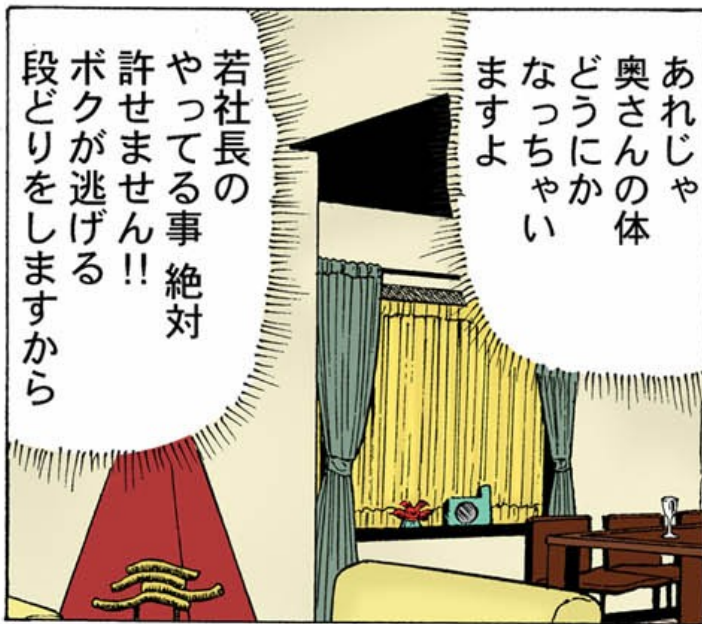
もつとオ——っ!!

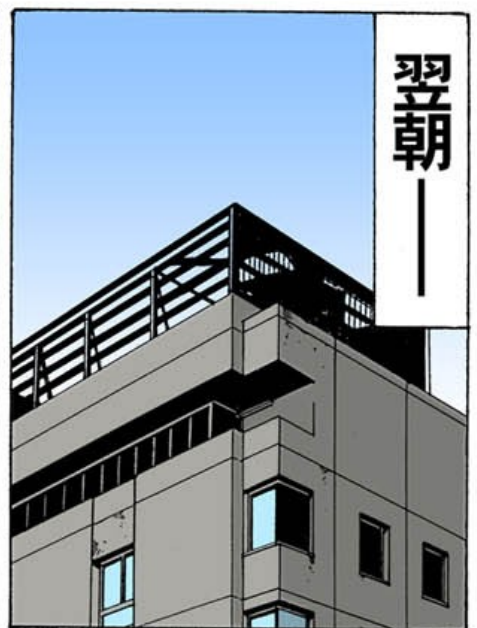


いいきさ〜

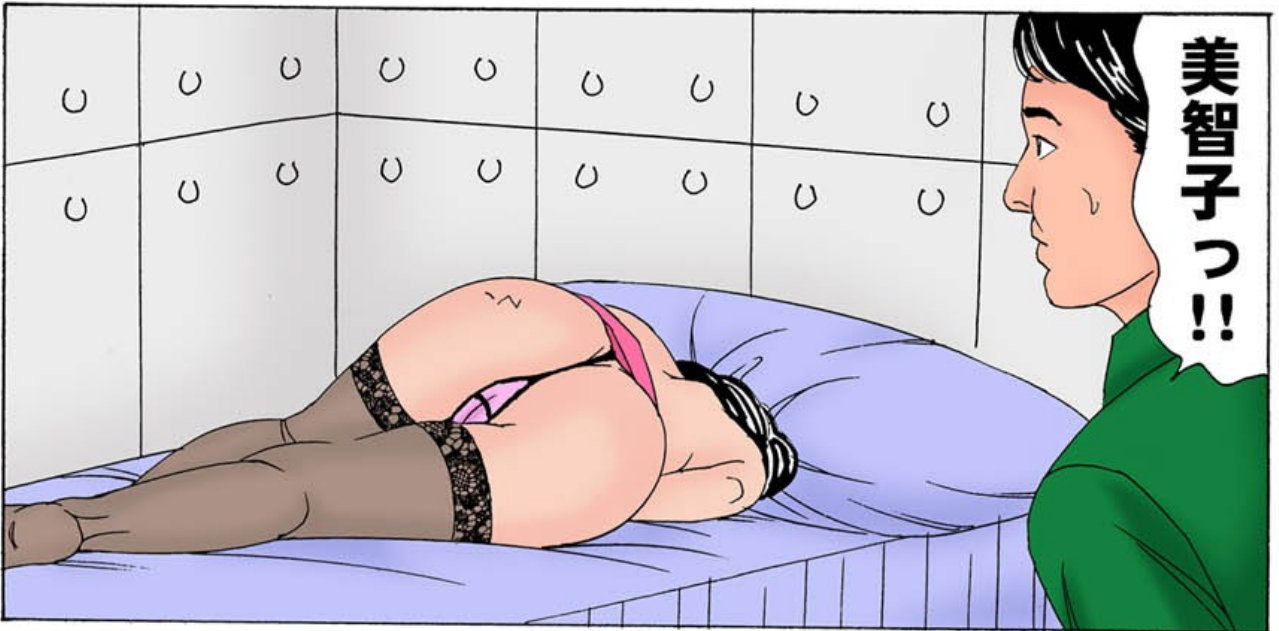








翌朝



美智子っ!!



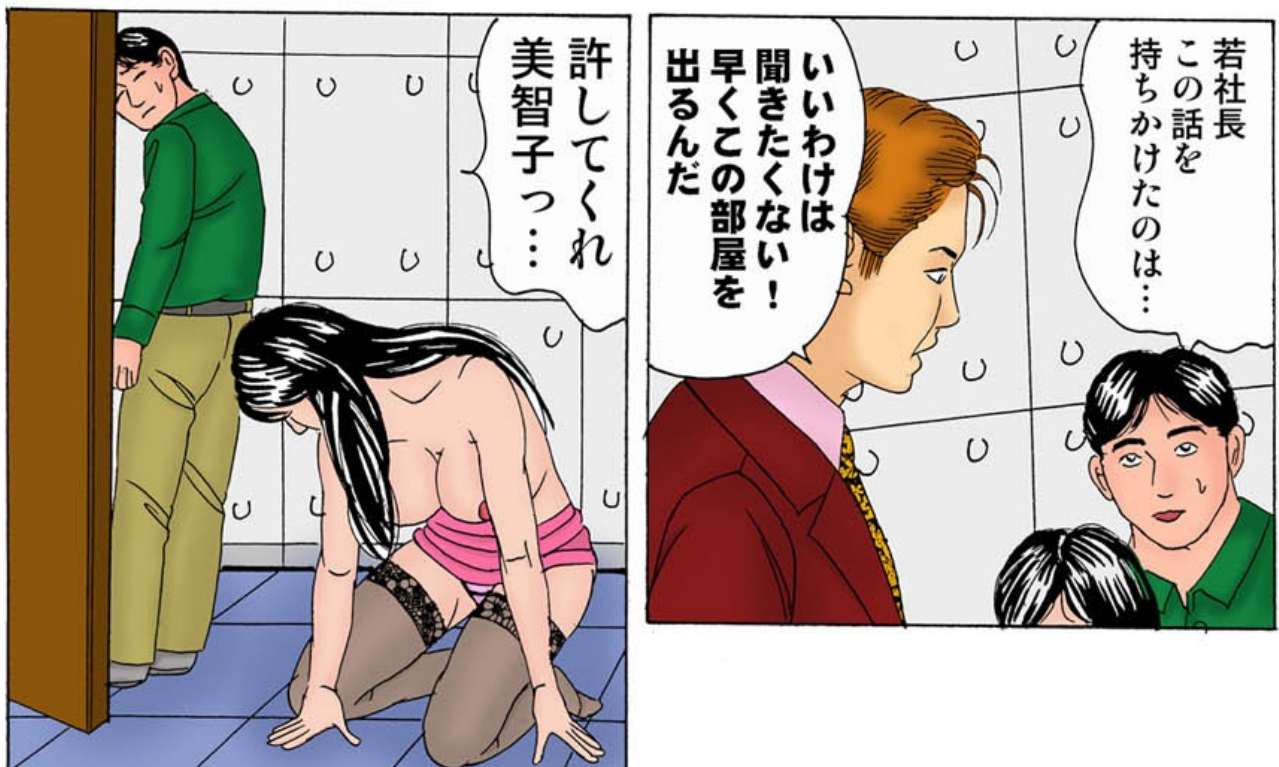
ここから  
出るんだ

そんな事  
したらあなたが  
告訴されて…

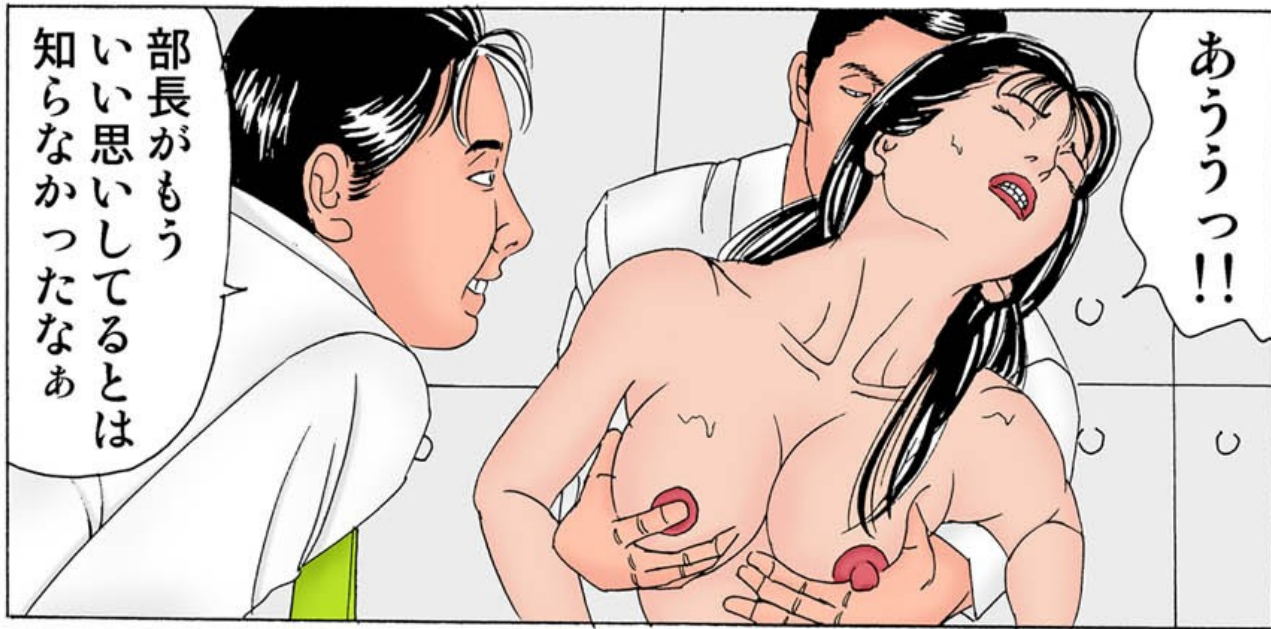


…あなたっ











奥さんと若社長のセックスを見てボクもどうしても奥さんを犯りたくなっただんですよ

やめてえーっ!!



あなたは主人の後輩じゃありませんか!!



実は先輩の家に遊びに行ってお会いた時から奥さんの裸を想像していたんです

特に奥さんのココはどうなってるのかなってね



へへへ  
まず形を  
調べてみますか



お願いっ…  
これ以上  
恥ずかしめないで…

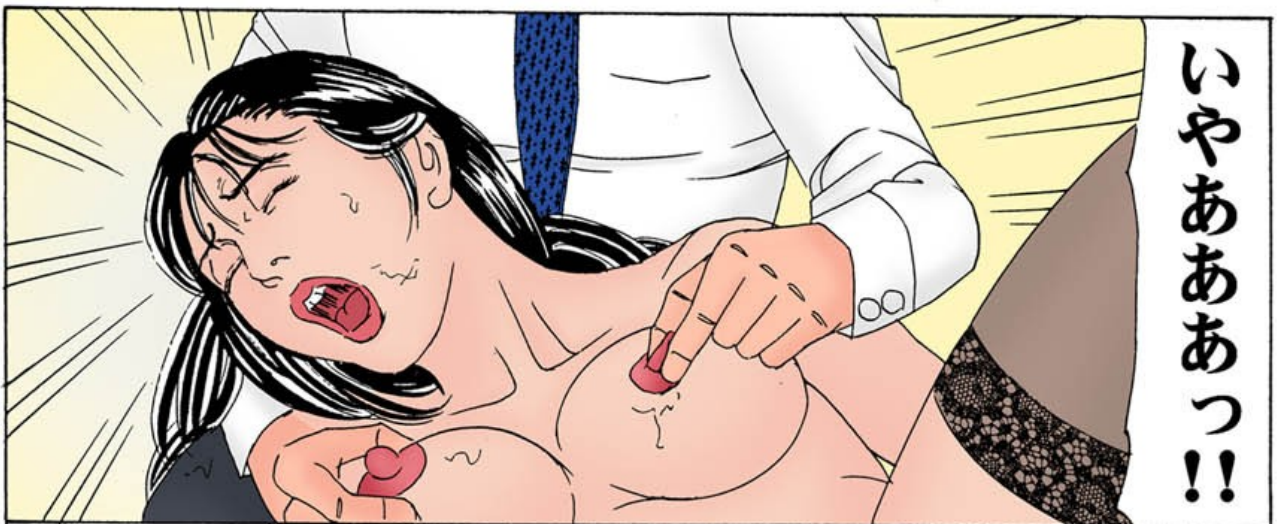
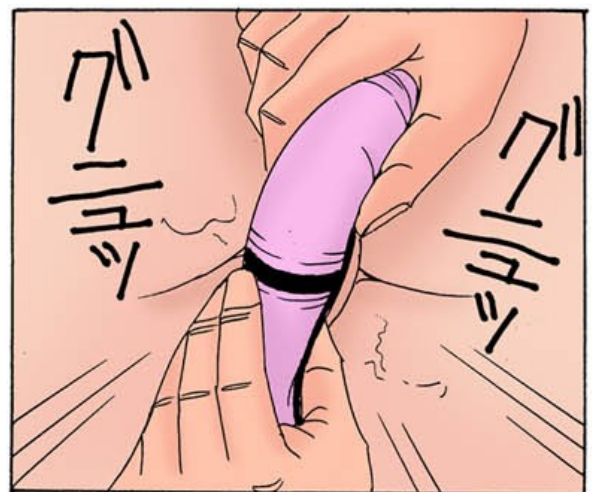
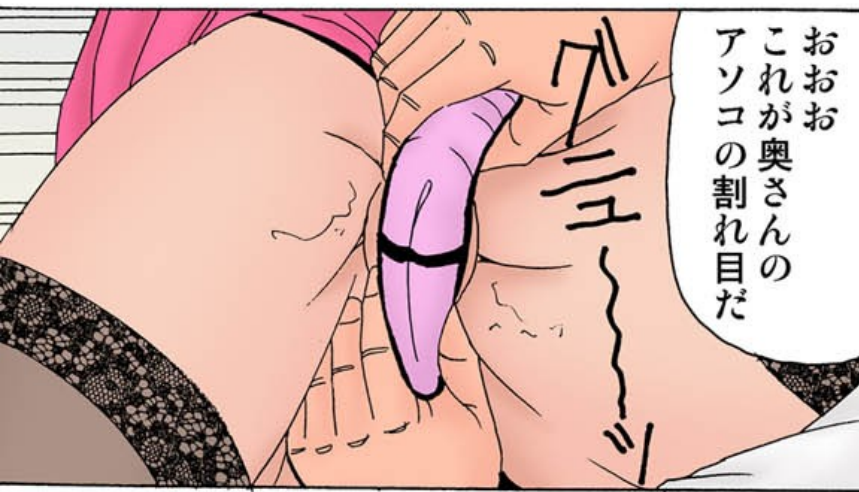


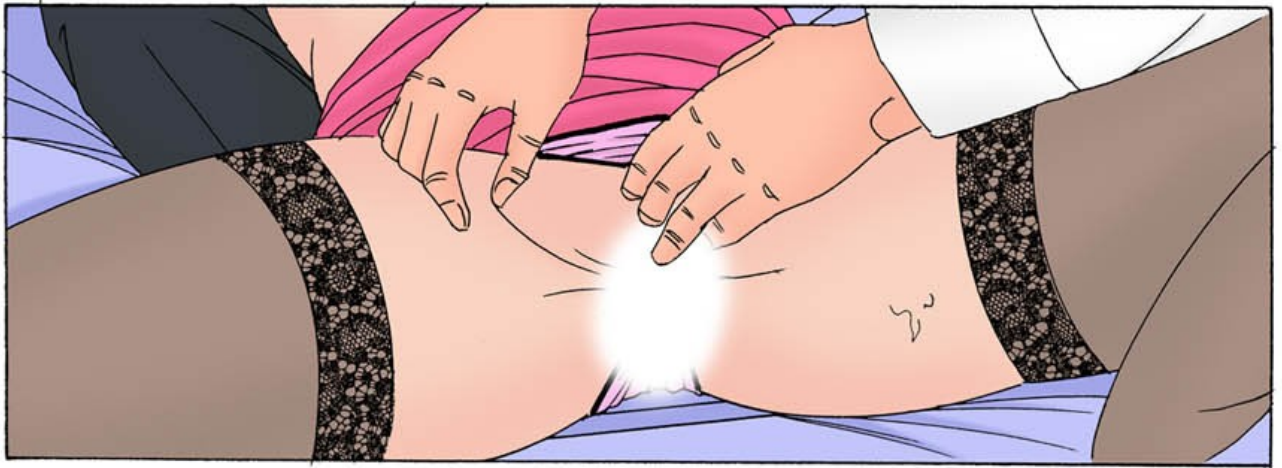
ひひひっ!!

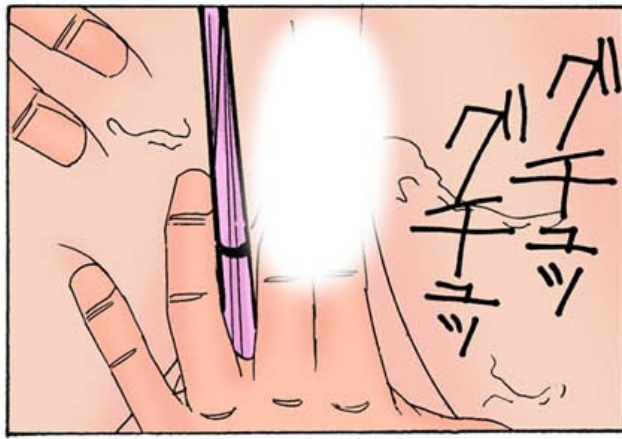
クニ  
ニ  
ヤ

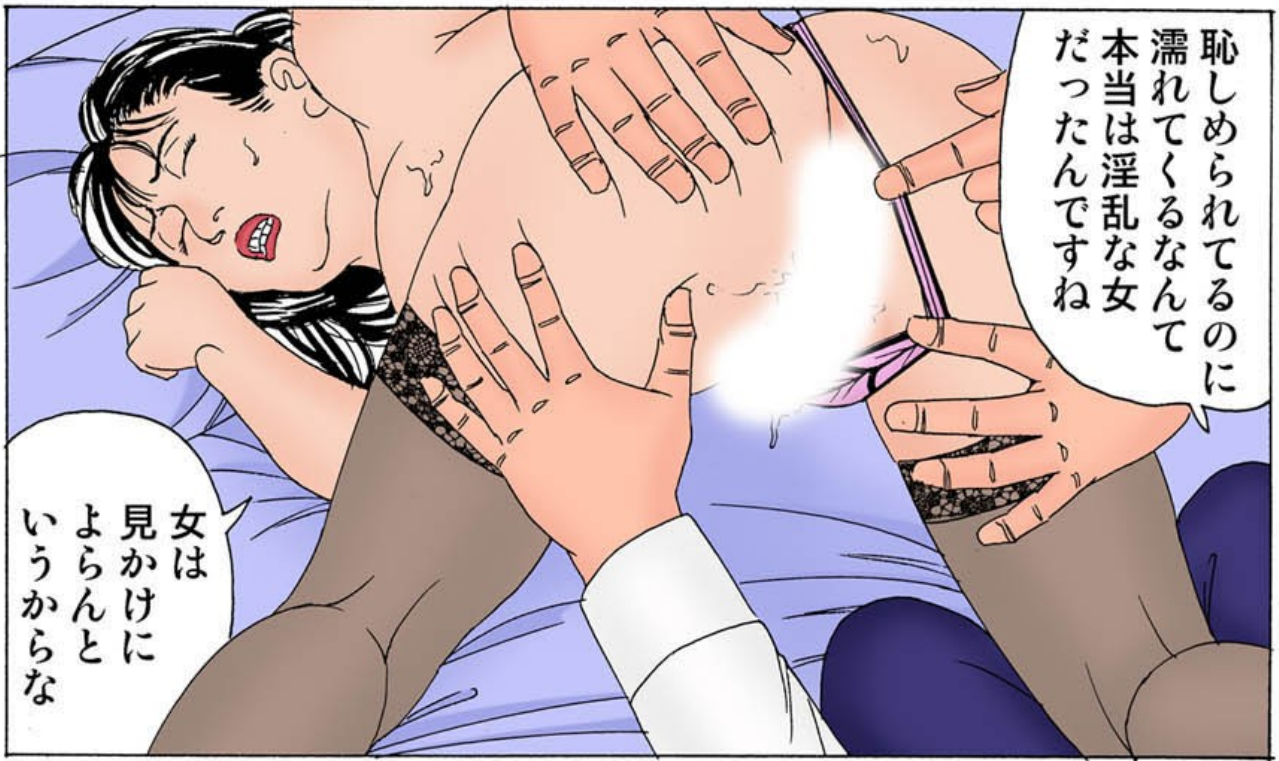


いやあ——っ!!  
さわらないでえええ

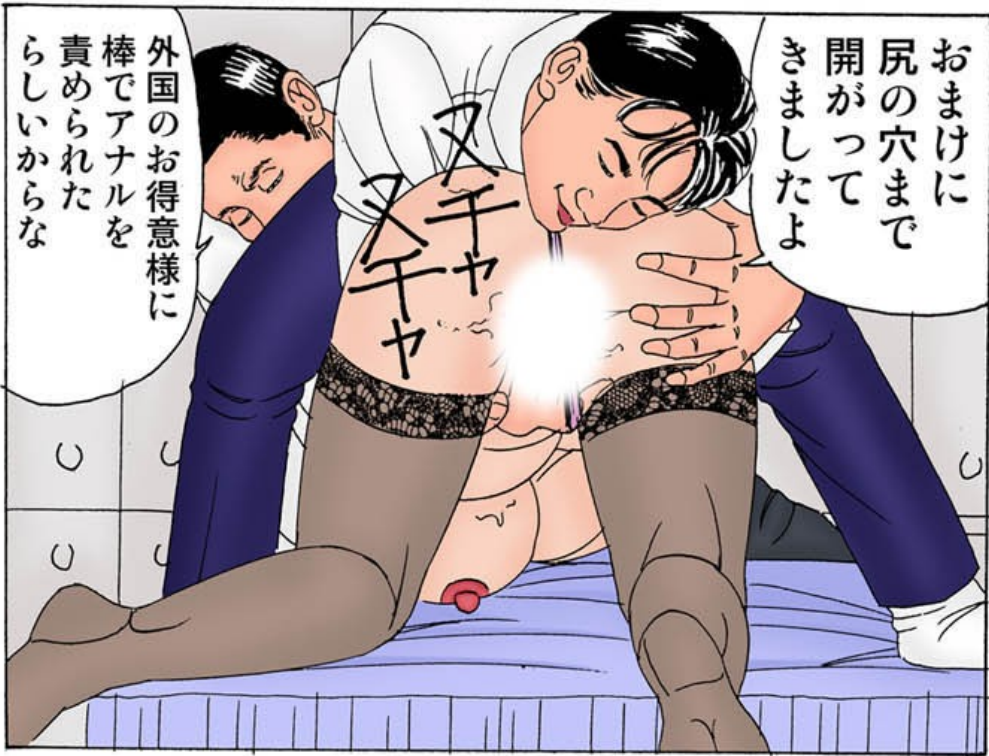




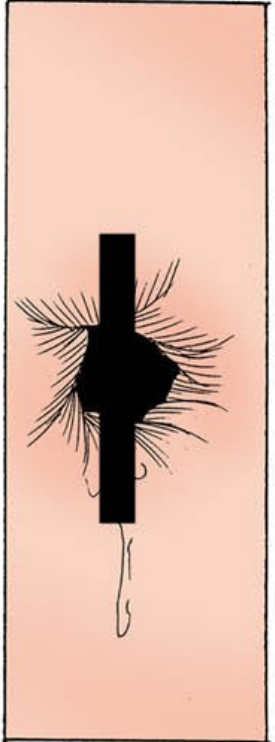




女は見かけによらんと  
いうからな



外国のお得意様に  
棒でアナルを責められたらしいからな



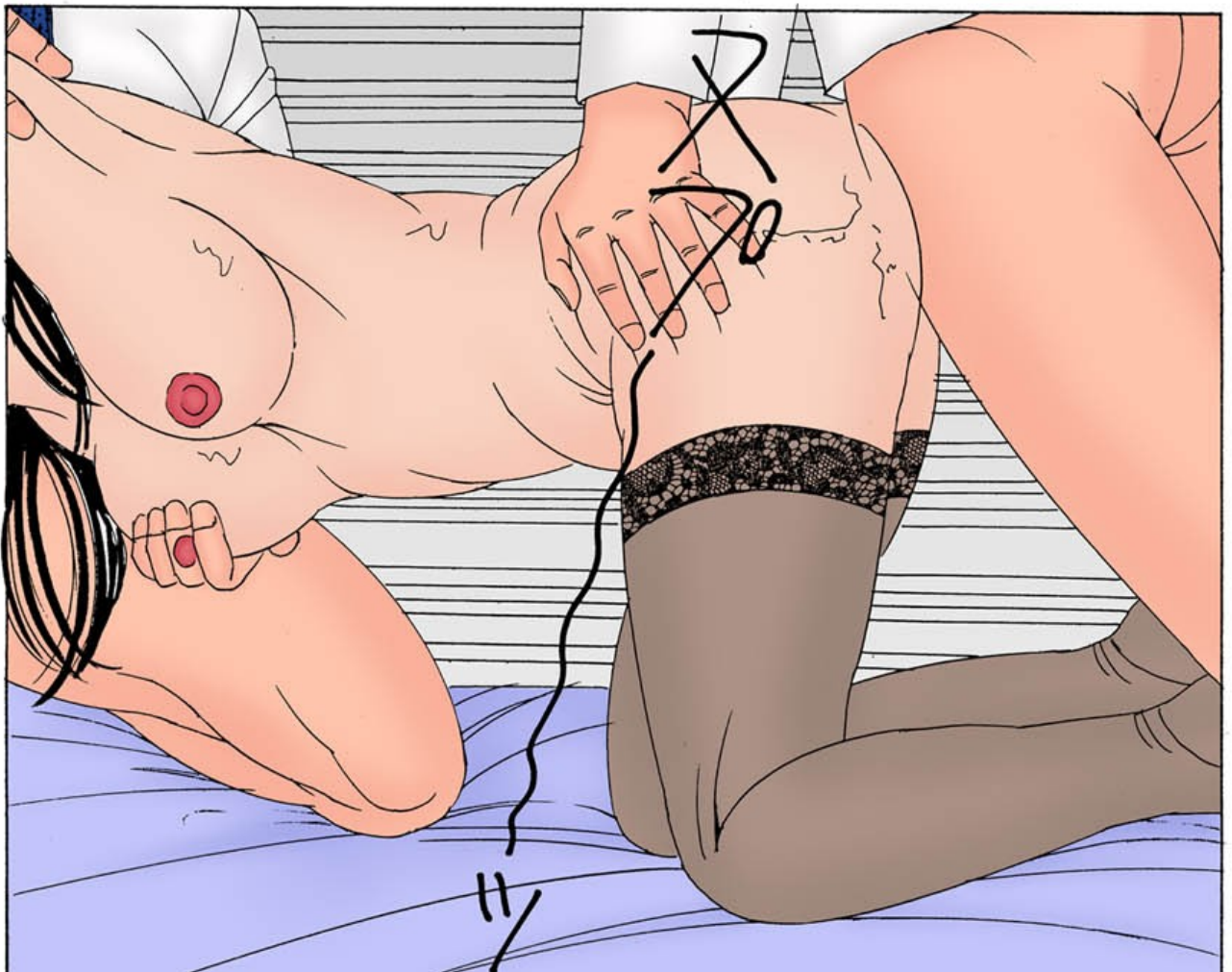


こんなに濡らしてよく言うよ



これ以上犯されるのはイヤですっ!!

ああっ!!  
いやあっ!!



ヒ



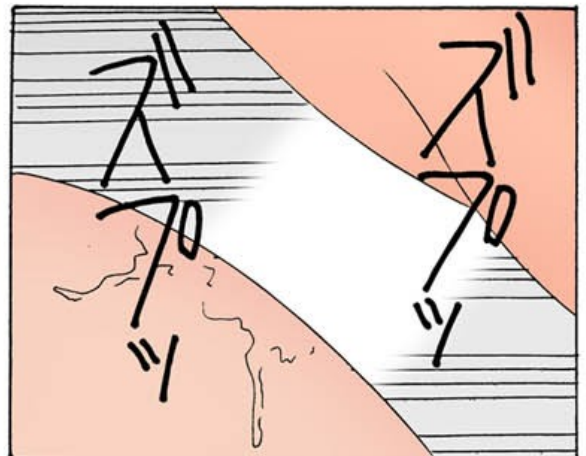
あいいく~~~~っ!!



やめてええく~~~~っ!!



濡れてるから  
カンタンに  
入っちゃった



ズッ  
ズッ



わしはセックスが  
禁止されてるからな  
またフェラで抜くぞ!

うげげっ!!

うげげっ!!

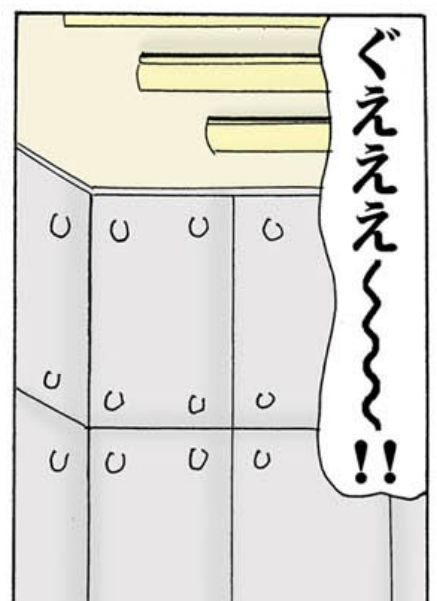


ぐえええく~~~~!!

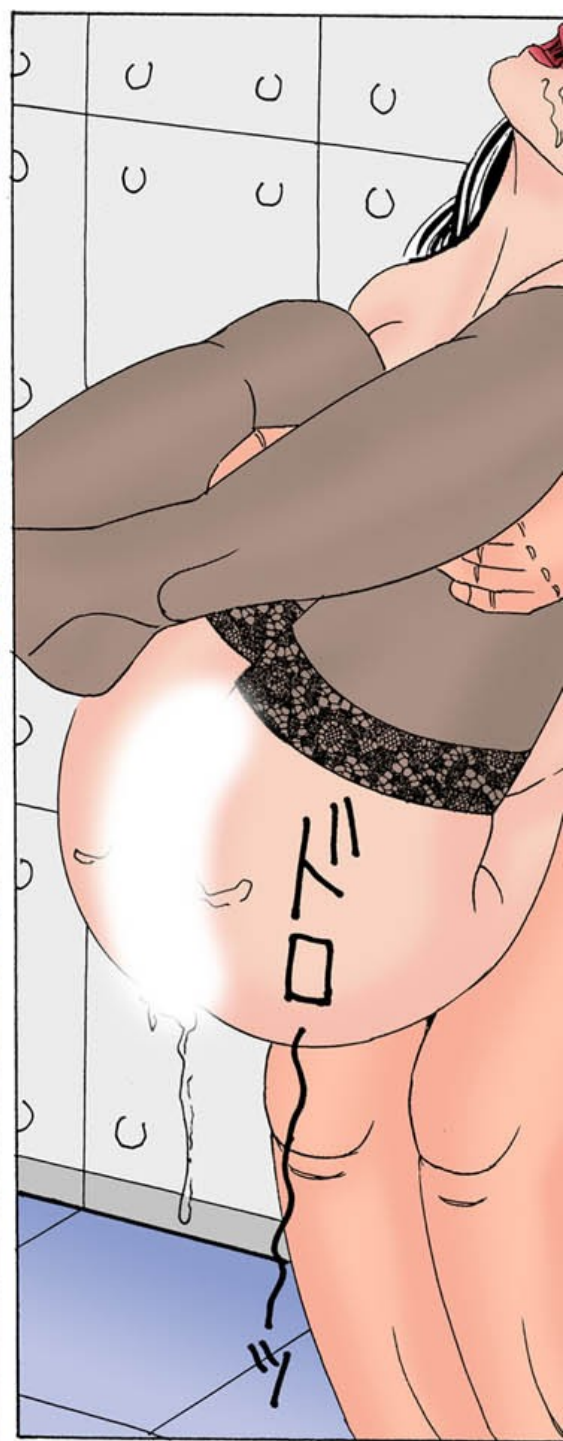




もういやあ——っ!!



ぐえええく~~~~!!





我社の  
大切な接待  
秘書なんだ  
からな



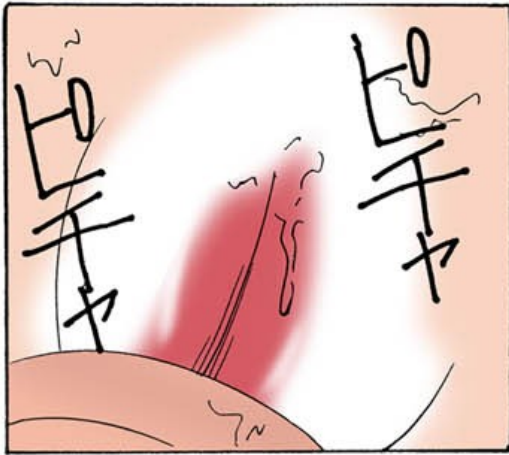
そこまで激しく  
やれとは  
言っていないぞ!  
調子にのるな!!



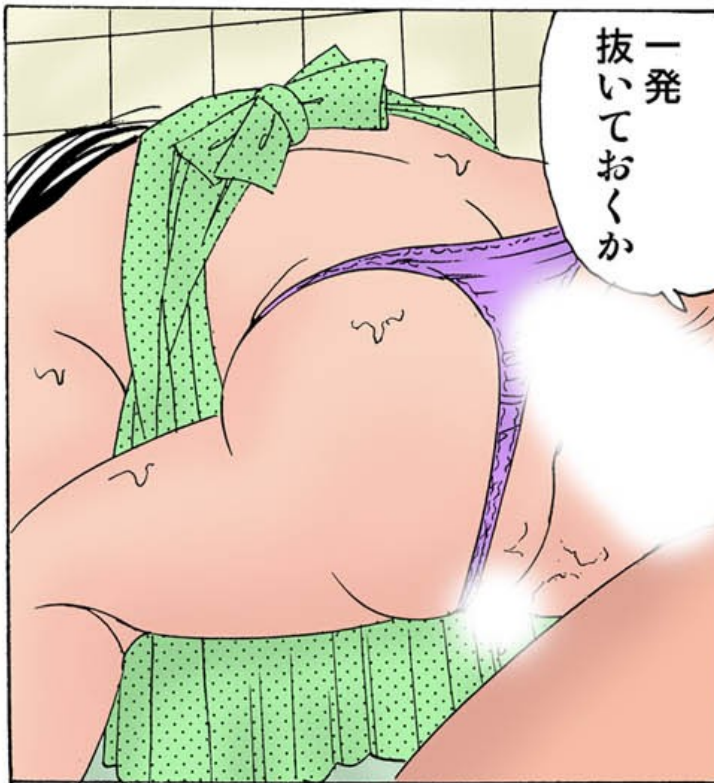
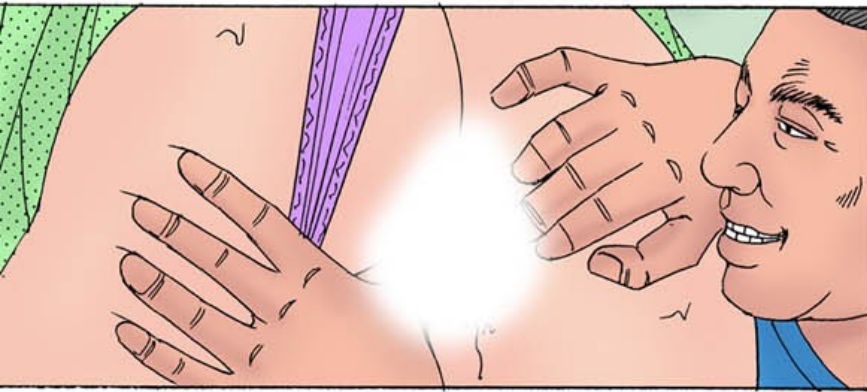
第6話

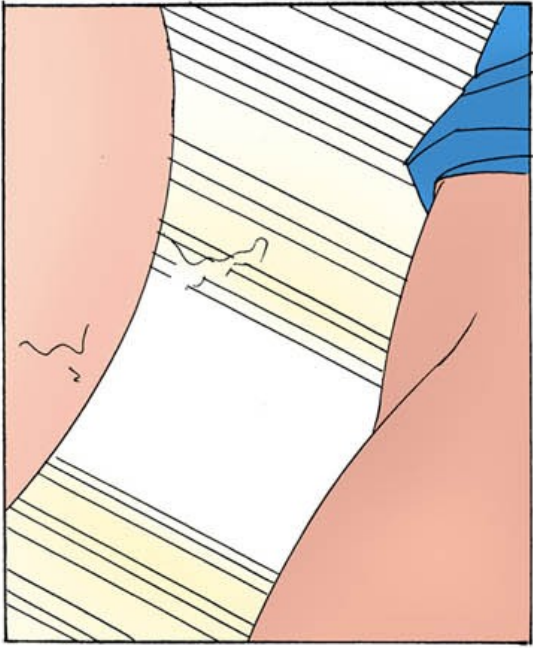
最後の強制奉仕





お前のココ  
まだキレイな色  
しとるじゃないか





お願いですっ  
犯すのだけは  
……







あひひ  
——  
っ  
!!



こんな事  
もう  
いやですっ!!

お願いっ!!  
やめて——っ!!





息子からの  
連絡で 今日  
大口のお得意様  
のみを招待  
しての  
パーティを  
行う事に  
なったそうだ



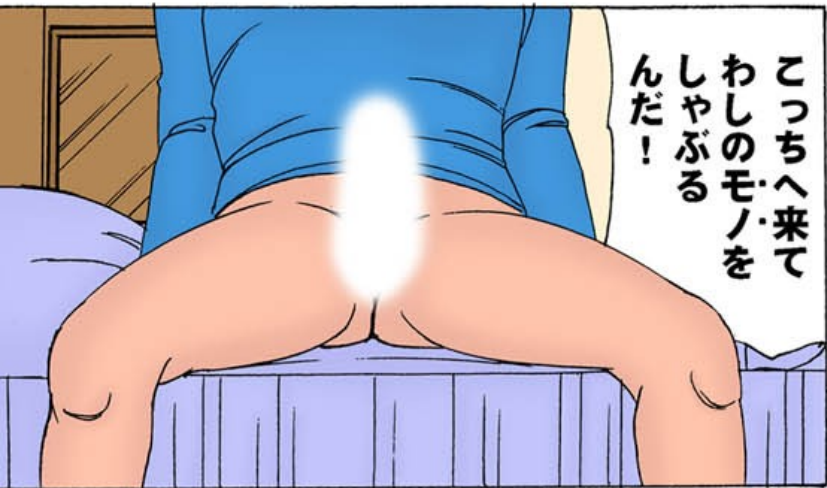
こっちへ  
来い!

残りの  
わずかな時間を  
楽しませて  
もらおうぞ



昼頃 お前を  
引き取りに  
来るそうだ

なんせ  
パーティの主演は  
お前だからな

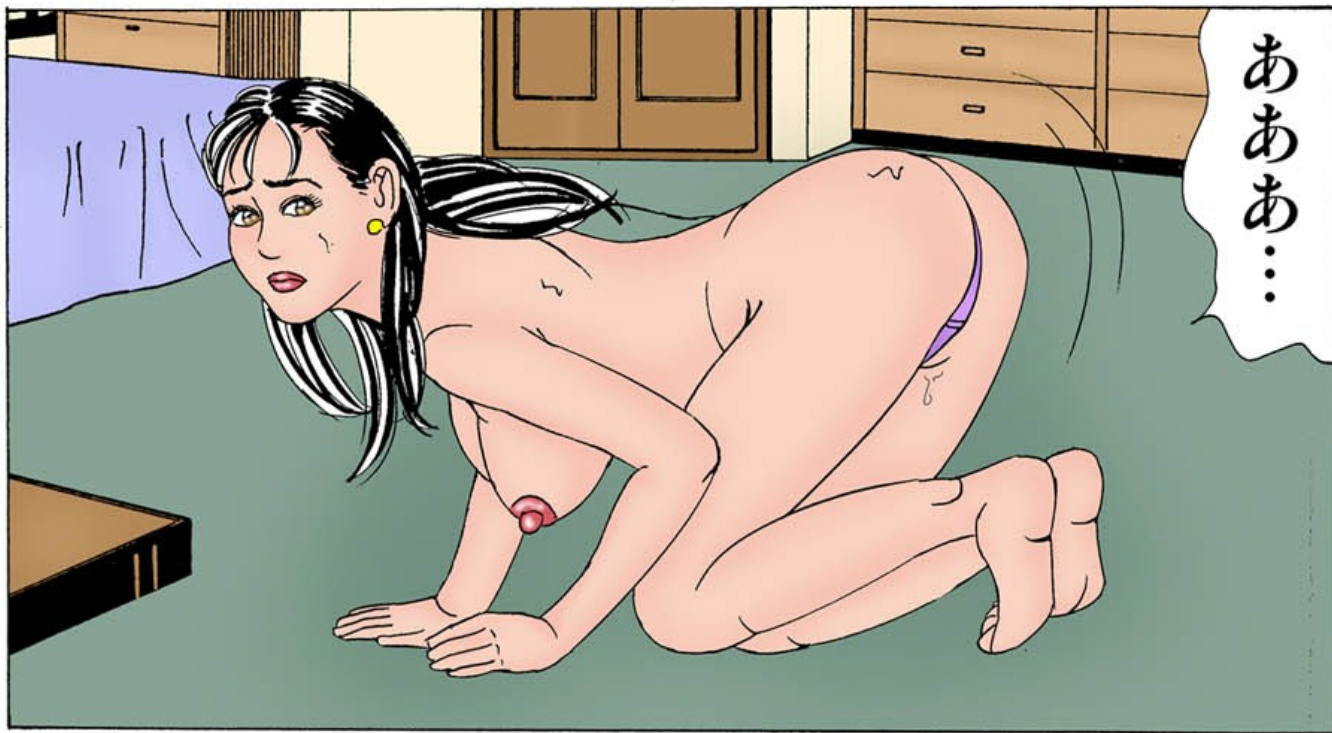


こっちへ来て  
わしのモノを  
しゃぶる  
んだ!



昨夜から  
寝ないで  
あなたの相手  
をしてクタクタ  
なんです…

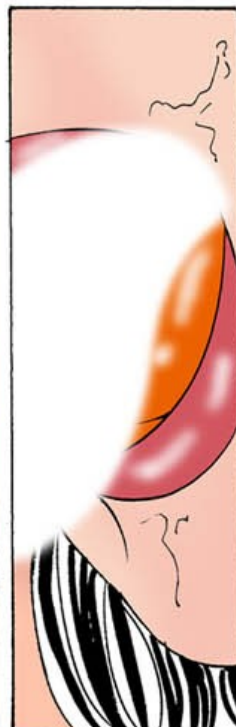
少し  
休ませて下さい



あああ…



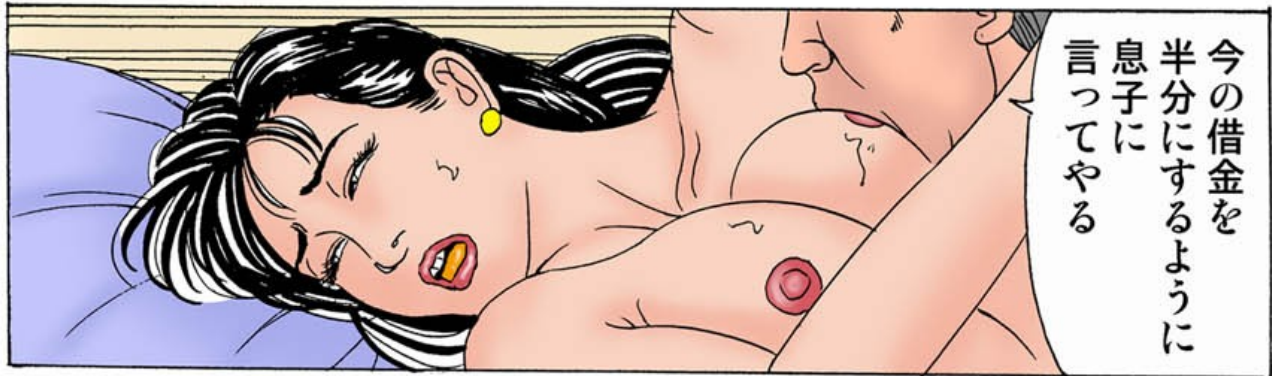




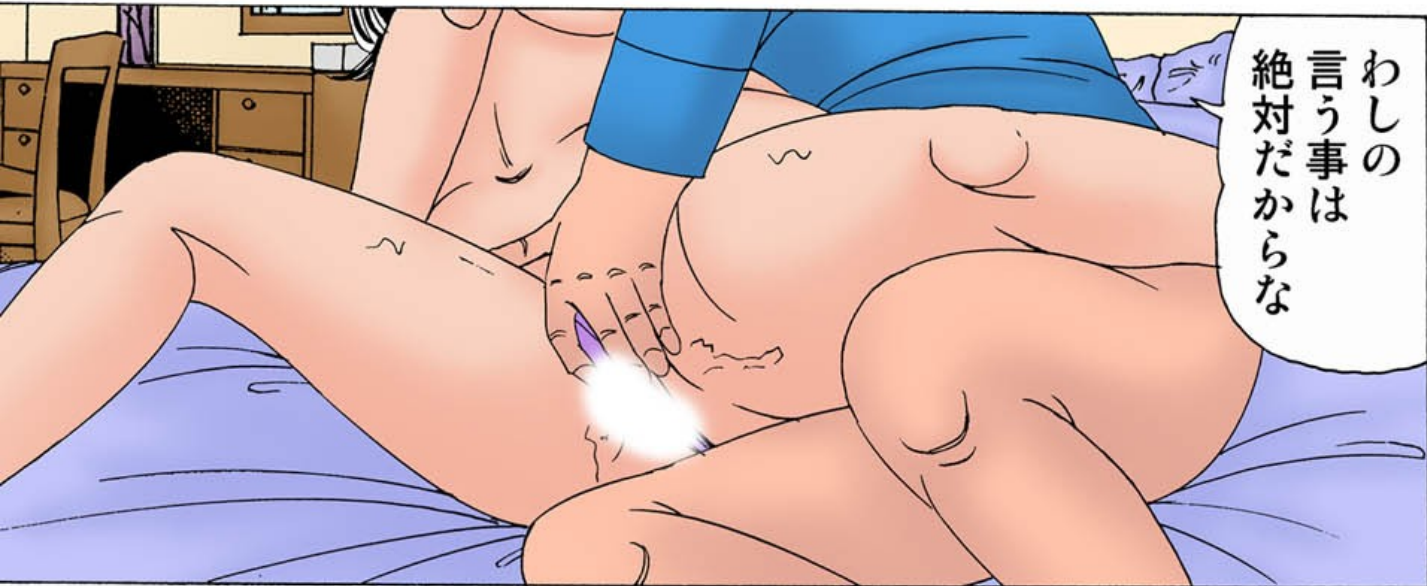


あああ：  
本当にもう  
許して下さい

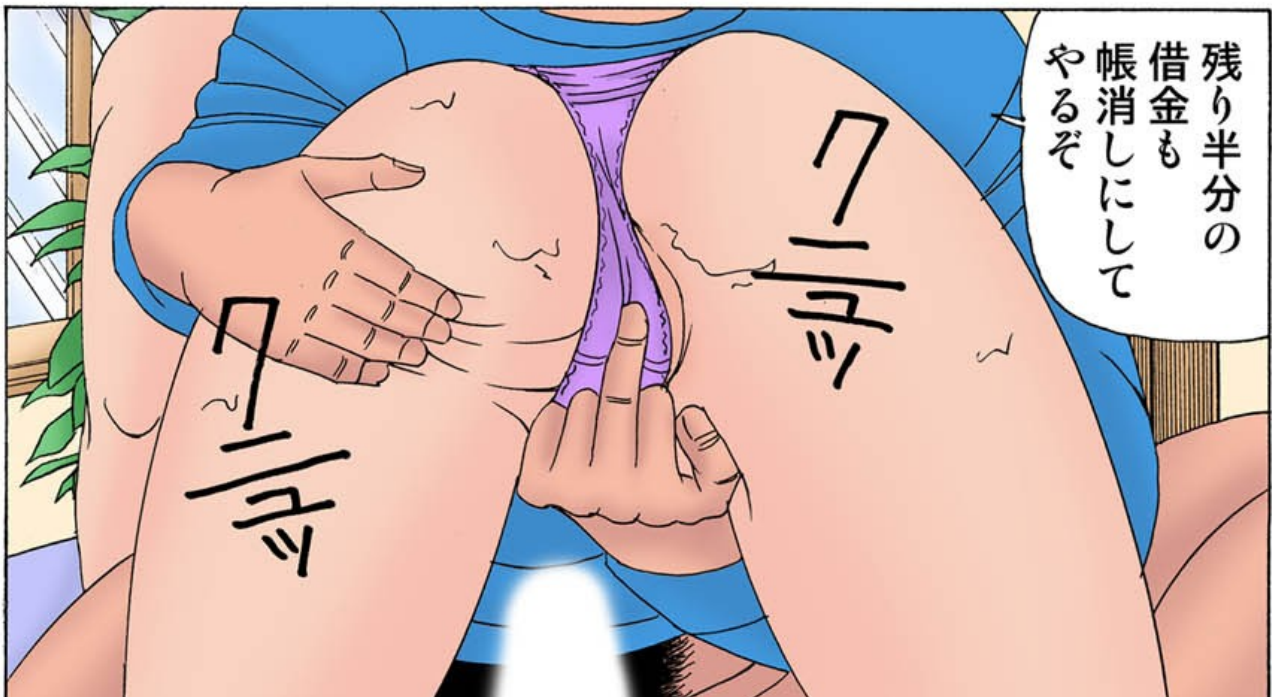
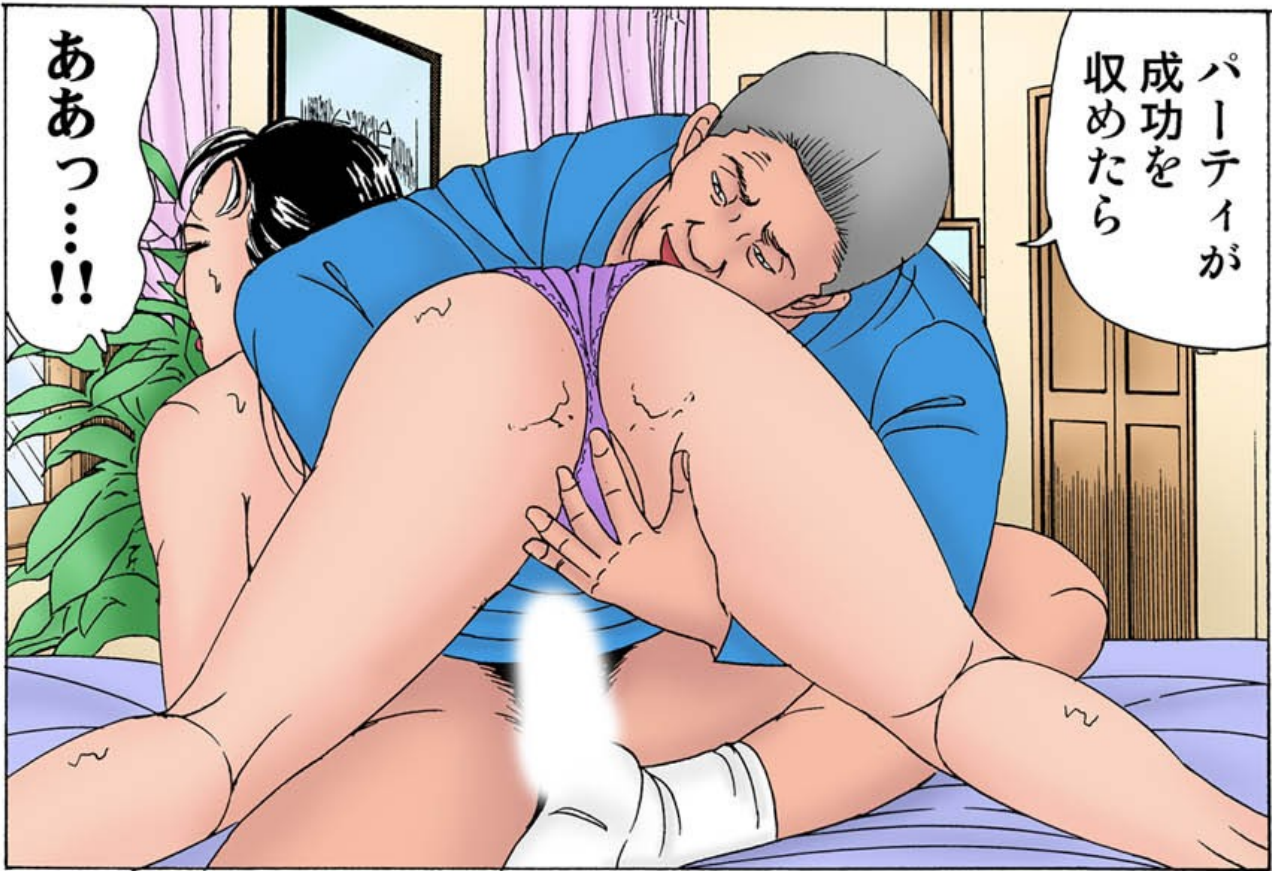
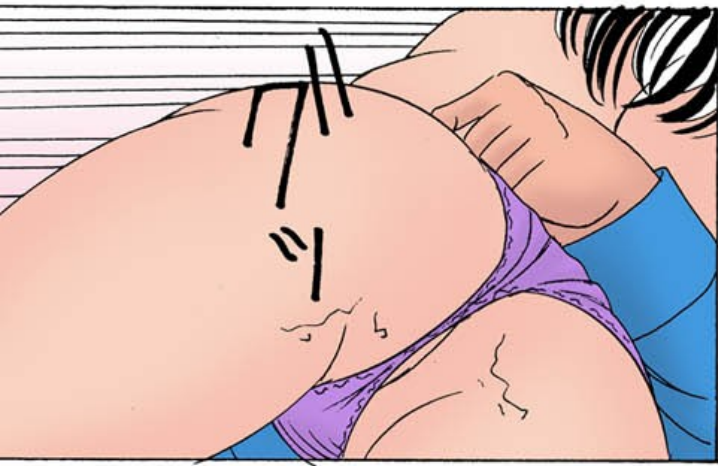
わしをまた  
いかせる事が  
出来たら

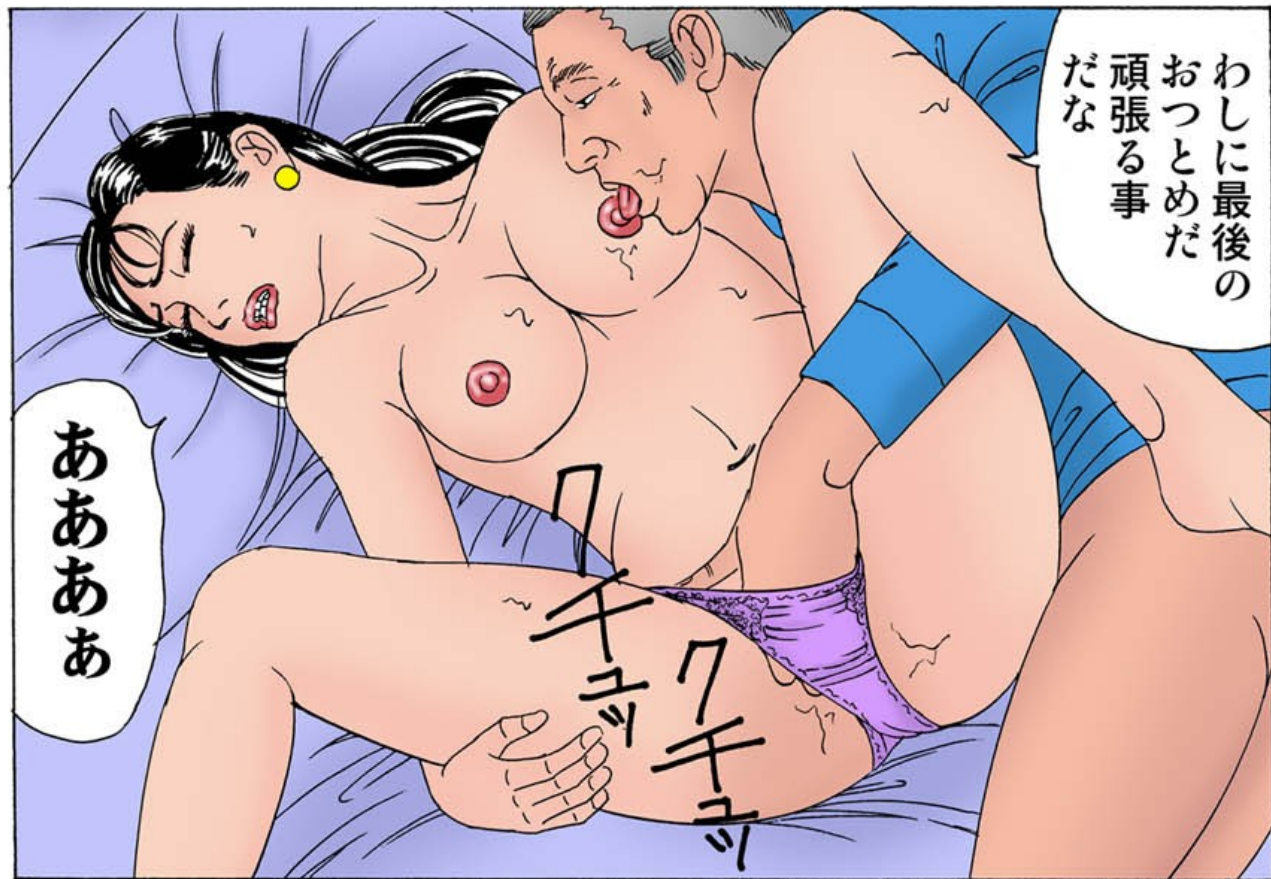


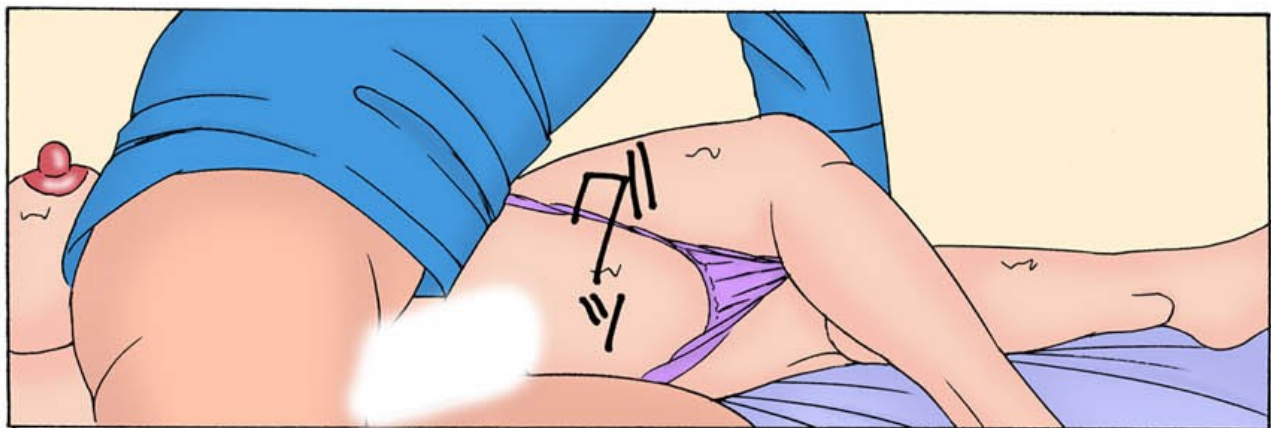
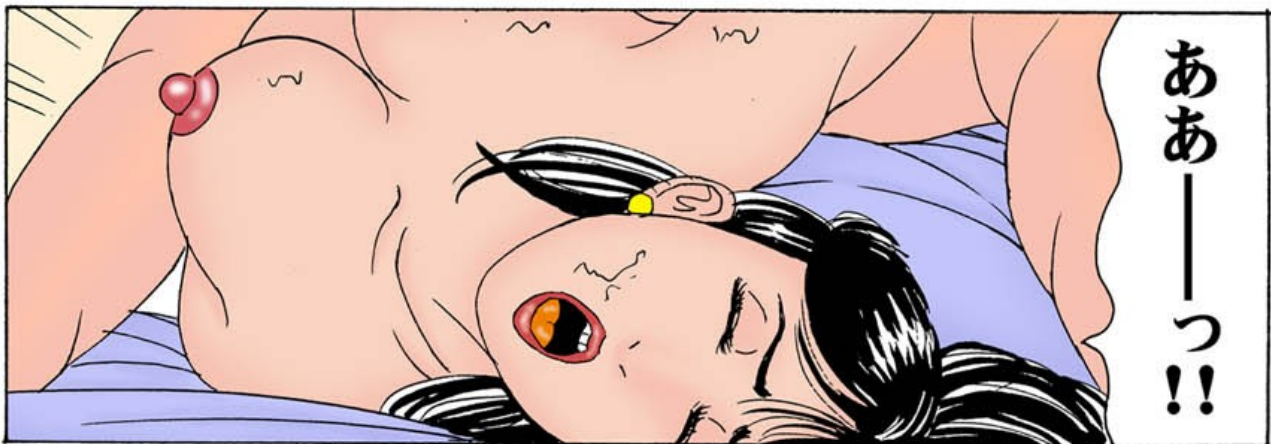
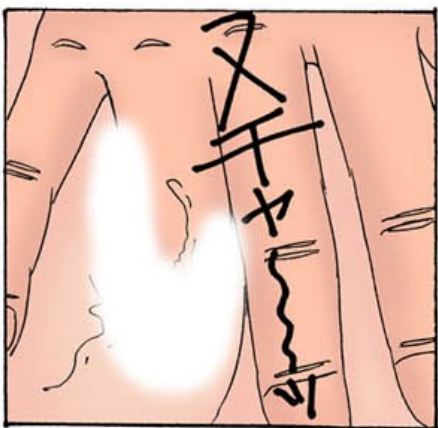
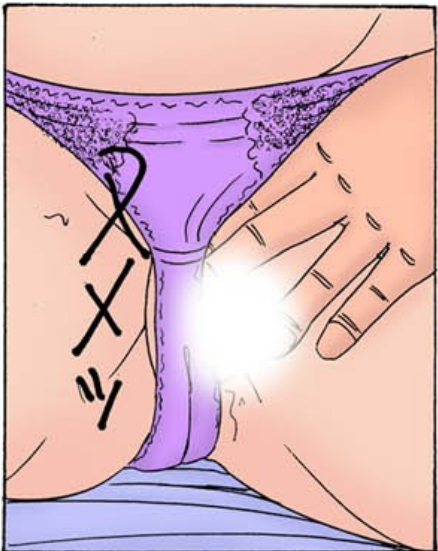
今の借金を  
半分にするように  
息子に  
言ってる

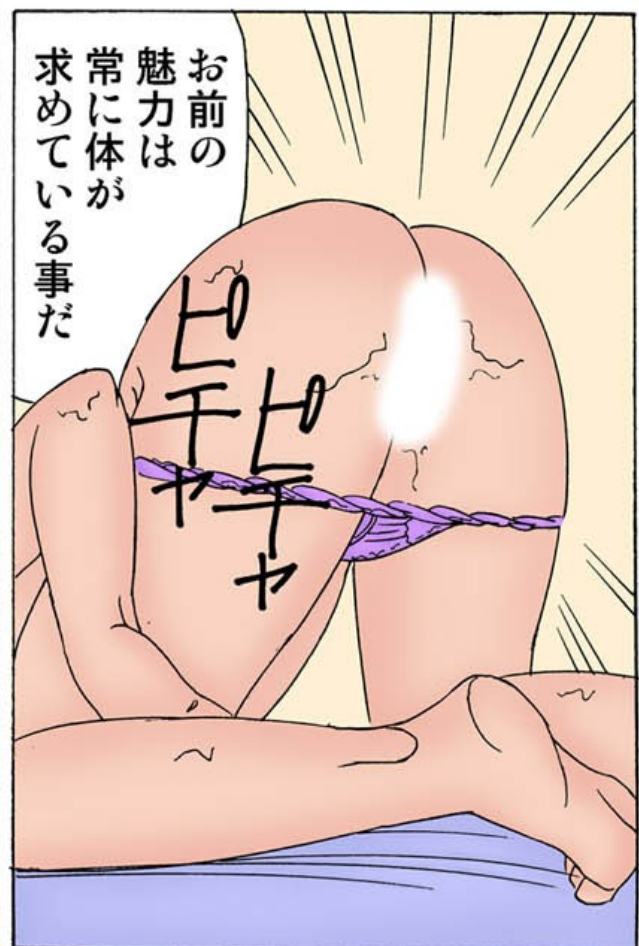


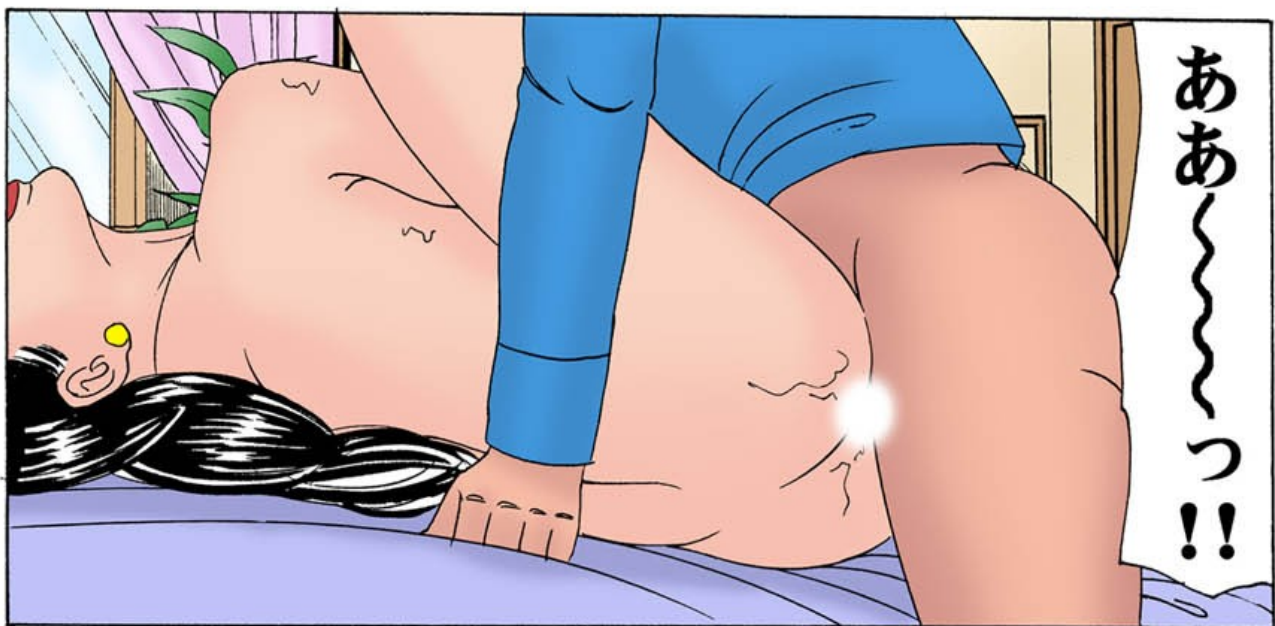
わしの  
言う事は  
絶対だからな

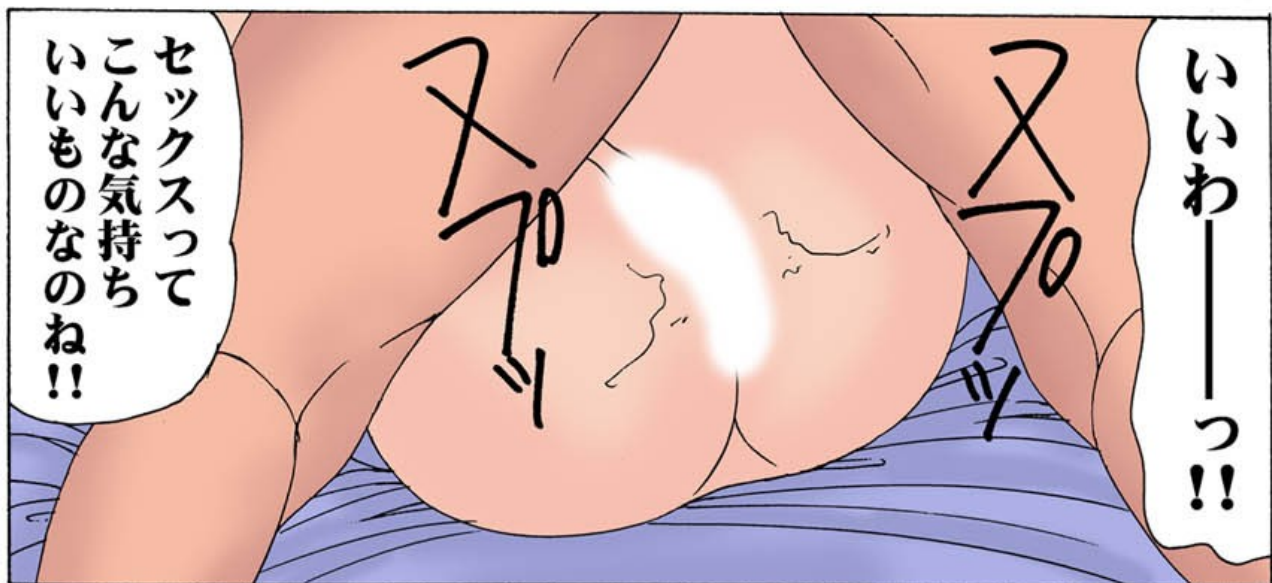
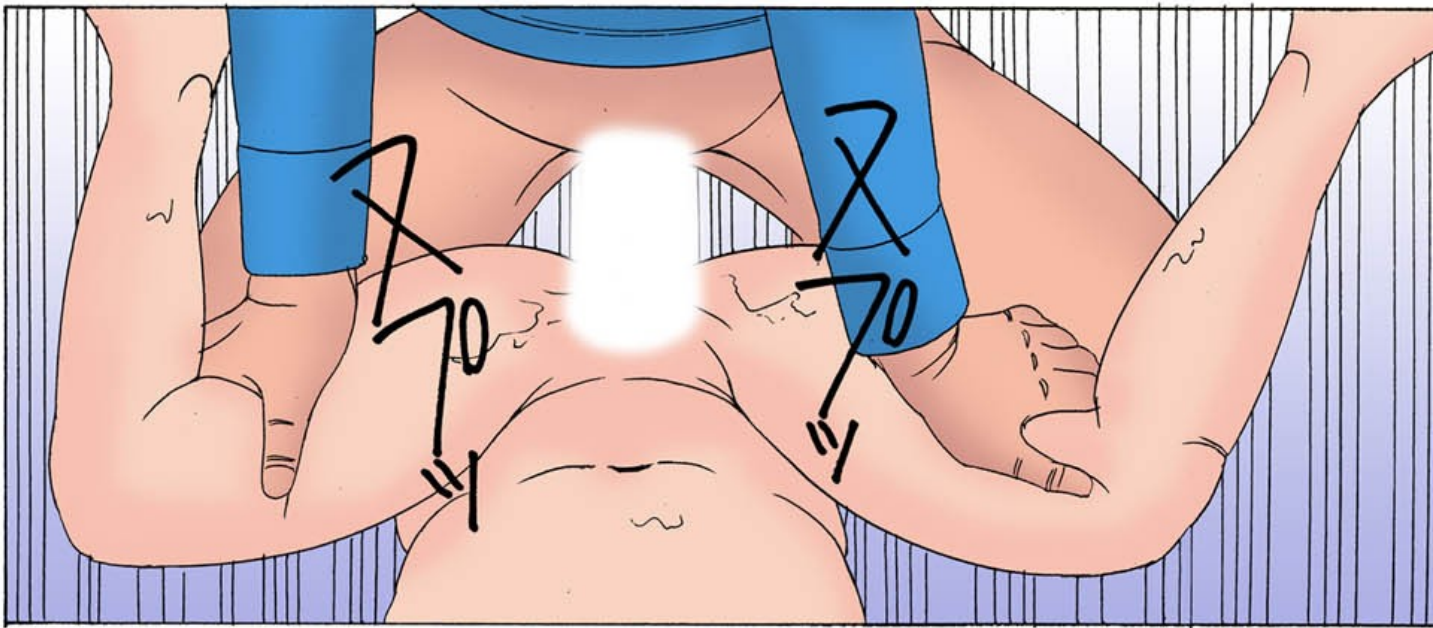




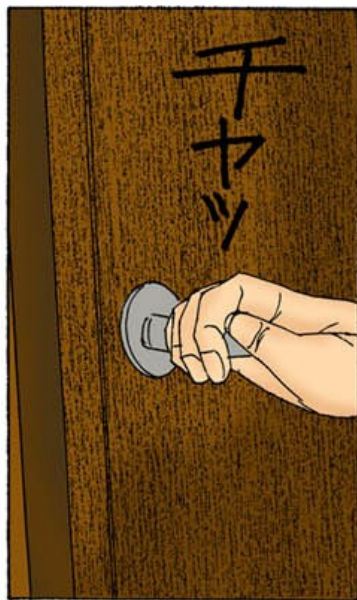
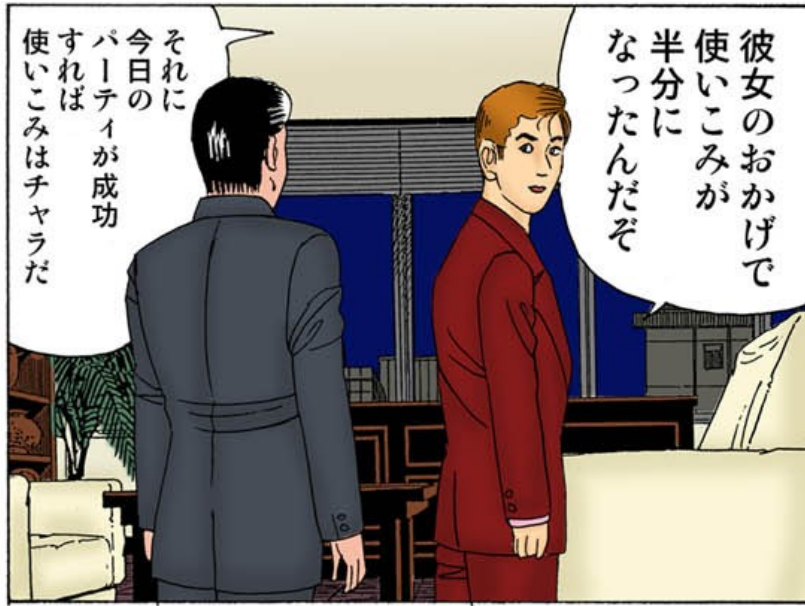




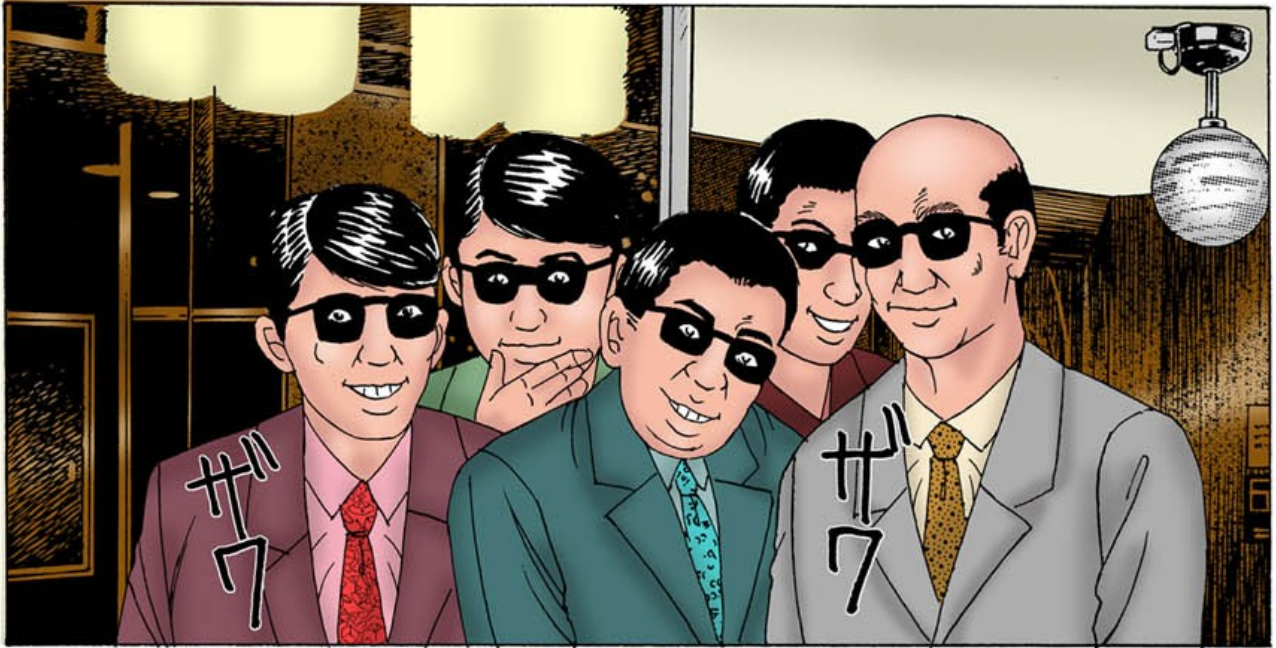






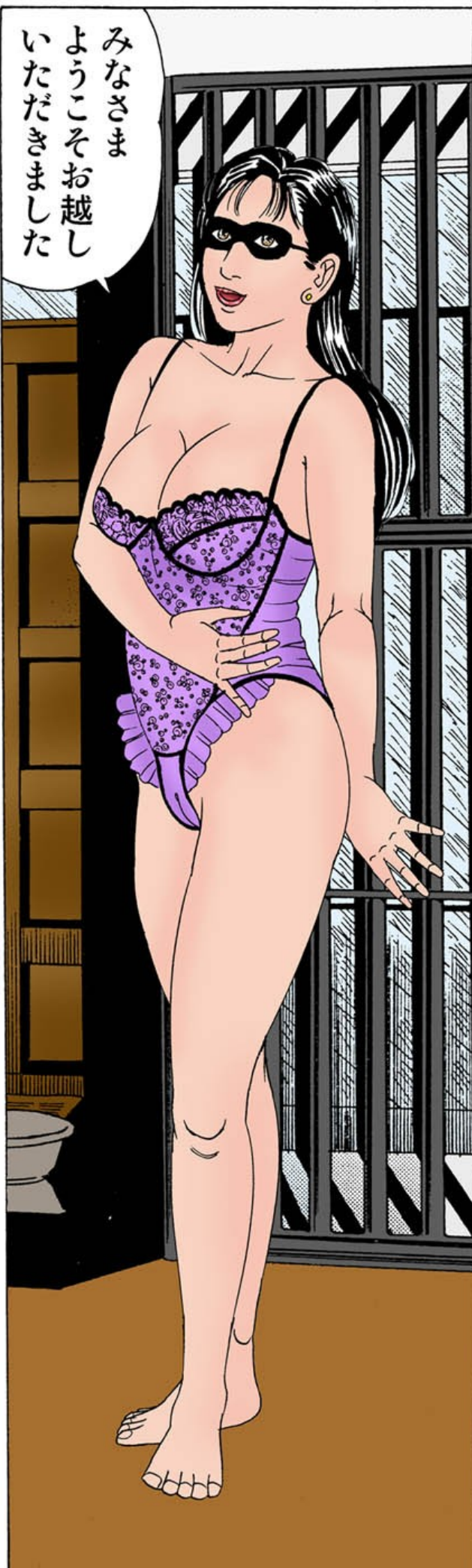


お得意様御一同





さっそく  
服を脱いで  
裸になって  
下さい



みなさま  
ようこそお越し  
いただきました



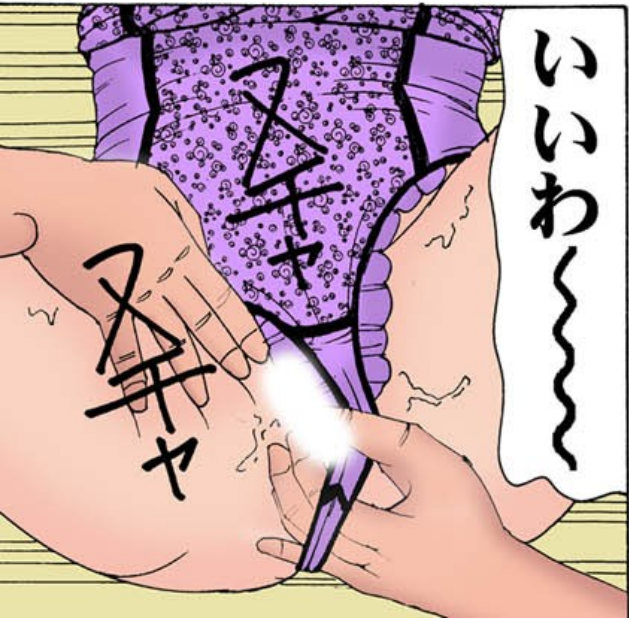
大いに  
気に入ったぞ！

これからも  
契約は  
続けるぞ

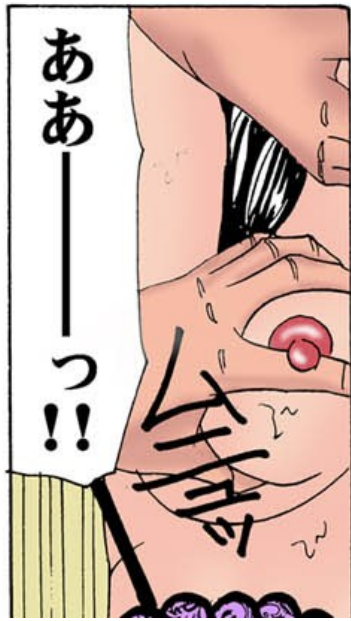
わしもだ！！



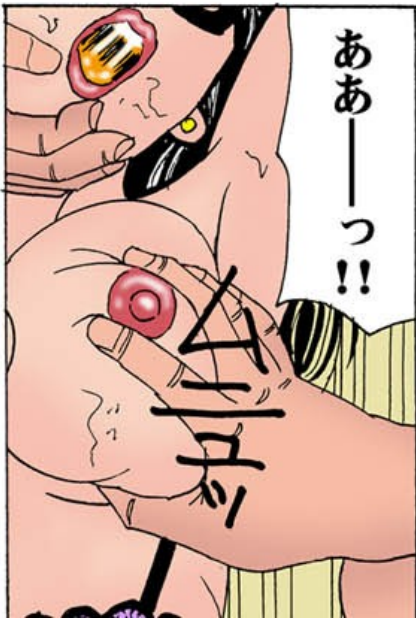
おめー  
くらっくらっ!!



いいわく〜



ああ——っ!!



ああ——っ!!

